

國務大臣 (人) 官位、
國家の
政務を掌る大臣

顧問官 (人) 官名、顧問
に
あづかる

子守女 (人) 子守をする
女

子持女 (人) 子のある女

公證人 (人) 政府にて定
め
おきたる
証人

御幣擔 (人) 物事にえん
ぎ
をいふ性
質ある人の稱

詞敵 (人) 話し相手

子供醫者 (人) 子供の
病を療
治する醫者

聲色遣 (人) 俳優のせり
ふの
音聲を
まねる人

骨董商 (人) 骨董を商ふ
人

購讀者 (人) 新聞雜誌な
どを
買求め
て讀む人

腰辨當 (人) 小官吏を罵
りて
いふ

戀煩 (人) 戀ひこがれて途
に
病とな
れるも

極惡人 (人) 極めて惡し
き人

胡麻鹽頭 (人) 白髪の
まじり
たる頭

口蓋骨 (人) 鼻腔の左右
後側
壁にあ
る骨

骨膜炎 (内) 病名、骨膜
の腫
脹疼痛
するもの

喉頭加答兒 (内) 病
名
喉頭の腫れ痛むもの

裔 (人) 子孫

繪師 (人) 繪を書くを業と
する人

襟 (人) 首の後の部分

嬰兒 (人) あかこ

縁家 (人) 親類。ゆかりあ
る家

繪書 (人) 「エシ」に同じ

驛夫 (人) 鐵道の停車場に
お
いて雜務を執る

役夫 (人) 人夫のこと

笑顔 (人) 笑を含める顔

圓顛 (人) 坊主頭

縁邊 (人) 縁家のこと

縁類 (人) 親類のこと

縁者 (人) 親類の人

遠類 (人) 親類の縁の遠き
もの

遠族 (人) 縁の遠き一族

遠裔 (人) 遠き末の子孫

英人 (人) 英吉利國の人

英傑 (人) 極めてすぐれた
る人

英主 (人) すぐれたる天子

英哲 (人) すぐれてかしこ
き人

英物 (人) すぐれたる人物

英邁 (人) すぐれどくかしこ
き人

英雄 (人) 萬人にすぐれた
る人

選人 (人) えらび抜きたる
人

繪圖引 (人) 繪圖を引く
を業とする

選者 (人) えらびとる人

園主 (人) 園の主人

園丁 (人) うゑきや

益友 (人) わが身の益とな
る友人

易者 (人) うらなひをする
人

延髓 (人) 後頭の頭のあた
り

襟足 (人) 項の髪のはえぎ
は

襟首 (人) 襟足(ヘアアシ)
「ウナシ」の部
を見よ

英俊 (人) すぐれたる人

榮職 (人) ほまれ職

榮爵 (人) ほまれの爵

英文家 (人) 英文に達せる人

厭世家 (人) 厭世の心を起せる人

驛長 (人) 鐵道の停車場の長官

遠視眼 (人) 眼の病の名

疫病 (人) はやりやまひ

圓頂 (頭) 坊主頭

蝦茶式部 (人) 女學生の異名

【て】

手 (肢) 兩肩より長く出でたる肢

帝 (人) みかど

弟 (人) おとうと

弟子 (人) 師に従ひ教を受くる人

丁 (人) めしつかひ

貞 (人) 女のみさを

出目 (頭) 人の眼の尋常より高く出でたるもの

出齒 (頭) 前齒の前方へ反り出でたるもの

體 (體) かたち。すがた

臀 (體) しり

貞婦 (人) みさをのただしき婦女

嫡母 (人) 父の本妻

嫡子 (人) 「チャクシ」の部を見よ

天子 (人) 天下の主

殿下 (人) 皇族の尊稱

帝師 (人) 天皇の師とし給ふ人

典侍 (人) 官位、女官の名。内侍の次に位す

手合 (人) なかま

手取 (人) 他をあやなすに巧なる人。技に巧なる人

手書 (人) 文字を巧に書く人

手掛 (人) 妾(メカケ)めの部を見よ

手代 (人) 商家にて番頭と丁稚との間に使はるるもの

丁稚 (人) 商家に召使ふ少年

寺子 (人) 寺子屋に入りて學びぬる子供

手長 (人) 手の極めて長き人。盗みをする

天師 (人) 驗術に巧なる道人の稱

田夫 (人) ぬなかもの

手下 (人) 己が使ふくみした

手著 (人) てかき。やりて

手人 (人) 手下の人

遞夫 (人) 物を運送する人

逮部 (人) 官位、罪人を召取る役人

涕泗 (頭) 涙とはなしると

晴耳 (頭) みみだれ

手相 (肢) 手の筋に現はるる相

手筋 (肢) 手の筋

手先 (肢) 手のさき

手首 (肢) 手の先の掌と腕とつながる所

臀部 (體) 臀に同じ

嫡孫 (人) ちやくそん

嫡妻 (人) 本妻

父親 (人) ちち

帝胤 (人) 天皇の御たれ

帝系 (人) 天皇の御系統

帝主 (人) みかど

貞女 (人) 貞節(テイセツ)のみさをただしき

貞操 (人) 女のみさを

貞心 (人) ただしき心

貞臣 (人) 心ただしく忠義なる家來

提督 (人) 官位、艦隊などの總督

丁壯 (人) 年若くさかりなる人

丁年 (人) 一人前になれる女は十七歳。男は廿一歳

弟妹 (人) 弟と妹と
 偵人 (人) しのびのもの
 廷丁 (人) 裁判所の事を取
 亭主 (人) 家の主人。商家
 泥工 (人) かのべり
 手傳 (人) 他の仕事を助く
 鐵工 (人) かじや
 哲人 (人) かしこき人
 田主 (人) 田の持主
 點者 (人) 歌會などにて、
 歌の評點をつく
 る役の人

典獄 (人) 官位、監獄のこ
 とを掌る役
 典主 (人) 質屋の主人
 店主 (人) 店の主人
 店員 (人) 商店に勤務する
 手者 (人) わが手に率ゐる
 敵手 (人) あひて
 出戻 (人) 嫁したる婦の難
 に歸りぬるもの
 出額 (人) 高く出でた
 天邊 (人) 頭の上
 涕淚 (人) なみだ

手甲 (人) 手のおもて
 手筋 (人) 掌にある筋
 泥匠 (人) さくわん
 亭長 (人) うまやの長。
 寺男 (人) 寺院に奉公して
 する人
 田地持 (人) 多くの田地
 人
 傳道師 (人) ヤソ教の布
 癲狂 (人) きちがひ
 篆刻師 (人) 篆刻を業と
 する人

無父子 (人) 父親なき子
 出過者 (人) さしでがま
 溺死人 (人) 水に溺れて
 死にたる人
 遞信大臣 (人) 官位、
 遞信省
 手不入娘 (人) きむす
 天文学者 (人) 天文学
 蹄鐵工 (人) 蹄鐵の製造
 鐵砲鍛冶 (人) 鐵砲を
 製造す
 鐵道工夫 (人) 専ら鐵
 道普請
 に従事する工夫

田夫野人 (人) おやな
 田舎漢 (人) 田舎人(デ
 シ)なつかもの
 天然痘 (人) 疱瘡のこと
 兄 (人) 同じ親に生れたる男
 子の先きに生れたる
 姉 (人) 同じ親に生れたる年
 上の女
 尼 (人) 比丘尼のこと
 蟹 (人) 海にて漁りを業とす
 勝 (人) あぎと。おとがひ

汗 (人) 體の熱したる時皮膚
 より出る水
 足 (人) 體の下部の肢
 愛子 (人) 愛兒(アイツ)か
 主人 (人) 家のぬし
 兄君 (人) 兄の尊稱
 兄御 (人) 他人の兄の尊稱
 姉御 (人) 他人の姉を呼ぶ
 尊稱
 跡目 (人) あとつぎ
 啞者 (人) あふし
 相手 (人) 相共に事をする
 人。片方の人

按摩 (あんま) (人) 身體をもみさす
すること又は其人

阿黨 (あとう) (人) なかま

惡徒 (あくど) (人) 惡黨のこと

惡婆 (あくば) (人) 心のよからぬ女

飴屋 (あめや) (人) 飴を賣る人

阿伊奴 (あいな) (人) 蝦夷人種の稱

口頭瘡 (くちうそう) (頭) 口邊に生ずる小瘡

脂 (あぶら) (體) 體中より出る滑なる液

痱子 (あせ) (體) 暑中汗によりて
腫物 肌に生ずる小瘡

愛孫 (あいそん) (人) かはゆく思ふ孫

愛女 (あいぢよ) (人) かはゆく思ふ娘

愛婿 (あいせい) (人) かはゆく思ふむ

愛臣 (あいしん) (人) 寵愛する家來

兄上 (あにうへ) (人) 兄を尊びていふ

嫂 (あによめ) (人) 兄の妻

兄分 (あにぶん) (人) 假に定めたる兄

兄弟子 (あにでし) (人) われより先
につきて學べるもの

後押 (あとおし) (人) 車の後より押す

後肩 (あとかた) (人) 物を擔ふ時棒の
後方なかつぐ人

後釜 (あごがま) (人) 人員のかけた入
る人 時にその後に入る

後産 (あとざん) (人) 「ノチザン」の
部を見よ

跡繼 (あとつぎ) (人) 跡取(アトトリ)
家の跡目を相續
する人

有人 (ありびと) (人) ありあはせの人

婀娜物 (あなまもの) (人) あかぬけし
たる女

遊手 (あそびて) (人) 遊ぶことを好む
人

姉分 (あねぶん) (人) 假に定めたる姉

姉婿 (あねむこ) (人) 姉の夫

穴掘 (あなほり) (人) 穴を掘る大工の
略

穴無 (あななし) (人) 不完全なる女

暗君 (あんくん) (人) おろかなる君

暗主 (あんしゆ) (人) おろかなる主人

庵主 (あんじゆ) (人) いほりのあるじ

惡友 (あくゆう) (人) あしき友

惡相 (あくさう) (人) あしき人相

惡疾 (あくしつ) (人) あしきやまひ

惡黨 (あくたう) (人) わるものなかま

惡漢 (あくかん) (人) わるもの

惡女 (あくぢよ) (人) 心のよからぬ女
醜女

惡人 (あくにん) (人) 心あしき人

扇屋 (あふぎや) (人) 扇を賣る人。
又はその家

商人 (あきうど) (人) 賣買を業とする

足長 (あしなが) (人) 脚の長き人

足蹇 (あしなへ) (人) 足のなへてはた
らきの自由なら
ぬ人

足弱 (あしよわ) (人) 足のよわき人

相方 (あひかた) (人) あひて。遊客の
妓 あひてになる娼

相棒 (あひばう) (人) 駕籠を昇ぐあひ

相婿 (あひむこ) (人) 妻の姉妹の夫

相娘 (あひよめ) (人) 兄弟の妻

相役 (あひやく) (人) 同じ役なつとむ
るもの

間子 (あひこ) (人) 外國の人と交り
て生みたる子

汗搔 (あせかき) (人) 汗を流し易き人

赤鬚 (あかひげ) (頭) 赤き鬚。轉じて
西洋人を罵りて

赤鼻 (あかばな) (頭) 色赤き鼻

髭鬚 (あひげ) (頭) 髭に生ずる鬚

青痣 (あざ) (體) 青色を帯びたる
痣

油手 (あぶらて) (肢) 油のつきてある
手

脂手 (あぶらて) (肢) あぶらの多き手

足裏 (脚) 足のうら

足首 (脚) 足つくるぶしよ
り先の方の稱

足骨 (脚) あしのほね

輝 (脚) 寒氣に傷められて手
足の皮の裂くるもの

後腹 (内) 産後に腹のいた
むこと

愛妾 (人) かはゆく思ふ妾

愛畜家 (人) 犬猫などの
愛し蓄ふ人

暴者 (人) あばれくるふ人

兄株 (人) 俠客博徒などの
仲間のもものより
尊敬せらるる人

兄弟 (人) あにとおとうと

後押 (人) 行列などの最後
にありて警め行
く役

青二歳 (人) 年若くて未
だ世事にな
れざる者を罵りていふ

青物屋 (人) 青物を賣る
人。又はそ
の家

周章者 (人) うろたふる
人

赤坊 (人) あかごのこと

赤毛布 (人) 田舎人の毛
布を被ぎて
都の地を見物する者の稱

遊好 (人) 遊ぶことを好む
性質

遊人 (人) 博奕をなす人

幼稚 (人) なさなし。無邪
氣なこども

姉娘 (人) 年上の方なる娘

按摩取 (人) 按摩の技を
行ふ人

悪車夫 (人) 悪しき所行
をなす車夫

油賣 (人) 油を賣る人

朝寝坊 (人) 朝寝をする
人

明盲 (人) 外見は常の人の
如くにて實は全
く見へぬ人

明盲 (人) 文字を讀み得ぬ
人を卑めていふ

厭性 (人) 物事に厭き易き
性質

相客 (人) 同伴する客

相客 (人) 旅宿にて同伴者
に宿りたる客

赤顔 (顔) 赤みをおびたる
顔

惱顔 (顔) あきれたる顔

痘痕面 (顔) あばたのあ
る顔

足甲 (脚) 足首の表の方

脂足 (脚) 脂の多く出る足

跡取息子 (人) 家督を
相続す
べき息子

暴息子 (人) 亂暴なる息
子。放蕩を
なす息子

暴書生 (人) 亂暴なる書
生

後引上戸 (人) 酒席の
長くな
る癖あるもの

青書生 (人) 年若くして
學問の未熟
なる書生

青瓢箪 (人) 顔色の青ざ
めたる人を
罵りていふ

青物賣 (人) 青物を賣り
歩く人

赤他人 (人) 全く血族な
き他人

遊相手 (人) 遊ぶする相
手

遊友達 (人) 遊ぶする友
達

扱人 (人) 物事を取扱ふ人

預人 (人) 預りてゐる人

暴者 (人) 亂暴なる人

案内者 (人) みちじるべ
をなす人

按針手 (人) 船の進路を
定むる爲め
に磁石の針を按ずる人

悪性者 (人) 女色にふけ
るもの

悪道者 (人) わるもの

悪漢 (人) 悪しき所行をな
すもの

悪少年 (人) 悪しき所行
をなす少年

空巢狙 (人) 人の居ぬ家
を狙ひ押入
りて物を盗む者

妻さい (人) つま

嫂さう (人) あによめ

妻子さいし (人) つまとこと

妻孥さいど (人) 妻子に同じ

孀婦さうふ (人) ごげに同じ

壯夫さうふ (人) さかんなるをと

壯士さうし (人) 壯夫に同じ

壯思さうし (人) さかんなる心の思ひ

壯志さうし (人) さかんなるこころざし

里子さとこ (人) 他人に預けて養はしむる子

座頭ざとう (人) 盲人の總稱

逆子さかご (人) 逆さになりて生るる子

産婆さんば (人) とりあげばば

産婦さんぶ (人) 子を産みて尙寢床にある婦

殘徒ざんと (人) 残りたるともが

作家さくか (人) 文章などを作るに巧みなる人

策士さくし (人) はかりごとをなす人

座元ざもと (人) 興行場の主

噓うそ (人) しやくりのこと

妻女さいぢよ (人) つま

里人さとびと (人) むらびと

才女さいぢよ (人) きようなる女

妻君さいくん (人) 己が妻の謙稱、誤りて他の妻の尊稱

才人さいじん (人) 才物(サイアツ)才ある人

早乙女さといめ (人) 田植をする少女

然者さるもの (人) さる聞えあるもの

參謀さんぼう (人) 官位、武官の軍議にあづかる職

細民さいみん (人) まづしき民

爭論さうろん (人) あらそひるんすること

爭鬪さうたう (人) あらそひたたかふ

爭鬪さうたう (人) あらそひせめぐ

爭奪さうだつ (人) あらそひうばふ

相續さうぞく (人) あとをつぐこと

相談さうだん (人) はなしすること

壯健さうけん (人) たつしやなること

壯丁さうてい (人) わかもの

壯男さうだん (人) 壯丁に同じ

壯年さうねん (人) わかものに同じ

壯者さうしや (人) わかきもの

壯心さうしん (人) さかんなる心

壯勇さうゆう (人) わかくいさましきこと

想見さうけん (人) おもひみる

想像さうざう (人) おもひはかる

早婚さうこん (人) 早く結婚すること

相場師さうばし (人) 相場を業とする人

祭主さいしゆ (人) 祭祀、神葬祭等を行ふ主

債主さいしゆ (人) かしぬし

催主さいしゆ (人) 事を催す主

山妻さんさい (人) 他に對して己が妻の謙稱

山人さんじん (人) 山中に住ふ人

散人さんじん (人) 世事を離れ居る人の自稱

山賊さんぞく (人) 山中に棲みぬる賊

算者さんしや (人) 數學に達したる人

殘族ざんぞく (人) 残りたるやから

讒臣ざんしん (人) 君に對して讒言する臣

讒者ざんしや (人) 讒人(ザンニン)讒言する人

贊者さんしや (人) 賛成する人

作人さくじん (人) 物を作る職人。耕作する人

作者さくしや (人) 詩、歌、文章、等を作る人

妻妾さいせう (人) つまと、めかけ

左官 (人) かべぬり
 酒飲 (人) 酒を好む人
 座頭 (人) 一座の劇などにてその技を行ふもの長
 三助 (人) 湯屋の下男
 猿曳 (人) 猿に藝をさせて錢を乞ひあるくもの
 罪人 (人) 罪を犯したる人
 騷人 (人) 騷客(サウカク)詩文を作る人の稱
 喪主 (人) 死したる人の第一祀を司る人
 葬儀師 (人) 葬式に用する具を賣る

【き】
 雙眼 (頭) 二つの眼
 雙手 (肢) 二つの手
 雙胎 (内) ふたごをほらむこと
 雙肩 (體) ふたつの肩
 創口 (體) きづぐち
 創痕 (體) きづあと
 細腰 (體) ほそき腰
 瘡毒 (内) かさに同じ
 宰相 (人) 官位、政府の大政を總理する官
 操觚者 (人) 文章を作る人

財產家 (人) 財産を多くもてる人
 差配人 (人) 所有主の命家貨地の監督をなす者
 細工人 (人) 細工をする人
 宰領 (人) 荷物を運送する時附添ひて守り行く人
 酒保 (人) 酒を醸す人
 魚賣 (人) 魚を商ふ人
 曹長 (人) 陸軍武官にして軍曹の上に位するもの
 散官 (人) 官のみありてつとめのなきもの
 差出者 (人) 人よりさしまふる人

指物師 (人) 指物を作る人
 再從兄 (人) 年上のまたいとこ
 再從弟 (人) 年下のまたいとこ
 三從兄弟 (人) またいとこ
 相當官 (人) 本官に相當する役
 裁判官 (人) 官位、裁判の事を司る役人
 參事官 (人) 官位、各省に意見を述ぶる役
 差添人 (人) 補助の爲めにつきそふ人
 壯士俳優 (人) 書生役者に同

【き】
 先棒擔 (人) 人より先にたちてさわる者
 擦過傷 (體) すりむきたる傷
 産辱熱 (内) 病名、婦人するもの
 妓 (人) 音曲舞歌をもて宴席する女
 義母 (人) 義理ある母
 妓夫 (人) 遊女屋に使はるる下男
 君 (人) 人民の長たる人の稱
 義士 (人) 義氣に富みたる人

義子 (人) 養子のこと
 技師 (人) 職名、官衙、會社上に位する人
 牙 (頭) 前歯と奥歯との間にありて鋭く且つ尖れる齒
 肝 (内) 五臓の一、腹の右の上の方、肺の下にある
 后 (人) 皇后に同じ。通じて太子親土の御妻にも
 貴人 (人) 身分貴き人
 奇童 (人) 常よりすぐれたる童子
 貴女 (人) 身分ある女
 耆老 (人) 年老いたる人

議員 (人) 會議にあづかる人

貴族 (人) 身分家柄の貴き

義兄 (人) 假に兄と定めた人

義弟 (人) 義理ある弟

義民 (人) 義をつくす人

舅姑 (人) 夫の父母又は妻の父母

舊師 (人) もとの師匠

急使 (人) いそぎのつかひ

給仕 (人) 人の側におて雑用を足すもの

義人 (人) 義のある人

貴臣 (人) 貴き家來

技手 (人) 官衙、會社などにて工業技術を扱ふ人

奇人 (人) 常の人に異りたる人

客 (人) おとづれ來れる人

記者 (人) 物事をしるしとむる人

聞人 (人) 聞く人

切手 (人) 物を切る人

漁夫 (人) 魚を捕ふるを業とする人

樵 (人) 山林に入りて薪柴を採る人

氣孔 (體) けあな

踵 (肢) かと

四 議論家 (人) 好みて議論する人

氣入 (人) 氣に入りたる人

氣取屋 (人) 動作にけしきを作る人

氣違 (人) 病名、精神狂ひなること又はその人

木地挽 (人) 木地をひきする人

議長 (人) 會議の席の長となりて衆議を採決する人

漁民 (人) 魚を取るを業とする民

兇徒 (人) わるもの。謀反人

御名 (人) 天皇の御名

居民 (人) その地に住める民

巨賊 (人) おほぬすびと

馭者 (人) 馬をおひやる人

狂氣 (人) きちがひ

行司 (人) 相撲の勝負を檢見する人

經師 (人) 表具をなす人

生娘 (人) 未だ結婚せざる少女

金方 (人) 金主に同じ

金穴 (人) かねもち

金主 (人) 元手の金を出す人

近眼 (人) ちかめ

近臣 (人) 主君の側近く仕ふる人

近親 (人) 血筋の近き親類

議官 (人) 官位、政治を評議する高等官の名

貴官 (人) 官吏に對していふ

偽君子 (人) にせの君子

逆徒 (人) 謀反人のともがら

聞者 (人) はばのきくもの

貴婦人 (人) 身分ある婦人

貴公子 (人) 爵位あるものの子

氣焰家 (人) 氣焰の盛んなる人

肝入 (人) 世話する人取り持つ人

筋肉 (内) すちと肉と

灸穴 (體) 身體の中の灸をすうべきところ

舊友 (人) 久しく交れる友人

舊君 (人) もとの主君

舊主 (人) もとの主人

舊識 (人) ふるきしりあひ

舊臣 (人) もとの家來
肝魂 (人) たましひ
切髪 (頭) 寡婦などの髪を短く切りたるも
氣相 (頭) かほつき
疵痕 (體) 傷の癒えて後まで残れるあと
疵口 (體) きづのつきたる
胸部 (體) むね
金玉 (體) 畢丸のこと
利腕 (肢) 右の腕
筋骨 (内) すぢと骨と

五 **際物師** (人) 際物のみ賣る人
經師屋 (人) 經師を業とする人
窮民 (人) 難儀に陥りたる民
宮女 (人) 宮人(ヘキユウジ) 禁中に仕ふる女官
行者 (人) 佛道を修むる人
狂人 (人) きちがひ
狂疾 (人) きちがひ
狂歌師 (人) 狂歌をよむる人
強兵 (人) つよき兵士

強敵 (人) つよき敵
兇漢 (人) わるもの
兇賊 (人) あしき賊
兇首 (人) わるもののかし
兇暴 (人) 心あしくてあ
郷人 (人) ふるさとの人
郷黨 (人) むらざとの人
虚弱 (人) 身體のすこやか
綺麗好 (人) 極めて清潔なるを好む
狐釣 (人) 狐をわなにてつ

狐付 (人) 狐の魂にとりつ 變症の狂人
氣樂者 (人) 氣樂なる人
金満家 (人) かれもち
今上 (人) 當代の主上
歸化人 (人) 外國人の此たるもの
機關師 (人) 機關手の長
機關士 (人) 海軍にて軍艦の機關を
客人 (人) 客のこと
已決囚 (人) 法律の語既に決りたる罪人

機嫌買 (人) 己が心持の善惡によりて他に對するそぶりを變ふるもの
給仕人 (人) 給仕する人
給費生 (人) 費用をあてがはるる學生
嗅官 (頭) 鼻の稱。嗅感を司る
技術家 (人) 技術に巧なる人
偽善者 (人) 偽善を行ふ人
近視眼 (頭) ちかめ
玉顔 (頭) 玉の如くうるはし
胸襟 (體) 胸膈(キヨウカ) 胸間(キヨウカン)

胸痛 (體) 胸の痛むこと
胸骨 (體) 胸のほね
玉門 (體) 陰門に同じ
局所 (體) 身體の中のまが
議定官 (人) 官位、賞勳評議する官
儀仗兵 (人) 儀仗を帶ぶる兵士
勤番者 (人) 勤番をする人。獨身者
行政官 (人) 官位、國權の行使を掌る官
狂病 (人) きちがひ

狂言師 (人) 狂言を業とする人

局長 (人) 官名、官省の局長

局外者 (人) その事に關係せぬ人

機關手 (人) 機關を運轉する人

舊主人 (人) 以前仕へたる主人

急病人 (人) 急病にかかりたる人

氣管支炎 (内) 病名。の疼痛して痰の咯出する者

【ゆ】

湯女 (人) 温泉地の旅宿にて客を取扱ふ女

逝 (人) 死ぬ

縁 (人) よるべ。しるべ

雄傑 (人) すぐれたる人

指差 (人) ゆびざすこと

指折 (人) 指を折りて僅かに數人と數ふる

結納 (人) 結婚前に結納の證として贈りか

勇健 (人) いさましくすこやかなること

雄辨 (人) よごみなき辯舌

行合兄弟 (人) たいれち兄弟

【め】

女 (人) をんな。つま

目 (頭) まなこ

命 (人) いのち。めぐりあはせ。おほせ

愛 (人) 思ひ慕ひていつくしむ。かはゆる

姪 (人) 兄弟の産みたる女。女姪姉妹の産みたる

面 (頭) かほ。おもて

馬手 (肢) 馬の手綱を取る方の手。右の手

名家 (人) 世に名ある家筋

名醫 (人) 名高き醫者

名士 (人) 世に評判ある人

名妓 (人) 名の高き妓

女郎 (人) 女のわらわ。女をいやしめて

目端 (人) 物事の場合を見ること。の氣轉

妾 (人) そばめ。てかけ

艶飾 (人) みなりを装ひ飾る

目馴 (人) 常に見て目に馴る

面皮 (人) 世の人に對する顔

目上 (人) 親族又は官途にありて身分已より尊き人の稱

夫婦 (人) めをとの音便。夫と婦と

乳母 (人) 母に代りて子供を養育する女の稱

惠 (人) めぐむこと

盲 (人) 目の見る力を失へる

眩暈 (人) 目のくるめくこと

目明 (人) 物を見る力ある人。文字を解し得る人

目利 (人) 書畫器物などの眞偽好惡を見分けること

目見 (人) 貴人に會するに始めて主人にあふこと

盲 (人) めくらのこと

目下 (人) 親族又は官途なより卑き人の稱

目差 (頭) めいろ。めつき

目尻 (頭) 眼の端の耳へ向へる方

目許 (頭) 目のあたり。目の容子

目色 (頭) 目の色。めつき

目玉 (頭) 眼の中のたま。

目付 (頭) 目の物を見る容子

目鼻 (頭) 目と鼻と

目角 (頭) 眼の鋭く物を見ること

目脂 (頭) 目より出づる汁の凝りて脂の如くなれるもの

迷路 (頭) 耳の最も奥深き部分

目醫者 (人) 専ら眼病を療治することを業とする醫者

名流 (人) 名高き人の仲間

名案 (人) よき考へ

名臣 (人) すぐれたる臣下

名人 (人) 藝術にすぐれたる人

名族 (人) よき家柄

命運 (人) しあはせ。うん

命令 (人) いひつけ

明哲 (人) 智のすぐれてきたとき人

明敏 (人) かしこくすげやきこと

明主 (人) かしこき主

明辨 (人) あきらかなる辯舌

妙齡 (人) わかきとし

盟主 (人) 同盟したる、間のかしら

瞑眩 (人) 目のくらむこと

瞑目 (人) 目を塞ぐこと。死ぬこと

目早 (人) 見ることに敏し

目通 (人) 貴人にまみゆること

偏盲 (人) 「カタメ」に同じかの部を見よ

面目 (人) 人の世に會す顔ほまれ

召人 (人) 罪によりて獄に繋かれてある人

飯炊 (人) 飯を炊く僕婢

飯盛 (人) 旅店にて客の給仕をなし又其枕席に侍する女

面體 (人) 面貌(メンボウ)かほかたち

面目 (人) かほかたち

面相 (人) 顔の容子。かほか

目玉 (人) メダマのこと

瞬 (人) 目をしばたたくこと

名匠 (人) 學術などのすぐれたる人

名將 (人) すぐれたる大將

妾腹 (人) 妾の産みたる子

免官 (人) その役をやめられること

免職 (人) その職を免ぜらるること

召使 (人) 下男、下女

面色 (人) かほつき

【み】

身 (人) おのれ。われ

身 (人) からだ。眞の心。み

見 (人) 物の形を眼に映ぜしめて知る

神子 (人) 神事を行ふ人

見人 (人) 見る人

見目 (人) 人の顔つき

耳 (人) 顔の兩端にありて音聲を聴くことを主るもの

見重 (人) 孕みたること。みもち

身方 (人) 己が方さまの人

身輕 (人) 身の輕きこと

身柄 (人) 身の程。身分

身寄 (人) みうち。うから

淫 (人) 男女の間の行の正しからぬこと

未練 (人) 思ひ切るべきに尙心に残ること

三子 (人) 三歳の童兒。一産に三人生れたる子

密使 (人) ひそかに使はす使者

密夫 (人) まをとこ

密婦 (人) かくしをんな

民意 (人) 人民の心

身内 (人) うから。みより親族

身分 (人) 身のほど。ぶん

未婚 (人) 未だ結婚せぬこと

見合 (人) みあはすること。特に男女相會ふこと

操みさを (人) 固く志を守りて變へぬこと

身み様さま (人) 身のさま

見み知しり (人) 交りて其人を知り居ること

身み持もち (人) 身のふるまひ。又は子を孕むこと

身み許もと (人) みの、へ

眉み間けん (頭) 額の中央眉と眉との間

身み内うち (體) 身體のうち

身み毛け (體) 皮膚の毛穴

脈みやく (體) 體中に血液のめぐる道

身み振ぶり (體) 身の容子

身み咎とが (人) 見てとがむ

嬰みどり兒ご (人) 二三歳の子供の稱

道みち行ゆき (人) 道を行くこと。又は男女連れ立ちて行くこと

路みち連づれ (人) 連れ立ちて道を行く人

見み送おく (人) 遠く去るまで眺送り行く

身み代がわり (人) 他人の身になりかばること

身み勝が手て (人) わがまま。きままま

自みづか (人) おのれ。われ

水みづ仕し女め (人) 臺所の女

孤みなしこ (人) 幼くて親なき子

皆みな人ひと (人) すべての人

民みん間かん (人) 人民の間

民みん心しん (人) 人民の心

民みん業げふ (人) 人民のなすしわざ

民みん族ぞく (人) 同類の人民。

民みん望ぼう (人) 人民ののぞみ

民みん命めい (人) 人民のいのち

民みん庶しよ (人) 多くの人民

身み上うへ (人) 己が身にかかわること。この身の運命

身み罷まかる (人) なき人となる。死ぬ。

身み振ふる (人) 寒さ又は恐れに感じて身のふるひ動くこと

不み見けん轉てん (人) 客を選まず

身み籠かご (人) 懐妊す。

耳みみ打うち (人) 人の耳に口寄せて、ひそかに打語ること

身み上じやう (人) うまれつき。身のうへ

身み不し知ち (人) 自ら身の分へぬこと

單み身ひと (人) 他に係累なき身

耳みみ朶たぶ (頭) 耳の下に垂れたる肉

耳みみ垢あか (頭) 垢の中にたまる

耳みみ鳴なり (頭) 逆上などして耳の中に鳴るやうに感ずること

耳みみ垂たれ (頭) 病名、耳の孔より膿汁滴り出づるもの

水みづ漬ひな (頭) 水の如き鼻汁

水みづ落おち (體) 胸壁と腹部との界の少し凹みたるところ

未み亡ぼう人じん (人) 後家に同じこの部を見

名みやう代だい (人) 人に代りたつる

名みやう聞もん (人) 世のきこえ。ほ

水みづ不ふ入に (人) わが思ふ人にてさし向ひてあること

水みづ臭くさし (人) 情薄し。

水みづ仕し事こと (人) 臺所にて水を

密みつ賣ばい婦ふ (人) 秘密に淫を賣る女

未み丁てい年ねん (人) 未だ丁年に達せぬこと

未み成せい年ねん (人) 未だ成年に達せぬこと

不み見けん不ふ知ち (人) 何のゆかりも

見み世せ物ぶつ師し (人) 見世物をする人

耳みみ孔あな (頭) 耳の孔

蚯蚓腫 (體) 皮膚の爪に
どして腫ること

水脹 (體) 皮膚のはれて水
膿を醸せるもの

水中 (内) 水を飲みたるに
あてられて痛む

水先案内 (内) 船の進
路を案内する人

水盃 (内) 親子の別れなど
に水を酒に代へ
て飲むこと

店商人 (内) 店を張りて
商賣する商人

【し】

士 (内) 學藝あり又仕官して
人の上流に立つもの
の稱

師 (内) 學問藝術を教ふる人

子 (内) こども。爵の名

死 (内) しぬること

侍醫 (内) 禁中に伺候する
醫者

慈母 (内) いつくしみの深
き母

試補 (内) 見習の職

私意 (内) おのが意見

始祖 (内) 先祖のこと

室 (内) 貴人の妻

臣 (内) 君に仕ふるもの。け
らい

心 (内) こころ。心臓に同じ

眞 (内) まこと

仁 (内) 博く物を愛する心。
いつくしみ

人 (内) ひと

者 (内) もの。ひと

仕手 (内) する人。行ふ人

主 (内) ぬし。あそび わが
仕ふる君

首 (内) 法律の語。罪を犯し
たる發頭人

死士 (内) 死を決して戦ふ
士

志士 (内) 國家のためにつ
くす志あるもの

嗣子 (内) 家を嗣ぐべき子

次子 (内) 二番目の子

侍史 (内) 物書くことを掌
る役人

侍兒 (内) 貴人の傍に侍り
て小用をたす子

侍婢 (内) こしもと

志氣 (内) こころざし

思議 (内) 考へて評議する
こと

指揮 (内) さしづ

事務 (内) つとめ。しわざ

死屍 (内) しかばね

耳朶 (内) みみたぶ

齒牙 (内) 齒と牙とし
言葉のはし

尻 (内) 背の下の肉厚く坐す
る時踵にて支ふること

四肢 (内) 兩手と兩足の
稱

腎 (内) 腎臓に同じ

慈育 (内) ひそだつて養
ひつくること

白子 (内) 生れながらにし
て全身眞白なる

私犯 (内) 法律の語、民事
に關したる犯罪

師範 (内) てほんとなる人

爲似 (内) 父祖の業を守り
繼ぐこと

死目 (内) 死際に相會ふこ
と

死人 (内) 死したる人

鹽氣 (内) しかからき味

辭別 (内) 暇乞して別るる
こと

死別 (内) しにわかれ

私黨 (内) 私に組み合ふ仲
間

兒童 (内) こども

侍讀 (内) 君側に侍りて讀
書を教ふる職

兒女 (内) 男兒と女子と

次女 (人) 二番目の女子

侍女 (人) こしもと

後目 (人) 瞳のみ動かして後方を見やること

自力 (人) 他の助を借らぬ己一人の力

知邊 (人) 交りて相知れる人。縁ある人

導 (人) 教へ知らすこと。路などを案内する人

師恩 (人) 師の恩

爲業 (人) するわざ。なしたるしごと

叱 (人) 聲を勵まして戒め禁む

死骸 (人) しかばね。なきがら

自害 (人) 自ら傷けて死ぬること

自覺 (人) 自ら心にさとること

資格 (人) 身のほど。みぶ

刺客 (人) 暗殺を行ふ人

視學 (人) 役名、學業を視察すること

尉 (人) 老翁の稱

將 (人) 陸海軍の官名、大中の少の三等あり

商 (人) あきび

情 (人) 喜、怒、哀、樂など總て心に觸れて起る感

職 (人) つとめ。やくめ

書家 (人) 文字を書く技に長けたる人

書賈 (人) 書物を商ふ人

書記 (人) 文字を書き記すこと。又は書き記す役人

諸司 (人) もろもろのつかさ

諸子 (人) もろもろの子

諸家 (人) もろもろの家。又はもろもろの人

庶子 (人) 嫡子以外の子

庶母 (人) 父の正室にあらざる母

處士 (人) 仕官せぬ人

處子 (人) きむすめ

私慾 (人) むさぼる心

胥吏 (人) 小役人

親 (人) 血縁近し。むつまじ

枝隊 (人) わかれの隊

子息 (人) むすこの敬稱

子孫 (人) 血筋のすゑすゑ

詞宗 (人) 詩人、文人などを尊びていふ

志操 (人) みさを

氏族 (人) 氏の中のとちがら

士族 (人) 幕府時代の將軍家大名等の家臣の稱

士卒 (人) つはもの

執事 (人) 家人の専ら家政を掌るもの

實子 (人) まことの子

實父 (人) まことの父

實母 (人) まことの母

嫉妬 (人) れたみ。それみ

私通 (人) ひそかに通ずること(男女に)

次男 (人) 二番目のむすこ

親身 (人) 父子兄弟などの甚だ近き血筋

新婦 (人) はなよめ

人爲 (人) 人のしわざ

人氣 (人) 人人の氣分。世上の氣うけ

人士 (人) ひと。人物

人智 (人) 人の知慧

人事 (人) 人のなすべき事柄

信徒 (人) 信者のこと

親父 (人) ちち

親母 (人) はは

親子 (人) 親と子と

眞意 (人) まごころ

仁慈 (人) いづくしみめぐむこと

仁義 (人) 仁と義と

心事 (人) 心に思ふこと

心機 (人) こころ

紳士 (人) 身柄のよき人

鍼治 (人) 鍼を用ひて病を療治すること

辛味 (人) からき味

臣下 (人) 臣に同じ

瞋怒 (人) いかること

舅 (人) 夫の父。妻の父

齒科 (人) 醫術の一派、専ら齒を療治するもの

耳科 (人) 醫術の一派、専ら耳の療治をするもの

爵 (人) 位階、國家に功勞ある者に賜ふ世襲の家格身分。公侯伯子男。

弱 (人) よわきこと

謝儀 (人) 謝すること

車夫 (人) くるまひき

社家 (人) かんぬし

邪氣 (人) かぜひき

邪意 (人) よこしまなる心

邪智 (人) わごぢふ

姉妹 (人) あねと、いもうと

詩才 (人) 詩を作るに巧なる才

慈惠 (人) ほどこし

自剄 (人) われとわが首をきること

私見 (人) 己れ一己の意見

士分 (人) 士たる身分

自分 (人) おのれ。われ

私憤 (人) 私事のうらみ

至孝 (人) 極めて孝行なること

私交 (人) うらうちの交り

師弟 (人) 師と弟子と

子弟 (人) 子と弟と

自愛 (人) 自らその身を大切にすること

慈愛 (人) めぐみしみ。

思案 (人) おもひ。かんがへ

死去 (人) 死ぬること

主 (人) おのが仕ふる君

衆 (人) 多くの人

從 (人) 法律の語、主謀者に從ひて共に罪を犯せるもの

主婦 (人) 一家を主る女

醜婦 (人) 容貌みにくき女

酒家 (人) 酒のみ。又はさかや

酒保 (人) 酒屋の雇人

四民 (人) 士農工商の稱

市民 (人) 市の住民

舟子 (人) ふなこ

獸醫 (人) 獸類の病を療治する醫者

使者 (人) つかひ

使臣 (人) 君命を帯びて行く使者

詩人 (人) 詩を作る人

史臣 (人) 歴史を書くことを司る臣

士庶 (人) 士と平民と

囚徒 (人) めしうど

死者 (人) 死にたる人

侈心 (人) おごる心

私心 (人) 私の心
 資質 (人) うまれつき
 慈仁 (人) めぐみ
 司教 (人) 天主教などの高等なる牧師
 自身 (人) おのが身
 旨趣 (人) おもむき
 痺 (人) 血液の循環鈍くなりて感覚を失ふこと
 死人 (人) 死にたる人
 下部 (人) 下男
 至誠 (人) まごころ

私生 (人) 定まりたる夫なくして子を生む
 資性 (人) うまれつき
 姿勢 (人) 身體のすがた
 使節 (人) 君命を受けて他國に使用する役人
 耳目 (人) 耳と目と。聴くと視ると
 齒根 (人) 齒ぐき
 斜視 (人) やぶにらみ
 白齒 (人) 齒黒めにて染ぬ齒
 白面 (人) 酒に酔はぬ常の時の顔
 齒痛 (人) 齒のいたみ

白髮 (人) 年老いて白くなる頭髪
 齒槽 (人) 齒の根をはむる顎骨の孔
 下目 (人) 下の方を見る目
 下齒 (人) 下の齒ぐきに生じたる齒
 白眼 (人) 眼の中の白き部分
 節骨 (人) 胡蝶骨の前部鼻腔の上蓋
 四體 (人) 頭、身、手、足の稱
 自體 (人) 己がからだ
 指骨 (人) 指の骨
 跡骨 (人) 趾骨の前部にて足趾を構成す

四

膝下 (人) 膝の下
 指頭 (人) 指のさき
 子宮 (人) 婦人の生殖機關
 白血 (人) 病名、コシケの類
 癩 (人) 病名、胸部の急に瘡を起して病むもの
 瀉 (人) 腹くだる
 瀉痢 (人) ばらくだり
 痼 (人) 病によりて内部に起る塊の如きもの
 素人 (人) 其道に疏き人
 潮汲 (人) 鹽に製する潮水その人

鹽燒 (人) 潮水を煮て鹽を製する人
 鹽焚 (人) 潮水を煮て鹽を製する人
 市長 (人) 市の長、市内の行政を掌る
 尻押 (人) 助勢して勤めその人
 尻重 (人) 動作の鈍きこと
 尻輕 (人) まめに働くこと
 尻輕 (人) 女のみさをなきこと
 知合 (人) 互に知り合ふ人
 知人 (人) 知り合ひの人
 死力 (人) 必死の力

思量 (人) 思ひはかること
 性根 (人) 根性(コンツヤ)の部を見よ
 上手 (人) 技藝などに巧なること
 上氣 (人) のぼせ
 上戸 (人) 多く酒を飲む人
 上疎 (人) 事を記して官に告ぐるもの
 上智 (人) 極めて智慧ある人
 娼妓 (人) 娼婦(シヤップ)女郎のこと
 白首 (人) 窃に淫を賣る女の稱
 商賈 (人) あきんど

正氣 (人) 心のたしかなること

生死 (人) 生くと死ぬと

讓位 (人) 天皇の位を皇太子に譲り給ふこと

讓步 (人) 歩を譲ること。人に先を譲ること

情誼 (人) 情愛の誼理

情夫 (人) いろをとこ

情婦 (人) いろをんな

情思 (人) 人情のかんがへ

情死 (人) あひたいじに。しんぢゆう

情事 (人) 人情にかかりたること

掌記 (人) 書記のこと

掌侍 (人) 皇后宮職に唱する内侍司の判官

承知 (人) 旨をうけたまはりて知ること

勝利 (人) 闘ひ又は争に打ち勝つこと

初老 (人) 四十の年齢

初縁 (人) 初めての縁組

所生 (人) わが生みたる子

所天 (人) をつと

所存 (人) 思ふところ。考へ

所念 (人) 思ひ込みたること

所罰 (人) 所刑(シヨケイ)に處せらるること

所犯 (人) 罪をなしたること

所望 (人) のぞみ

所勞 (人) わづらひ。やまひ。

處女 (人) きむすめ

書生 (人) 學業を習ふもの

書癖 (人) 書を好むくせ

諸生 (人) 多くの學生

諸人 (人) もろもろの人

諸禮 (人) しつけかた 禮儀作法

諸君 (人) おのおのがた

諸兄 (人) もろもろの兄

諸弟 (人) もろもろの弟

庶兄 (人) 妾腹に生れたる兄

庶弟 (人) 妾腹に生れたる弟

庶民 (人) 庶人(シヨニン) もろもろの民

助役 (人) 上役の役を助くる役

助手 (人) 人の仕事を助ける人

助勢 (人) 助力(シヨリヨク)に同じ

叙任 (人) 位を敘し、官を任すること

親 (人) したしむこと

親 (人) みづから

下下 (人) 民百姓。人民

下役 (人) 他人の支配下に働く小役人

仕立屋 (人) 仕立を業とする人

自墮落 (人) 身持の取締なきこと

白物 (人) 愚なる人

失徳 (人) 身持の修まらぬこと

失念 (人) ものわすれ

實兄 (人) まことの兄

實弟 (人) まことの弟

實妹 (人) まことの妹

實名 (人) まことの名

執拗 (人) かないぢ

執政 (人) 政治を執り行ふ人

疾病 (人) やまひ

社中 (人) 組合の仲間

昵近 (人) したしみ。かつ

叱責 (人) しっかりと責むること

心底 (しんてい) (人) 心の底
真猫 (しんねこ) (人) 極めてしめやか
新案 (しんあん) (人) 新たな工夫
新婚 (しんこん) (人) 新たに結婚する
新造 (しんざう) (人) 嫁したる女の未
轉じて處女の稱
新造 (しんざう) (人) 遊女屋にて遊女
の世話をなす女
新參 (しんざん) (人) 新たに仕へたる
もの
新帝 (しんてい) (人) 新たに位に即き
たまへる天子
新郎 (しんらう) (人) はなむこ
心魂 (しんこん) (人) 心のそこ

心神 (しんしん) (人) こころ
心性 (しんせい) (人) 心情に同じ
心底 (しんてい) (人) 心の底
心痛 (しんつう) (人) 心の苦み。心配
心配 (しんぱい) (人) 心がかり
心勞 (しんらう) (人) 心の勞。心づか
ひ
親愛 (しんあい) (人) したしみ、いつ
くしたしみ、いつ
心中 (しんちゆう) (人) 心のうち。男女
思ひ合ひて死ぬ
親交 (しんかう) (人) 親しく交ること
親近 (しんきん) (人) したしみ近づく

親裁 (しんさい) (人) 貴人の親しく裁
決し給ふこと
親呢 (しんたつ) (人) 親炙(シンジャ)
したしみなるこ
親炙 (しんせき) (人) 親しく其人に接
すること
親戚 (しんせき) (人) 親類に同じ
親族 (しんぞく) (人) 親屬(シンゾク)
親類に同じ
親類 (しんるい) (人) 同じ血統を引き
たるもの
親姻 (しんいん) (人) 親類に同じ
親任 (しんにん) (人) 天皇の自ら官に
任じ給ふこと
深沈 (しんちん) (人) 氣性のおちつく
こと
深切 (しんせつ) (人) 心のれんごるな
ること

深謀 (しんぼう) (人) 深きばかりこと
深慮 (しんりょ) (人) 深きかんがへ
神聖 (しんせい) (人) 靈妙にして貴く
殆んど人間の外
神孫 (しんそん) (人) 神の血統を引き
たる人
神裔 (しんえい) (人) 神孫に同じ
神童 (しんどう) (人) 非凡の才智ある
童子
神心 (しんしん) (人) たましひ
信仰 (しんかう) (人) 宗教を信するこ
と
信心 (しんしん) (人) 信仰する心
信念 (しんねん) (人) 信心に同じ

信誠 (しんせい) (人) 信實(シンジツ)
まこと
真俗 (しんぞく) (人) 僧と俗人と
人君 (じんくん) (人) 衆の君たる人
人傑 (じんけつ) (人) 衆人にすぐれた
る人
人口 (じんこう) (人) ひとかず
人工 (じんこう) (人) 人の力にて作り
出すこと
人格 (じんかく) (人) ひとがら
人才 (じんさい) (人) 才智ある人物
人品 (じんびん) (人) ひとがら。
人の性質
人文 (じんぶん) (人) 人間のあや

人心 (じんしん) (人) 人の心
人種 (じんしゆ) (人) 人の異點に依つ
て世界の人民を
類別する稱
人世 (じんせい) (人) 人の世の中
人跡 (じんせき) (人) 人の往來のあと
人名 (じんめい) (人) 人の名
人道 (じんだう) (人) 人たるものの行
ふべき道
人物 (じんぶつ) (人) ひと。ひとがら
才智ある人
人望 (じんぼう) (人) 人人の望
人民 (じんみん) (人) たみ。國民
人命 (じんめい) (人) 人のいのち

人目 (人) 人の見る目
人慾 (人) 人の欲心
人力 (人) 人のちから
人倫 (人) 人の行ふべき道
人類 (人) 人のたぐひ
人員 (人) ひとかす
仁愛 (人) めぐみいつくしむこと
仁君 (人) いくつくしみ深き君
仁惠 (人) めぐみいつくしみ。
仁者 (人) めぐみ深き人
仁恕 (人) なさげぶかく思ひやること
診察 (人) 醫師の病の症をうかがふこと
診断 (人) 診察して病症を見極むること
身神 (人) 身體と精神と
身命 (人) からだといのち
侵犯 (人) 罪を犯すこと
呻吟 (人) うなること
縉紳 (人) 官位高き人の稱
臣隸 (人) けらい
臣服 (人) 家來となりて服従すること
姑 (人) 夫の母、又は妻の母
士官 (人) 兵士を指揮する武官
祠官 (人) かんぬし
史官 (人) 官位、記録のことなを掌る
次官 (人) 官位、長官の次の官
吃逆 (人) サクリの訛
癩氣 (内) 癩に同じ
社員 (人) 社の役員
社友 (人) 社のもたち
社主 (人) 會社の主人

社人 (人) かんぬし
邪推 (人) わが心のひがみより他を惡しざまに推量すること
邪念 (人) 不正なる心
舍弟 (人) 家の弟
舍兄 (人) 家の兄
舍監 (人) 寄宿舍の監督する人
舍主 (人) 舍の主人
洒落 (人) 人の氣象の打ちとけたること
爵位 (人) 爵と位と
酌婦 (人) 料理屋に雇はれて酒の酌などする女侍
締家 (人) 吝嗇なる人
仕事師 (人) 土木の雜役を業とする人
資産家 (人) 資産ある人
色盲 (人) 病名、物の色を判然と見わけ得ぬもの
色慾 (人) 女色と慾心と
識者 (人) 見識ある人
主恩 (人) 主人の恩
主客 (人) 主人と客と
主公 (人) きみ。主君
首人 (人) 家のあるじ。わが仕ふる人
主任 (人) 人人の上立ちて事をなす人
主君 (人) あるじのきみ
主筆 (人) 頭だちて編輯の事をつかさどる人
手腕 (人) うでまへ
酒客 (人) さけのみ
酒癖 (人) 酒に酔へば出づる惡しき癖
酒亂 (人) 酒に酔へば荒れ狂ふこと
首罪 (人) 首ふきらるる罪
首伏 (人) 罪を白状すること

首惡 (人) 惡をなしたる發
 首謀 (人) 事を企てたる發
 守衛 (人) にもること。特
 宗徒 (人) 宗門の信者
 從子 (人) をひ
 從父 (人) をぢ
 叔父 (人) をぢ
 叔母 (人) をば
 出母 (人) 離縁になりたる
 出婦 (人) 離縁になりたる

從母 (人) 母方のをば
 從祖 (人) おほをぢ
 儒者 (人) 學者のこと
 巡查 (人) 警部の次に位す
 師匠 (人) すべて人に學術
 私情 (人) 己れ一人の便利
 至情 (人) まごころ
 自出 (人) おのが生みたる
 子爵 (人) 爵(シヤク)を見
 侍從 (人) 官位、天皇に近

慈悲心 (人) 慈悲の心
 霜燒 (人) 寒氣に侵されて
 修業 (人) 學藝を學ぶこと
 修養 (人) 身を修め養ふこ
 秀才 (人) 學才の秀でたる
 愁怨 (人) うれひうらむこ
 愁嘆 (人) うれひなげくこ
 愁鬱 (人) 氣のふさぐこと
 愁眠 (人) 心配して眠ること
 就學 (人) 師につきて學門

囚人 (人) めしうど
 舟人 (人) 船頭のこと
 洲民 (人) その國の國民
 執念 (人) 執心(シヤシン)
 袖手 (人) ふところ
 酋帥 (人) 會長に同じ
 讎敵 (人) あだかたき
 私生兒 (人) 私生の子
 慈善家 (人) 慈善の心に
 主治醫 (人) 主としてそ

視力 (人) 眼の物を見る力
 濕氣眼 (人) 疥癬のため
 澁面 (人) 不満足らしき顔
 視官 (人) 五官の一、眼に
 斜眼 (人) やぶにらみ
 猪鼻 (人) あふむきたる鼻
 舌根 (人) 舌の根もと
 舌打 (人) 舌を打ちならす
 咳 (人) せきをす

津液 (人) つばき
 下腭 (人) 下の腭
 下髭 (人) 口の下の髭
 鬚髯 (人) うはひげとした
 白髭 (人) 白き髭
 鬢髮 (人) くるかみ
 人體 (人) 人身(ジンシン)
 下腹 (人) 腹の臍の下の部
 神經 (人) 體中にありて知

濕瘡 (體) 瘡の名、皮膚に
だ痒きもの

靱帶 (體) 骨と骨との間に
ありて兩骨の衝
突を防ぐ筋

手足 (肢) 手と足と

手工 (肢) 手しごと

疾走 (肢) 疾く走ること

疾足 (肢) はやあし

將指 (肢) なかゆび

食指 (肢) 人さし指

心臟 (内) 五臟の一、胸部
にありて血の運
行を司るもの

腎臟 (内) 五臟の一、腹部
にありて尿水を
分泌する機關

下風 (内) 病名、婦人の腰
下より引く風

支配人 (人) 商店會社な
どにて業務
を支配する人

私法人 (人) 法律の語、
私の事業に
關する法人

證人 (人) 證據に立つ人

冗員 (人) よけいなる人

乘客 (人) 乗る客

生得 (人) うまれつき

左官 (人) サクワンの訛

生來 (人) 性分(シヨウブ
ン)うまれつき

上人 (人) 氣だてのよき人

正統 (人) 正しき血統

將軍 (人) 官位、一軍を統
べ率ゐる職

將校 (人) 官位、上級の武
官

將卒 (人) 將校と兵卒と

將帥 (人) 一軍を率ゐる人

商人 (人) あきんど

情愛 (人) なさけいつくし
み

情交 (人) したしき交り

情人 (人) 思ひびと

情慾 (人) いろごころ

客齋坊 (人) いやしき人を
て

芝居者 (人) 芝居にてい
る人の事

庶民 (人) 多くの人民

所長 (人) その役所の長

助教師 (人) 小學校にて
訓導を助く
る教員

助力 (人) 力を添ふるこ
と

署長 (人) 官位、署の長官

食客 (人) おかりうど
おさふらぶ

食欲 (人) 食はんことを欲
する心

職員 (人) 職をつとむる人

職工 (人) 職人

職權 (人) 職につきたる權
力

職人 (人) 總て手わざにて
物を造るを業と
する人

下心 (人) 心のそこ

舌不足 (人) 舌に不足な
る所ありて
物言ひの自由ならぬこと

實力 (人) まことい力

實情 (人) まことの心

執達吏 (人) 法廷に附屬
して強制執
行の事を掌るもの

白髮翁 (人) 白髮の生じ
たるぢぢ

白髮嫗 (人) 白髮の生じ
たるばば

新佛 (人) 新に葬られたる
人

調役 (人) 取調べを行ふ役

新聞屋 (人) 新聞紙を賣
る家又は新
聞記者

心情 (人) こころもち

心術 (人) こころだて

心力 (人) 心のちから
 人爵 (人) 人の定めたる官位
 人力 (人) 人の力
 神官 (人) 神職 (シンシヨク) かんぬし
 紳商 (人) 身柄のよき商人
 身上 (人) 身のうへ
 身命 (人) からだといのち
 忍逢 (人) 男女ひそかに相逢ふ
 洒落者 (人) しつれたる人。又好みて身装を飾る人
 癩持 (人) 常に癩氣ある人

社會 (人) 同じ人種の人人る一國の人民
 社長 (人) 會社の長
 寫眞師 (人) 寫眞とるこゝろ人
 寫字生 (人) 寫字をなす人
 車掌 (人) 馬車汽車などの車中の事を掌る役
 若年 (人) 年わかきこと
 若輩 (人) 若年のともがら
 借主 (人) かりぬし
 酌人 (人) 酌取に同じ

弱卒 (人) 弱き兵卒
 弱兵 (人) 弱き兵士
 島流 (人) 刑の名、罪人を島に流しやること
 自己流 (人) 師の流義を一人の考へ
 色情 (人) いろこゝみの心
 識量 (人) 理の判断にさとき智力
 守護人 (人) 守護する人
 守備兵 (人) 守備隊に屬する兵
 受寄者 (人) 法律の語、寄託を受けたる人

首長 (人) かしら
 首相 (人) 官位、大臣の長
 首領 (人) かしら。をさ
 手術 (人) 醫術の一、双物切り開き療治すること
 主上 (人) 天皇を申す
 主將 (人) 總大將
 主管 (人) 第一の番頭
 壽命 (人) いのち
 終身 (人) 身の終りまでの間
 從兄 (人) 年上なるいとこ

從弟 (人) 年下なるいとこ
 從者 (人) 主君に從ふもの
 從兵 (人) つき從ふ兵士
 從僕 (人) しもべ
 從祖父 (人) 祖父のいとこ
 從祖母 (人) 從祖父の妻
 衆人 (人) 衆庶 (シユウシ) 多くの
 衆軍 (人) 多くの軍勢
 銃隊 (人) 銃を以て戰ふ兵隊
 主從 (人) 主人と從者

宿醉 (人) ふつかふひ
 宿老 (人) 年力を盡みたる老人、轉じて家老のこと
 酋長 (人) 蠻民のかしら
 熟蕃 (人) 野蠻人の、ややの
 熟客 (人) なじみの客
 淑人 (人) 品行のよき人
 淑女 (人) 智徳を備へたる女
 淑徳 (人) 婦人の令徳
 淑慝 (人) 人品のよしあし

塾生 (人) 塾にゐる生徒
塾頭 (人) 塾の取締をなす人
出身 (人) 官に擧げ用ひらるること。身のなり出づること
出奔 (人) かけおち
純孝 (人) 極めて孝行なること
俊傑 (人) 才智のすぐれたること
俊才 (人) 才智のすぐれたること
下男 (人) ゲナンに同じ
下女 (人) ゲゲヨ
乗員 (人) 舟車などに乗りてある人

白眼玉 (頭) シロマナコに同じ
屢叩 (頭) まぶたをしげく開閉す
衆目 (頭) 衆人の目
澁面 (頭) 不満足らしき顔つき
爲顔 (頭) 誇る顔
雀盲 (頭) とりめ
首魁 (頭) かしら
視神經 (頭) 眼球より脳に達する神經
鬢面 (頭) しかみたる顔
身長 (體) 身のたけ

正體 (體) まことの身
雀斑 (體) そばかす
白癩 (體) 病名、シロハダに同じ
傷痕 (體) きづのあと
手指文 (肢) 手の指のすぢ
衝心 (肢) 病名、急性脚氣の性悪しきもの
充血 (内) 血液のみちてあること
食道 (内) 喉より胃に至るまでの飲食物の通る道
助教諭 (人) 師範、中學論の下に位する職

職業 (人) 世渡りの家業
司法官 (人) 官位、司法の事を掌る
素人女 (人) 客商賣をせぬ女
素人藝 (人) 職業として居らぬ人のなす藝
輜重兵 (人) 輜重を掌る兵士
輜重輸卒 (人) 輜重兵に支配されて運搬する兵卒
職敵 (人) 同職に従事するものとの相互に敵視すること
商賣敵 (人) 同商に従事するものとの相互に敵視すること

商賣上 (人) 藝娼妓などりたるもの
商賣上手 (人) 商賣の上手なること
上客 (人) 上坐につかしむる客
上官 (人) 等級の高き官人
上衝 (人) のぼせ
上等兵 (人) 最上級の兵卒
上長官 (人) 陸海軍の上級の武官、將官と佐官との稱
賞鑑家 (人) 書畫骨董など巧みなる人
商業家 (人) 商業に従事する人

商法人 (人) 商法家(シカ)商業に従事する人
商賣人 (人) 商業に従事する人。その事に専門なる人
將官 (人) 陸海軍の上級の武官。大、中、少將の稱
證據人 (人) 證人に同じ
書記官 (人) 書記の事を掌る官
傷病兵 (人) 負傷したる兵と病に罹れる兵と
職掌 (人) つとめ。役目
初心者 (人) 初心なる人
初一念 (人) 初めて思ひ立ちたる一念

仕拂人 (人) 法律の語、
を支拂ふべき義務あるもの

助教 (人) 大學校、高
等學校など
にて教授の下に位する職

下働 (人) 他の手下につき
専ら炊事を掌る女

司令官 (人) 軍隊にあり
し命令を下す官

司令長官 (人) 武官の
令官の長

思念力 (人) 心理學上の
精神作用

心中立 (人) 人と契りて
守り通すこと

新參者 (人) 新參の人

辛抱人 (人) 辛抱づよき
人

親類分 (人) 假りに親類
と定むるも

親類附合 (人) 親類仲
間の交際

人事不省 (人) 全く感
覚なく

人身權 (人) 法律上に
いふ人間の權

人身攻撃 (人) 一己人
をあげきて攻撃すること

人面獸心 (人) 面は人
は獸の如きこと

新俳優 (人) 書生役者

壽老人 (人) 七福神の一

受信人 (人) 手紙を受取
るべき人

受験者 (人) 試験を受く
人

受托判事 (人) 法律の
事件を他人より託せられて
裁判する判事

子子孫孫 (人) まごこ
のすゑ

死傷者 (人) 死者と傷者

士農工商 (人) 士と農
と工と商と

志願者 (人) 志願する人

志願兵 (人) 陸海軍に志
願する兵士

借金取 (人) 借金を催促
する人

社會黨 (人) 社會主義を
抱持する黨派

歎歎 (人) 息を内へ引き込
めつつ泣くこと

仕合者 (人) 仕合せのよ
き人

周旋屋 (人) 土地家屋の
種々の周旋をなす業とする種

從父兄 (人) いとこ。從
兄に同じ

從父弟 (人) いとこ。從
弟に同じ

從母兄 (人) 從母の兄

從母弟 (人) 從母の弟

順養子 (人) 兄の後を弟
後を兄の子につがせなどす
ること

新婚旅行 (人) 新たに
結婚したる夫婦の打揃ひて旅行す
ること

新聞記者 (人) 新聞紙
を記す人

親任官 (人) 官位、天皇
に親任し給ふ官

宗教家 (人) 宗教に熱心
なる人

宿將 (人) 老功ある大將

出品人 (人) 出品したる
人

上顎骨 (頭) うはあごの
骨

神經痛 (頭) 病名、神經
の疼痛する

神經病 (頭) 神經に起る
病

晶腋膜 (頭) 眼球のあま
がば

白髮頭 (頭) 白髮の生へ
たる頭

白髮雜 (頭) 黒髮と白髮
と雜りたる

耳下腺炎 (頭) 病名、
耳下腺の硬結を起して發熱するも

下唇 (頭) 下の方の唇

舌嘗 (頭) 舌にて唇を嘗め
ること

蓐傷 (體) とこづれ

上肢骨 [肢] 左右の手の骨

心臓病 [内] 病名、心臓の働き鈍り、動悸亢進し脈搏不齊なるもの

腎臓病 [内] 病名、腎臓の働き鈍り、蛋白質又は血尿を放つもの

食中 [内] 病名、急性胃加

食傷 [内] しょくあたり

子宮病 [内] 病名、子宮に發する病

赤帶下 [内] 病名、ナガ赤の部を見よ

猖紅熱 [内] 身體紅くなりて烈しく發熱するもの

鬚 [頭] 唇頰の邊りに生ずる毛

髮 [頭] 頭の左右の兩面の髪

皮膚 [體] かは。はだ

輝 [體] 手足などの、皮膚の寒さに凍荒れて細かに裂け痛むもの

肘 [肢] 腕の中節の曲るところ

膝 [肢] 股と脛との骨の前面の稱

小舌 [内] 咽喉の上に垂りたる肉状のもの

曾祖父 [人] ひいぢぢぢ

曾祖母 [人] ひいばば

美男 [人] 容貌のうるはしき男

[ひ]

妃 [人] きさき

妣 [人] 死したる母の稱

婢 [人] はしため。みづしめ

脾 [内] 内臓の一、肋骨の内胃の下にあり

痞 [内] 病名、腹内の結ばり痛むもの。つかへ

人 [人] 動物中にて最上等に位し、最も發達したる思想と言語とを有する者

鼻祖 [人] 先祖のこと

微軀 [人] おのが身の謙稱

比丘 [人] 僧の稱、誤りて比丘尼

美女 [人] 美しくしき女

美人 [人] うるはしき女

曾孫 [人] ヒコを見よ

非人 [人] 乞食の稱

貧士 [人] 貧乏なる士

比丘尼 [人] あま

匹夫 [人] 身分の輕き男

匹婦 [人] 身分の輕き女

聖人 [人] すべて凡人に勝れたる人の稱

鄙人 [人] いやしき人。ぬなかも

美婦 [人] 美しくしき女

姫 [人] 女子の美稱。後専ら貴人の女の稱

彦 [人] 男子の美稱。(ヒメに對して)

曾孫 [人] ひひこの約。孫の子。ひまこの

非企 [人] 謀叛に同じ

非義 [人] 義理に違ふこと

誹毀 [人] そしること

誹議 [人] そしり論ずること

悲喜 [人] かなしみとよろこびと

眉宇 [頭] 眉のあたり

跛者 [人] チンパに同じ、(東國)

引手 [人] ひく人。誘ふ人

火消 [人] 火災を防ぎ消すことを職とするもの

引手 [人] 導く人。いざなふ人

僻 [人] ひがむこと。心ねぢけたること

火焚 [人] 火を焚く人

人手 [人] 他人のたすけ

人氣 [人] 人のけはひ

一手 [人] ただ一人の仕事

一人 [人] 人の數一つ

秘訣 (人) 奥の手

悲憤 (人) かなしみいきどほること

秘傳 (人) 藝術などに、秘傳へぬもの

悲鳴 (人) かなしみて鳴くこと

非命 (人) 天命ならで死ぬこと

悲泣 (人) かなしみなくこと

額 (人) 顔の上部の、髪際より眉の邊までのこと

眉目 (人) 眉と目と

眸 (人) 眼の中心の、眞黒に見ゆるところ

僻目 (人) 睛の正しからざる目

鼻音 (人) 氣息の鼻にふれて發する音

鼻息 (人) はないき

鼻孔 (人) はなの穴

美聲 (人) うるはしき聲

美髯 (人) うるはしきほげ

脾腹 (人) 腹の傍。よこばら

皮癬 (人) 病名、濕瘡の一種

平手 (人) 掌を平かに開きたること

秘結 (人) 大便の滯りて通ぜぬこと

脾疝 (人) 病名、甚だしく小兒に多し

鼻腔 (人) 鼻のあな

鼻骨 (人) 鼻の骨

曾祖父 (人) 祖父の父

曾祖母 (人) 祖父の母

美男子 (人) 容貌のうるはしき男子

筆者 (人) 筆を執りて記す人

筆生 (人) 寫字生に同じ

賓客 (人) まらふどのきやく

賓主 (人) 賓客と主人と

火番 (人) 火事を鎮むためにおく番人

貧生 (人) 貧乏なる人

貧民 (人) まづしき民

貧乏 (人) まづしきこと

貧賤 (人) まづしくていやしきこと

貧血 (人) 病によりて血液不足になること

筆耕 (人) 賃を取りて物を寫すこと

評議 (人) 相談すること

敏腕 (人) 物事にすばしきこと

敏才 (人) 物事にすばしきはたらき

匹敵 (人) 相手となること

畢生 (人) 一生。生涯

品行 (人) おこなひ。みもち

微官 (人) いやしき役人

罷官 (人) 官をやめられること

百揆 (人) 多くの役人

日賦貸 (人) 日賦の錢を貸すを業とする人

飛脚 (人) 急事を遠地に通ずる使。人の音信を届くるを業とするもの

姫君 (人) 貴人の娘の尊稱

姫御前 (人) 姫君に同じ

僻者 (人) 心のれぢけたる人

病氣 (人) やまひ

病死 (人) やみて死ぬこと

微力 (人) 勢力の乏しきこと。分際のおとれること

一連 (人) ひとつのつれ

一寢 (人) 二人にて同衾すること

一人子 (人) ただひとり

人足 (人) 人の往來

人垣 (人) 人の垣の如くに立ち並ぶこと

人請 (人) 奉公人などの身元を保証すること。他人に信認せらるること

人影 (人) 人のかけ

人数 (人) 人の数。人として数へらるること

人買 (人) 女兒などをかどはかして賣る盗

人柄 (人) 人の品位轉じて人品のよきこと

人聞 (人) 外の人に聞ゆること

人切 (人) 死罪に處せられたるものを斬るを職とする人

人口 (人) 他人のうばさ

人事 (人) 他人のこと

人聲 (人) 人のこゑ

人様 (人) 他の人人

人種 (人) あるほどの人数

人中 (人) 衆人の中

人並 (人) 世の常の人の例なること

獨身 (人) ヒトリモノに同じ

百會 (人) 前頂の後ろのつむじあるところ

髭面 (人) 髭多き面

人顔 (人) 人のかほ

貧相 (人) まづしげに見ゆる人相

引眉 (人) 眉毛を剃りたる痕に又墨にて眉を畫きたるもの

鼻梁 (人) はなばしら

鼻加答兒 (人) 病名の、粘膜に乾燥閉塞を感ずるもの

平骨 (人) 胸骨のこと

火脹 (人) やけどにて皮膚の腫れ脹れたるもの

引吊 (人) 火傷などにて皮膚のひきつりたること

膝皿 (人) 膝骨(ヒザボネ)の如き骨

膝元 (人) 膝のあたり

一足 (人) 一たびまたぐあし

脾臟 (人) 脾を見よ

引吊 (人) 筋のひきつれて痛むこと

白痢 (人) 痢病の重りて、白色のものを排泄するもの

日震 (人) 病名、日毎に起るおこり

未亡人 (人) 寡婦の自稱をさしていふ

琵琶法師 (人) 平家物語にて琵琶を合せて弾く人

一人前 (人) 大人となること

人心 (人) 人の心。なまきけ。よみかへること

人殺 (人) 非理に人を殺すこと

人無 (人) 面は人なれども心は禽獸に等し

人任 (人) 他人にのみ事を任せおくこと

人助 (人) 人を助くること

人笑 (人) 他人のわらひぐさ

獨旅 (人) 一人にて旅行すること

獨斷 (人) 己れ一人の考へにて定むること

獨立 (人) 己れ一人の力にて事をなすこと

獨者 (人) 妻なき人

日蔭者 (人) 世をしのびてある人

被害者 (人) 害を被りたる人

日傭取 (人) 日やとひをを立つる人

病難 (人) 病氣の災難

病者 (人) 病にかかれる人

病人 (人) 病にかかれる人

左利 (人) 左手の右手よりきくもの

卑屬親 (人) 法律の語、いやしき親族

敏腕家 (人) 敏腕なる人

賓從 (人) 客となりてつき

髭男 (人) 髭の多き男

髭武者 (人) 髭の多き人

被告人 (人) 法律の語、訴へられたる人

美少年 (人) 容貌の美しき少年

引受人 (人) 引受をなす人

挽物師 (人) 挽物の細工を業とする人

毘沙門 (人) 七福神の一

批評家 (人) 他人の詩歌文章などの批評をなす人

皮癬搔 (人) ひぜんをかきたる人

額角 (人) 額の高く出でたところ

額付 (人) 額のかたち

額際 (人) 額髪のはえぎは

額髪 (人) 額の上の髪

病體 (人) 病のあるからだ

白癩 (人) しろはだ

尾閭骨 (人) 人體の骨の一名。臀部にあり

尾骶骨 (人) 脊椎骨の下端

膝頭 (人) 膝の先の高くな

膝小僧 (人) 膝頭に同じ

百尋 (人) ハラワタに同じ

皮膚病 (人) すべて皮膚に生ずる病

一人娘 (人) ただ一人ある息子

秘藏息子 (人) 大切に養ふ息子

秘藏娘 (人) 大切に養ふ娘

一粒種 (人) 最愛なる一人の子

人差指 (人) 手の大指と中指との間にある指

百日咳 (人) 呼吸器粘膜炎に多し

者 (人) 人に同じ

股 (人) 脚の上部の腰に接ぐところ

猛者 (人) 猛士に同じ。ま

門下 (人) 師の門の下にありて教を受くる

門徒 (人) その宗教の信者

秘書官 (人) 官名、大臣に屬する書記

引受人 (人) 身元を引受くる人

被保險人 (人) 保険をなす人

評議員 (人) その事務の評議をなす人

百官 (人) 朝廷のもろもろのつかさびと

貧乏人 (人) 貧乏なる人

貧乏書生 (人) 貧乏なる書生

百姓 (人) 天が下の民の總稱

百姓男 (人) 田舎育の男

百姓女 (人) 田舎育の女

一筋縄 (人) 容易に人の言を用ひざる人などに譬へていふ

獨歩 (人) 同伴者なく己れのみにて歩むこと

獨學 (人) 師につかずして勉學すること

獨笑 (人) ひとりにて笑ふこと

獨按摩 (人) 自身にて按摩すること

獨相撲 (人) 相手もなく一人にて相撲すること

獨住居 (人) 己れ一人のみにて住ふこと

美術心 (人) 美術の趣味を解得する心

餅屋 (人) 餅を賣る家、又

諸手 (肢) ふたつの手

食滯 (内) 食物胃に滯りて消化せぬこと

持主 (人) その物を所有する主

持前 (人) うまれつき

守役 (人) かしづき守る役

貫子 (人) 他より貰ひ受けたる子

貫人 (人) 貰ひ受くる人

門人 (人) 師の門にある人

門生 (人) 門弟(モンテイ) 門人に同じ

諸人 (人) もろもろのひと

門番 (人) 門の番人

文盲 (人) 學問せずして文字を知らぬこと

物賣 (人) 物を賣る人

物書 (人) 文書などを書く役人

物臭 (人) なまげもの

物識 (人) 博く物事に通じたる人

物好 (人) 格段なる物事を好むくせ

物取 (人) 盗賊、おひげなどの業

武士 (人) いくさびと。さむらい

揉上 (頭) 頭の後ろ、首すくるところ

髻 (頭) 髪を頂に集めて束れたるもの

諸肌 (體) 左右の肩

諸差 (肢) 左右の腕

諸膝 (肢) 左右の膝

諸足 (肢) 左右の足

門流 (人) 一門の分れ。技術の一流の分れ

物貫 (人) 乞食のこと

貫泣 (人) 他の泣くに誘はれて泣くこと

貫食 (人) 他より物を貰ひて食ふこと

物心 (人) 世上に通じたる心

物笑 (人) 世上の人の笑ひぐさ

物吝 (人) 物をおしむこと

縛髮 (頭) 亂れたる髪

文部大臣 (人) 官位、の長官 文部省

門外漢 (人) その事に關係せぬ人

【せ】

背 (體) 身體のうしろ。せな

聖 (人) ひじり。聖人

仙 (人) 仙人のこと

精 (人) 精神のこと

性 (人) うまれつき

生 (人) いきてあること

勢子 (人) 獵の時、鳥獸を追ひまばす夫卒

妾 (人) めかけ

癩 (體) 癩に似てかろき腫物

疝 (體) 病名、腰腹以下の痛むもの

咳 (内) 喉の塞がるやうなる時急に聲を立てて出る氣息

拙下 (人) 自分の謙稱

拙父 (人) 他に對して己が父の謙稱

拙母 (人) 他に對して己が母の謙稱

拙子 (人) 他に對して己が子の謙稱

節士 (人) 節義を重んずる人

節婦 (人) みさを正しき女

悴 (人) 他に對して己が子の謙稱

世子 (人) 諸侯の嫡子の稱

生母 (人) うみの母

先子 (人) 死にたる父(子よりいふ)

先妣 (人) 死にたる母(子よりいふ)

先祖 (人) 家筋の初代の人
 先夫 (人) さきのをつと
 姓氏 (人) かばれとうぢと
 戦士 (人) つはもの
 戦死 (人) うちぢに
 専使 (人) 特別に發する使者
 船子 (人) ふなこ
 賤奴 (人) しもべ。やつこ
 世人 (人) 世の中の人
 攻手 (人) 攻め寄する人

施主 (人) 僧に物を施す人
 生徒 (人) 學校にありて教を受くる人
 生俘 (人) いけどりたる人
 星使 (人) 天皇の派遣し給ふ使者
 星家 (人) 天文を研究する人
 女衒 (人) 遊女などの口入
 世才 (人) 世の中の事情に通じたる才
 誠意 (人) まごころ
 靜思 (人) しづかに思ふこと

生氣 (人) 氣息ありて生き
 精氣 (人) 精神に同じ
 賤微 (人) 賤卑(センビ)身分のいやしきと
 專恣 (人) わがままなること
 折死 (人) わかじにすること
 小子 (人) 他に對して己をいやしめていふ
 小兒 (人) こども
 小氣 (人) 小膽に同じ
 少婦 (人) 年わかき女
 少子 (人) 末の子

樵夫 (人) きこり
 焦思 (人) 氣をもむこと
 笑止 (人) 他人の人笑ひとに思ふこと
 舌疽 (人) 舌に生ずる腫物
 雪肌 (人) 雪の如く白き肌
 背中 (人) 背の中央、背骨にあたること
 背筋 (人) 背骨の通りたるところ
 背骨 (人) 背の真中に頂よる骨
 偃偻 (人) 病名、背の屈まくなれるもの

疝氣 (人) 病名、疝を見よ
 泄痢 (人) はらのくだること
 赤痢 (人) 病名、痢病に同じ
 成童 (人) 十五歳になるもの
 成丁 (人) 法律上の語、成人して一人前となりたること。即ち満廿歳
 成年 (人) 法律の語、能力者となる人の年齢。我國にては満二十歳
 聖主 (人) かしこき君主
 聖人 (人) 智徳共にすぐれたることなき人の稱
 聖哲 (人) 聖人と哲人と

世系 (人) 代代相續すべき血筋
 世臣 (人) 代代事ふる家來
 西人 (人) 西洋の人
 西哲 (人) 西洋の賢人
 先主 (人) さきの主
 船客 (人) 船に乗る人
 船主 (人) 船の持主
 船員 (人) 船に乗り込みぬる人
 船頭 (人) 船長に同じ。又船を漕ぐを業とする人
 仙客 (人) 仙人のこと

先達 (せんだつ) (人) 競争などの時第一等を取る人
 先達 (せんだつ) (人) 藝術などに長けたる人
 先哲 (せんてつ) (人) 先輩のかしこき人
 先輩 (せんぱい) (人) 己れより先きに學問した人。己れより年上の人
 先方 (せんぱう) (人) さきの人。相手の方
 先役 (せんやく) (人) さきとその役を勤めたる人
 先妻 (せんさい) (人) さきの妻
 先考 (せんかう) (人) 死にたる父 (子よりいふ)
 先人 (せんじん) (人) 亡き父 (子よりいふ)

先生 (せんせい) (人) すべて技藝に長けたる人の尊稱
 先帝 (せんてい) (人) さきの代の天皇
 先代 (せんだい) (人) 今代より前の代の人
 正賓 (せいひん) (人) 正しき客人
 正人 (せいじん) (人) 心、行の正しき人
 正統 (せいとう) (人) 正しき血筋
 正犯 (せいはん) (人) 法律の語、主として罪を犯したる人
 正妻 (せいさい) (人) 本妻のこと
 成人 (せいじん) (人) 大人になること。少年のおひたつこと

前主 (ぜんしゆ) (人) 前の主人
 前人 (ぜんじん) (人) 前の世の人
 前哲 (ぜんてつ) (人) 先哲に同じ
 前科 (ぜんこ) (人) 前に犯したる罪
 前犯 (ぜんはん) (人) さきに犯したる罪
 生兵 (せいへい) (人) まだ戦はぬ兵
 生民 (せいみん) (人) 國の民
 生命 (せいめい) (人) いのち
 生來 (せいらい) (人) うまれつき
 生靈 (せいれい) (人) たみ。人民

青年 (せいねん) (人) としわか。わかもの
 青盲 (せいまく) (人) あきめくら
 精兵 (せいへい) (人) えりぬきの兵
 正室 (せいしつ) (人) 本妻のこと
 政治家 (せいぢか) (人) 政治の術に長じたる人
 製圖家 (せいずか) (人) 製圖に長じたる人
 征人 (せいじん) (人) 征伐に出で行き旅立つ人
 齊民 (せいみん) (人) 平民に同じ
 世話好 (せわこう) (人) 他人のためを好むこと
 世話好 (せわこう) (人) 他人のためを好むこと

世話人 (せわにん) (人) 物事を世話する人
 世話役 (せわやく) (人) 物事の世話をなす役
 世話焼 (せわやき) (人) 世話をやくこと
 世話焼 (せわやき) (人) 世話をやくこと
 噪急 (せうかく) (人) 心のおちつかぬ性質
 接待 (せうたい) (人) 客をもてなすこと
 節操 (せつさう) (人) みさを
 拙者 (せつしや) (人) 他に對して己が身の謙稱
 拙生 (せつせい) (人) 拙者に同じ
 竊盜 (せつたう) (人) ひそかにぬすむをすること。又はその人
 遷客 (せんかく) (人) さすらふる人

先君 (せんくん) (人) 先代の君。亡き主君
 仙人 (せんじん) (人) 人間界を離れて山中などに棲み神通力を得たる人
 選手 (せんしゆ) (人) チャンピオン、(ちの部を見よ)
 薦紳 (せんしん) (人) 身柄のよき人
 染工 (せんこう) (人) そめものや
 撰者 (せんじや) (人) 書物、文章などの作者
 賤民 (せんみん) (人) いやしき民
 千客 (せんかく) (人) 數多の客
 全權 (ぜんけん) (人) そのことにつきその十分の權力
 善人 (ぜんにん) (人) よきひと

善心 (人) よき心

關取 (人) 相撲の大關、轉じて相撲取

石女 (人) はらまぬ女。うまづめ

石心 (人) かたき心

赤心 (人) まごころ

政權 (人) 政治を行ふ權力

政黨 (人) 政治を談論するを目的として組織せる黨派

整骨 (人) ほねつぎ

性質 (人) うまれつき

性格 (人) うまれつきの品格

性癖 (人) うまれつきのくせ

誠實 (人) 誠心(セイシン)まごころ

聲望 (人) ほまれ

精根 (人) 精力。根氣

精神 (人) 心のほたらき。

精靈 (人) たましひ

背高 (人) 身の丈の高きこと

背低 (人) 身の丈の低きこと

生蕃 (人) 未だ王化にうるほはぬ野蠻の民

生誕 (人) うまるとのこと

小身 (人) 身分の卑しきもの

小人 (人) 年若き人。無智の人

小童 (人) こども

少壯 (人) としわか

小心 (人) 心の小なること

小膽 (人) 氣の小さきこと

少年 (人) 年若き人

少女 (人) 年若き女

宵少 (人) 小人に同じ

賤業 (人) いやしきなりは

性急 (人) 氣短きこと

前額 (人) ひたへ

舌端 (人) 舌頭(セツトウ)舌のさき

聲帯 (人) 喉頭を横りて左右に一枚づつある膜

舌癌 (人) 舌に生ずる癌腫

小腦 (人) 頭大腦の後方にある腦髓の一部

全身 (人) 身體のこらす

脊骨 (人) せぼね

脊髓 (人) せぼねの中にある髓

小腹 (人) したばら

前陰 (人) まへのもの

纖手 (人) 細き手

生血 (人) いきち

星學家 (人) 星學にくはしき人

先客 (人) さきに來れる客

少將 (人) 武官の名、中將に位す

戰死者 (人) 戦ひて死に死したる人

船長 (人) 船のなさ

船將 (人) 軍艦の大將

小説家 (人) 小説をかく人

宣教師 (人) ヤソ教をひるむる教師

錢貫 (人) 乞食のこと

瀬戸物屋 (人) 瀬戸物家、又はその人

洗濯屋 (人) 洗濯をする家、又はその人

製本屋 (人) 製本を業とする家、又はその人

製本師 (人) 製本を業とする人

製薬師 (人) 薬を製する人

小兒科 (人) 醫術の一種病を治むるもの

全力 (腕) あらん限りの力

消防夫 (腕) 火災を防ぎ消す人

隻脚 (腕) 片方の足。かたあし

腺病 (内) 病名、小兒の結核性病

小腸 (内) 十二指腸の次にある小腸

疝癢 (内) 病名、胸腹の痛み。みて瘰癧を起すもの

西洋人 (腕) 西洋の人

生命刑 (腕) 法律の語、人の生命に關する刑

精算人 (腕) 法律の語、會社の語、散する時精算の義務ある人

請願人 (腕) 請願する人

競賣商人 (腕) せりうをなさす商人

接待員 (腕) 客をもてなす役目の人

千兩役者 (腕) 上等なる役者

前科者 (腕) 以前犯したる罪ある者

精神病 (腕) 精神に異状を呈せる者

選舉人 (腕) 選舉する人

選舉權 (腕) 議員を選舉すべき法律上の權利

專用權 (腕) 特許版權などによりて得たる權利

占有權 (腕) わがために以て物を所有する權利

全權公使 (腕) 公使の第一等なるもの

世間不知 (腕) 世の事情に通ぜざる人

前頭骨 (腕) 頭蓋の前部をなすもの

【す】

掏摸 (腕) 行路人の携へたる品などを掠め取る人

數寄 (腕) 風流文雅の技の心よするもの

髓 (腕) 骨の中において、纖維の如きもの

臍 (腕) ハギに同じ、はの部を見よ

臍 (内) 臍腑の名、胃の下部にありて長形もの

水師 (腕) 海軍のこと

水夫 (腕) 水かき。舟子

炊夫 (腕) めしたき男

炊婦 (腕) めしたき女

數人 (腕) 多くの人

相撲 (腕) 二人にて力を闘はすこと

助手 (腕) すけをする人

末子 (腕) 最後に生れたる子

棄子 (腕) 貧に迫りて養育などにしてたる子

牙僧 (腕) 賣買の媒介を業とする人。古着などの仲買をなす女

梳手 (腕) 女髮結の手傳をする者

炭屋 (腕) 炭を商ふ家、又は炭を製して賣る家、又はその人

鮎屋 (腕) 鮎を製して賣る家、又はその人

素顔 (腕) 假粧などせぬ顔

眇 (腕) 片日常の如くならぬもの

水氣 (腕) 病名、體中の水分の間に溜りて腫れふくるもの

素足 (腕) 履物をばかぬ足

水軍 (腕) 海軍のこと

水手 (腕) ふなこ。かこ

水兵 (腕) 海軍に屬する兵士

醉客 (腕) 醉漢(スキカン)酒に酔ひたる人

衰老 (腕) 年老ひて衰ふること

衰耄 (腕) おひぼるること

隨身 (腕) 主につき従ふ人

隨員 (腕) 従ふ人

酢豆腐 (腕) なまいきなる人(俗語)

助勢 (人) 助けに行ふ軍勢
 末末 (人) しみじもの賤しき人
 末子 (人) 最後に生れたる子
 生業 (人) 世わたりのしわざ
 數寄者 (人) ものすきな人
 炭賣 (人) 炭を賣りある人
 炭焼 (人) 炭をやくこと、又はその人
 簾屋 (人) 簾を作る人。又はその家
 數口 (人) 數ある人
 數人 (人) 數口に同じ

水葬 (人) 死骸を水中に流し棄つること
 推想 (人) 思ひやり
 水戦 (人) ふないくさ
 水泳 (人) 水をおよぐこと
 推考 (人) 推しばかりて考ふること
 垂憐 (人) あわれと思ふこと
 垂涎 (人) よだれを流すこと、欲しと思ひてらふこと
 透屁 (人) 音のたたぬやうにする屁
 索性 (人) 姓氏の出づる所血すぢの來歴
 硯屋 (人) 硯を商ふ家。又はその人

助兵衛 (人) 女色を好む人
 無情 (人) 人づきわろし。愛想なし。つれなし
 醉眼 (人) 酒に酔ひたる時の眼つき
 素裸 (人) スハダに同じ
 筋骨 (人) 筋のやうなる骨
 擦傷 (人) すりむきたる傷
 酔體 (人) 酒に酔ひたる時の有様
 水膿 (人) 薄きうみ
 水腫 (人) 病名、水氣に同じ
 水痘 (人) みづいも

睥臆 (人) 睥を見よ
 睥液 (人) 睥より分泌して十二指腸に送る消化液
 空腹 (人) 腹のへりたること
 寸白 (人) 病名、スパタに同じ
 水瀉 (人) 水をそそぐが如く下痢すること
 救主 (人) 救ひ助くる人
 相撲取 (人) 相撲を取る人
 芻蕘 (人) 草を刈る人と、柴を刈る人と
 素浪人 (人) 浪人をいふしめていふ

素寒貧 (人) 極めて貧乏
 啜泣 (人) 鼻汁を啜りながら泣くこと
 粹狂 (人) ものすき
 醉狂 (人) 酔ひて狂ふこと
 隨性 (人) 生れつきての運命
 推稱 (人) ほむること
 推量 (人) おしはかること
 推重 (人) おし重んずること
 衰弱 (人) おとろへよぼること
 坐瘤 (人) スハリダコに同じ

垂髫 (人) 小兒のたれがみ
 素町人 (人) 身分いやしき町人
 樞密顧問官 (人) 樞密院にて重要な國務を掌る役
 坐相撲 (人) 坐りて居て相撲を取る
 寸關尺 (人) 手首の下の腕のうつのところ

言語

【いぬ】

威 [名] 威光と云ふに同じ

異 [名] ことなると云ふ意

畏 [名] おそれかしこむ

違 [他] たがふに同じ

偉 [名] 大なるの謂

色 [名] 光線の作用に依て眼に映する物體の色彩

市 [名] 天地門を見よ

入 [自] 外に對して内に入る

入 [他] 納む又償ふ。費すの意

寢 [自] 臥床につきて眠る事

射 [他] 矢を放つこと

煮 [他] 物を火にかけて水氣を煮るまで煮る

炒 [他] 豆米の類を炮烙にて炙る

鑄 [他] 金屬を鑄し型に入れて器具を製す

出 [自] 内より外へ出する。發する。立ち出づ

友 [名] とも

有 [名] わがものとなること

居 [自] そこにある。すわる。住む。集りとどまる

否 [副] 打消しの語

忌 [他] いなむ。憚る。嫌ふ

忌 [名] 佛の忌日を云ふ。忌服

韻 [名] 音のひびき。漢字音の相應する類別

今 [名] 只今。現在。目の前の時

今 [副] もうぢき。おつつけ今の時

息 [名] 動物の呼吸

生 [名] 生存の意

生 [名] 着の生きたるを云ふ 東京語

癒 [自] 病などの治すること

位置 [名] 物のあるところの居場所

意地 [名] 堅く思ひ込みたる心

維持 [名] もちこたへる意

遺利 [名] 他人の見遺したる利益

以下 [名] 標準より下

何時 [名] いづれの時。疑の時間。常の時

以後 [名] これから後

位記 [名] 叙位の旨を記して賜ふ文書

威儀 [名] 威光高き様子

意志 [名] こころもち。こころの底

意氣 [名] こころばせ。氣象。こころいき

意義 [名] 意味に同じ

意味 [名] こころもち。わけがら

異議 [名] 異なる議論

異味 [名] 異様の味あるもの

委棄 [名] すつること

萎靡 [名] なえしなるるの意

縊死 [名] くびれ死すること

委員 [名] 人事門を見よ

異域 [名] 異なるる國

色香 [名] 艶にして美なること。女のうつり香

色氣 [名] 衣服などの色合

色眼 [名] 染色の名。情ありげなる目使ひ

異論 [名] 他と異りたる議論

慰勞 [名] 骨折をなぐさめる

遺漏 [名] もれ落つること

祝 [名] いはひごと

祝 [自] 目出度事あるを祝ふ

謂 [名] 言ふべき由緒

違背 [名] 約束にたがふこと

違犯 [名] 法則にたがふこと

委任 [名] ゆだねたたくす

遺墨 [名] 人の死したる後にのこし置ける筆蹟

違法 [名] 法にはづれたること

遺忘 [名] わすれざること

異邦 [名] 外國に同じ

異變 [名] 非常の出來事

彙報 [名] 書あつめて報ずること

厭 [名] 惡み嫌ふ。いたはる

挑 [名] 競ひ争ふ。しかける

暇 [名] 時のひま。別を告ぐる。役を退く

愛憐 [形] かはゆきこと

異同 [名] 異なると同じき

異動 [名] 動きかはる

醫道 [名] 醫術の道

威徳 [名] 威あり人徳ある

移動 [名] うつり動く意

弄 [名] 手にとりて弄ぶの意

一字 [名] 残らず。あまさ

一義 [名] 一議(イチギ)

一議 [名] ある一つの事柄

一期 [名] 一つの議論

一座 [名] 一生涯に同じ

一時 [名] 同席に同じ

一度 [名] ひとたび

一理 [名] 一つの道理

一位 [名] 第一の位

一味 [名] 同じ味方を指す

入目 [名] 費消したる金銭の高

異類 [名] 異なりたる種類

以往 [名] これから後

活 [名] 蘇生させる。魚などを活けて置く。有効につかふ

争 [名] どうしても。何すれぞ

如何 [名] どのやうに。どう(疑の意)

醫學 [名] 醫術の學問

鑄懸 [名] 銅鐵器の破損をつくらうこと

遺骸 [名] なきがらに同じ

遺憾 [名] うらみ多きこと。のこり多きこと

位階 [名] 位の階級

異様 [名] 常に異なる様子

甚 [名] はなはだしく。きつ

抱 [名] 両の腕にてかかへる。内に圍む。胸に深く思ふ

痛 [名] 痛を感じる。哀

傷 [名] 痛傷(ツウシヤウ)

致 [名] 甚だしく哀むこと

出 [名] どうかす。爲す。行

痛手 [名] 内より外へやる。隠

異端 [名] 深手(フカテ)手

委任 [名] ゆだねまかす

居丈 [名] 坐りたる人の高さ

違例 [名] 常の例にたがふ

急 [名] 事を早めいそぐこと

勤 [名] よくつとめばたらく

異存 [名] 他に異なる考

異相 [名] 常に異りたる人の相

意想 [名] おもひ居ること

遺族 [名] 死者の後にのこ

遺俗 [名] 古よりのこれる習俗

委嘱 [名] 委託を見よ

齊 [自] 神に謙み仕ふることに

何 [代] どれ。其中。二人ある中の一人 (不定の代名詞)

寧 [副] むしろを見よ

例 [副] いつにても。つれに

何時 [副] いつの時にかの

何處 [代] イツラ。いづくの場所に用ゆる代名詞

何地 [代] 何處に同じ

早晚 [副] 遅かれ早かれ。

一家 [名] 同じ血族のや

一家 [名] の總稱。ひとつ

一揆 [名] 土民蜂起して亂

一己 [名] 我一人の意

一派 [名] 一つの流儀

一手 [名] 我のみ行ふ。甲

逸話 [名] 正史に脱けたる話。個人の隠れたる逸事の話

逸事 [名] 正史に逸したる事柄

辭 [他] 承知せぬこと。ことわりを云ふこと

居着 [自] 一ヶ所に居を定むる

應 [名] 返事をする。間に答ふる

以來 [名] それより後。それから

依頼 [名] 人により頼むこと

吋 [名] フートの十二分の一。我八分三厘八一に當

陰氣 [名] 氣分開かぬ事。陰鬱

隱語 [名] かくしことば

隱事 [名] 隠れたる事。かくしごと

韻事 [名] 風流の稱

韻致 [名] みやびなる趣

引致 [名] 引き寄する。警察へなど連れ行くこと

員數 [名] 物の數

命 [名] 人事門を見よ

祈 [他] 神佛にこひねがふ

軍 [名] 合戦に同じ

幾日 [名] いくつもの日

幾箇 [名] 物の數。未定の數。多くの數

幾重 [名] 物の數の重なりたる謂

幾世 [名] いくばくの世。多くの時代の

幾等 [副] 幾何に同じ。どのもの意

遺訓 [名] 先人の遺し置けたる教へ

遺言 [名] ユイゴン。先人の遺し置きたる

偉勳 [名] 大ひにすぐれたる手柄

居食 [名] 仕事せずして空しく坐食せると

癒 [他] 病を治すること

賤 [形] 身分卑しき。劣りたる。いやしむべき

違約 [名] 約束にたがふこと

在 [自] 在りの敬語

未 [副] 時の至らざる謂

今際 [名] 死する間際。臨終。最後のきわ

意見 [名] 心に思ふところ。警めの言葉

威嚴 [名] 威ありおごりか

威權 [名] 威光と權力と

威風 [名] 威光の人に及ぶ

威服 [名] 威光を以て人を我に従はしむ

威信 [名] 威光と信用

遺風 [名] 古よりのこりたる風俗

遺文 [名] 先人の遺せる文章

異風 [名] 常に異なる風俗

燻 (他) 火を焚きて煙をめぐ

息 (自) 息をつく。やすむ。

射込 (他) 矢を射中ること

異香 (名) 異なる匂ひ

遺恨 (名) のこし恨。長く

偉功 (名) 大なる手柄

夷狄 (名) 及びす國

遺傳 (名) 血統により傳は

移轉 (名) ワタマシ。他の

遺愛 (名) 先人生前に愛し

居合 (名) 劍術の一派。劍

勇 (名) いきほひあること

諫 (他) 他に異見を加ふ

委細 (副) ことこまかの意

違算 (名) 算用の違ふこと

違作 (名) 作物實り悪しき

違命 (名) 命令にそむくこ

遺産 (名) 死後に遺せし財

遺作 (名) 漏れたる計略

遺命 (名) 先人の遺せし

異彩 (名) 異なりたるいろ

膝行 (自) 膝にて匍ひ行く

熱 (自) あつくなる。ぢりぢ

醫業 (名) 醫師のする業

偉業 (名) 大なる事業

衰急 (自) 腹に力を入れて

意氣地 (名) 他に負ざる

諱 (名) 謚(オクナ)實名を

移民 (名) わが國の人民を

異人 (名) 常と異りたる人

意嚮 (名) 心の向ふところ

意識 (名) 思慮又は考へ

意趣 (名) 心の向ふところ

遺業 (名) 先人の遺せる業

遺失 (名) 物をとれり落すこ

慰藉 (名) 心のなぐさめ

違式 (名) おきてにそむく

維新 (名) 凡てを新たにす

苛責 (他) 責めさいなむ

異説 (名) 異なりたる説

以前 (名) これより前。むかし

遺跡 (名) 古跡。舊跡

依然 (名) もとのまま

優 (副) しとやかに。やさし

有司 (名) やくにん

有無 (名) あるとなきと

有志 (名) その事に志ある

有餘 (名) あまりあること

有爲 (名) 事業をなすべき

有事 (名) 戀事のあること

憂喜 (名) うれへとよろこ

憂苦 (名) うれへくるしむ

憂懼 (名) うれへおそるる

友誼 (名) 朋友のよしみ

遊戯 (名) 遊び戯るること

遊絲 (名) 糸という

遊惰 (名) なまくること

遊歩 (名) 遊びあるること

猶豫 (名) ためらふこと。

優美 (名) やさしくうつくしきこと

誘致 (名) いざなふこと

幽致 (名) しづかなるおもむき

醫療 (名) 醫術にて病を治す

色色 (名) さまざま。くさくさ

色合 (名) 物の色氣

色上 (名) 染色の継せたるを再び染直すと

色差 (名) 色を差し入るること

色付 (名) 色を生ずること

色取 (名) 彩色すること

色分 (名) 圖面などを色にて區別する

色艶 (名) 顔などの色と艶

色摺 (名) 彩色印刷をする

況 (副) ましてや。その上にも

所謂 (副) 世に云ふところ。常に云ふが如き

古 (名) 時候門を見よ

家柄 (名) 貴き家系

家筋 (名) 代々の血統

家附 (名) その家に屬せるもの

家並 (名) 家の立並びたる

緒 (名) 物の端緒

營 (自) 用意する。支度する。調ふる

井戸替 (名) 井戸の浚渫

逸物 (名) 多のものの中に抜け出でたる物

逸足 (名) 急ぎ行く足

意地盡 (名) 意氣の限り

虐 (他) 責める。苦しめる。

意中 (名) 心の中を云ふ

一列 (名) ひとつらに。ひとつとなみに並ぶ謂

一禮 (名) 會釋(エシヤク)禮儀をすること

一門 (名) 一家一族

一目 (名) 一目に見渡すこと

一面 (名) ある一方を見ること。あまれし

一圓 (名) 土地などのあまれき面積。さら

一薦 (名) 年功を積み人の長たる人の稱

一覽 (名) ひとわたり目を通すこと

一類 (名) 同じ種類

一別 (名) 一度別れること

一枚 (名) ひとひら

一名 (名) 一人の人。又の名。別の名

一番 (副) 第一位。試みに。かりに力を單むる言葉

一樣 (名) 同じやうに

一葉 (名) ひとは。小舟を指す

一應 (副) ひとわたり

一族 (名) 門に同じ

一存 (名) 自己一人の考

一代 (名) 一生涯の間。一家主人主宰の間

一言 (名) ひとことば

一段 (名) 淨瑠璃などの段數。ひとときわ

一念 (名) ひとつの思

一因 (名) ひとつの原因

一躍 (名) ひとおどりして

一同 (名) 坐にあるだけの

一任 (他) 他人に一切をまかす

一藝 (名) 一つの藝術

一獻 (名) 盃を一さしす

一向 (副) 一すじに。ひとむきに。絶えて

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
 種 緒 變 新 式 切 件 見 決 舉
 [名] [副] [名] [名] [名] [名] [名] [名] [名] [名]
 ひといろ ひとまとめにす ひとかほりする 萬事を新たにす いるにて他を交 おしなべて ひとくだり ひとわたり見る ひとつに決する ひとたび行ふこ

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
 本 點 徹 體 睡 層 說 戰 世 滴
 [名] [名] [名] [副] [名] [名] [名] [名] [名] [名]
 ひとつもと ささかなることい ひとすぢに おしなべて ひよれむり ひときは ある説 ひといくま 其時代 ひとつしづく

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
 心 對 方 杯 德 統 般 品 風 片
 [名] [名] [名] [名] [名] [名] [名] [名] [名] [名]
 ること つの同じもの ひとつの方角 物の器に充實す 一つの徳 ひとつに統ぶる おしなべて 二つとなき品 ひとつふり ひとつひら

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
 入 込 入 組 入 用 煎 附 煎 附 射 外 如 何 如 何 如 何 如 何 程
 [名] [自] [名] [名] [名] [名] [名] [名] [名] [名]
 入りまぢること 事の錯雜して亂 めニフヨウ。いり 水氣なく煎つけ たる食物の稱 水氣なきまで煎 つくこと 射て中らぬこと なるほど。もつ とも。實に。な 實にもつと どののやう かに程。い

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
 傷 撫 勞 頂 戴 愈 偽 物 嚴 爭
 [形] [他] [自] [名] [他] [副] [名] [形] [副]
 哀れなる謂 愛しあはれむの意 骨を折る。勞れる 頭の上。山の絶巔。 物の尤も上の部 頭上にのせる。自己 賜はる 戴の長上を仰ぐ。物を 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
 嘶 逸 散 鑄 漬 偽 日 外 何 方 入 智 惠 煤 惡 戲
 [自] [名] [名] [名] [名] [名] [名] [名] [名] [名]
 馬の聲高く鳴く ひたすぢにいそ 多くある中に殊 にすぐれたる品 し地金となす だます。あざむく 過ぎし日 いろいろの方。ど 他より教へ られたる智 食物などを油にて煎 りつくること 無益なる惡き戲

居直 いなる [自] 容をあらためて坐す

居續 いづつ [名] 長く居つづけること

居住 いすまひ [名] 居さまの謂

居坐 いすはる [自] 長く坐り込む

苛立 いらだつ [自] 心のいれ急ぐこと

陰火 いんくわ [名] 燐火などの燃ゆる怪し火

陰徳 いんとく [名] 人知れず善事を行ふこと

陰陽 いんやう [名] 陽は表陰は裏、萬物相反する意

陰謀 いんぼう [名] ひそかに企つる計謀

隱遁 いんとん [名] 世事を厭ひ山野に隠れ住むこと

隱蔽 いんぺい [名] おほひかくすこと

隱宅 いんたく [名] 隠居せる人の家

隱匿 いんとく [名] かくすこと。かくまふこと

印刷 いんさつ [名] 物を版に起すこと

引率 いんそつ [名] ひきあること

引導 いんどう [名] 引きみちびく。浄土に導く事

引例 いんれい [名] 例を他より引き用ゆる

引用 いんよう [名] 引き用ふること

引見 いんけん [名] 引入れて見ること

因縁 いんえん [名] 事物の原根。佛家にて云ふ因縁

因果 いんぐわ [名] 佛説に物因あれば果ありと云ふ

因業 いんごふ [名] かたくなの稱

音信 おんしん [名] おとづれ

音物 おんぶつ [名] 音信の印として贈るもの

慇懃 いんぎん [副] れんころ。丁寧

淫奔 いんぽん [名] みだりがましきこと

淫亂 いんらん [名] 淫を縦にする

淫風 いんふう [名] みだりたる風俗

淫賣 いんばい [名] 女子の淫をひさぐこと

湮滅 いんめつ [名] うづまりきえさること

院宣 いんせん [名] 上皇のおほせご

幾何 いくばく [副] 若干(シヤクカ)に程の意

幾人 いくたり [名] 「イクニン」不定の人数

意外 いぐわい [名] おもひの外

威光 いくわう [名] 畏れ敬ふべき人の勢

威嚇 いくわく [他] おどし。おびやかす

以還 いこわん [副] このかた。その後。以後に同じ

以外 いぐわい [名] これより外

賤 いやしむ [他] 見下す。見くびる。さげすむ

彌増 いやはし [副] ますますの意

今頃 いまごろ [名] 今時分

今更 いまさら [副] 今となりて。今に及んで

今間 いまま [名] 今の時の内

今風 いまふう [名] 現代の風俗

今様 いまやう [名] 當世風。今様歌

戒 いまいしめ [名] 人をいましむること。我自らいましむること

戒 いまいしむ [他] 戒めに同じ

生捕 いけとり [名] いけどること。生擒にすること

生捕 いけとる [他] 生捕りに同じ

生剝 いけはぎ [名] 生きたる獸の皮を剥ぐ

訝 いぶかる [他] 怪しみ疑ふ意

出立 いでたち [名] 出て行くこと

居合 あはす [自] 居りあはせたること

諍 いさかひ [副] 人といひ争ふこと

聊 いさかひ [副] かりそめに。わづか。

些 いさか [名] すこしばかり。些少

誘 いざなふ [他] さそふ。導く

勇 いさか [形] 勢の強くすさまじき事

生生 いせい [副] 潑潑(ハツラツ)生けるが如く勢よく

生理 [名] 生きながら地に埋めて殺すこと

息繼 [名] 休息をする

息巻 [自] 敦圀。怒りたけ

息張 [自] いきむに同じ

息急 [副] 烈しく急ぐこと

息込 [名] 競かかる勢

意氣張 [名] 意地を張りて競ひ争ふ

勢 [名] きはふ力。他に打勝つ力。元氣の發揚

異形 [名] 常に異なる形

異名 [名] 別につけたる名

異状 [名] 異りたる様子

異稱 [名] 異なりたる稱號

委曲 [名] くばしく

忌明 [名] 忌服の果てたる

醫術 [名] 病を治する術

以上 [名] この上。より上

衣食 [名] 衣服と食物と

畏縮 [名] おそれちぢむ

居職 [名] 自家にて職業を營む。多く技藝

言合 [名] 互に物をいひあ

言入 [他] 言ひ込む謂

言掛 [名] 話し始め。和歌に渉る言葉

言切 [他] 斷言(ダンゲン)言葉絶つこと

言種 [名] 言ふべき材料

言消 [他] 他の話を打消す

言事 [名] 言種に同じ

言様 [名] 物の言ひ振

言立 [他] いひ振ること。取出て云ふこと

言付 [他] 命令する。告口

言付 [名] 命令。仰せこと

言次 [他] 言ひ傳へる

言做 [名] 言様に同じ

言拔 [名] 言ひまぎらす

言張 [他] 自己か意見を云ひ通す

言分 [名] いひぐさ

言前 [名] 言分に同じ

言様 [名] 物云ふ様子

言寄 [他] ものを云ひかけ

言譯 [名] 辨解(ベンカイ)事(ベンメイ)の譯をいひ開くこと

言分 [他] 是彼のいひわけ

言捨 [他] 云ひたるままにすて去ること

意匠 [名] 物の工夫。心のたくみ

友愛 [名] 兄弟朋友の交り

友道 [名] 朋友の相共に交

誘引 [名] いざなふこと

誘掖 [名] いざなひたす

誘拐 [名] 人をいざなひか

誘導 [名] いざなひみちび

憂鬱 [名] 氣がふさぐこと

憂國 [名] 國家のことを思

憂心 [名] うれふる心

憂世 [名] 世の事をうれふ

憂愁 [名] うれへ

憂憤 [名] 憂ひ憤ること

憂悶 [名] うれへもだうる

憂慮 [名] しんばい

有要 [名] 入用のあること

有益 [名] やくにたつこと

有形 [名] すべて形のあら

有功 [名] てがらのあること
 有罪 [名] 罪のあること
 有害 [名] 害のあること
 有毒 [名] 毒のあること
 有菌 [名] 微菌を含みてあること
 有識 [名] ひろく物の道理を知りてあること
 有道 [名] 徳行のすぐれたること
 有徳 [名] 徳を具ふること
 有福 [名] 富みてゆたかにくらすこと
 有名 [名] 名高きこと

有數 [名] 僅かに數ふるほどあること
 遊行 [名] あそびあること
 遊學 [名] 他國に行きて學問すること
 遊藝 [名] すべて遊戯に屬したる藝能
 遊獵 [名] ながさみに獵すること
 遊俠 [名] をとこだて
 遊說 [名] 諸國を歴遊して己が意見を説くこと
 遊蕩 [名] みもちの悪しきこと
 遊樂 [名] 遊び楽しむこと
 遊覽 [名] 遊びながら見る

遊歷 [名] 諸國を歴廻ること
 遊宴 [名] 酒宴を張りて遊ぶこと
 游泳 [名] およぎ
 郵信 [名] 郵便にて通はす音信
 郵書 [名] 郵便にて送る手紙
 郵稅 [名] 郵便稅の略
 郵送 [名] 郵便にて送ること
 郵亭 [名] しゆくば
 郵便 [名] 書狀葉書などを運送すること
 幽界 [名] 人の目に見えぬ

幽閑 [名] ものしづかなること
 幽居 [名] 世事を避けて閑靜なる地に住むこと
 幽玄 [名] 趣意深く遠くて容易に知り難きこと
 幽邃 [名] 木などのしげりて閑靜なること
 幽明 [名] くらきとあかるきと
 幽閉 [名] 人を一室に閉ぢこむること
 幽囚 [名] 捕へて押し込めらるること
 幽冥 [名] かすかなること
 幽靜 [名] しづかなること

優待 [名] あつきもてなし
 優等 [名] 物事のすぐれたること
 優筆 [名] 手跡の上手なること
 優柔 [名] 活潑ならぬことぐづぐづとする
 優劣 [名] まさりおとり
 優詔 [名] てあつきみこと
 優勢 [名] 勢のまさりてあること
 宥恕 [名] 過失をゆるすこと
 宥免 [名] 罪を赦すこと
 尤物 [名] すぐれたるもの

一流 [名] 別派の流義
 一笑 [名] ひとわらひ
 色好 [名] 女色を好むこと
 色狂 [名] 女色に溺るること
 色直 [名] 婚姻の節女子の白小袖を色小袖に替ふるなど
 色變 [名] 普通の色と變りたる小袖の上下の色
 家續 [名] 家の建連りたる
 絲競 [名] 琴三味線などを弾き合はすこと
 著 [形] 別けて目に立つこと

逸速 [名] 別けて早し

一大事 [名] 重大な事件

一代記 [名] 一代の事を記す

一定 [名] 事の一むきにとり極むる事にて

一興 [名] 一つの面白きこと

一貫 [名] ひとつつらぬき。錢百文(物名門)

一天下 [名] 天下をこそりて

入替 [他] 他と我と入りか

入交 [自] 入りちがひとな

入亂 [他] 混亂するの謂

入佛事 [名] 費用のみ多く利益なきこと

啞合 [自] 云ひ争ふ。咆りを以て争ふ。心又は口

如何許 [副] どのくらゐ

居疎 [自] すくみて居る

居丈高 [副] 居丈を高く

忙 [形] いそがしき形

急足 [名] 早足にて歩む

慈愛 [他] かけゆがること

安 [副] いづれのところにか

因循 [名] 奮發心なきこと

引力 [名] 物を引く力

命懸 [名] 一命を顧みざる

命乞 [名] 危き一命を助けんことを乞ふこと

軍立 [名] 出陣(シユツヂ)立つこと

苟 [副] かりそめにも

忌忌 [形] 口惜しき心のさま

生作 [名] 淡水魚などを生

生洗 [名] ベンザン油にて汚點を取去ると

潔 [形] わるびれざること。清く潔白なること

勇肌 [名] 市人の意氣を銜ふ風俗

蘇生 [自] 復活に同じ

息遣 [名] 呼吸する様子

憤 [自] 恨み怒ること

生別 [名] 生きながら相別

生寫 [名] 極めてよく似た

生靈 [名] 生きたる靈魂の

生御魂 [名] 時候門を見

居催促 [名] 居坐りて催

違警罪 [名] 警察の捉に

忌掛 [名] 一族の忌服をう

忌敵 [名] 忌み嫌ふ仇敵

忌詞 [名] 忌みて口にせぬ

言掛 [名] 無實の言に誣ゆ

言交 [他] 男女言に誓す。

言暮 [他] その事ばかり云

言散 [他] 言ひ觸らす

言過 [他] 程度を越えて云

言傳 [他] 話しに傳へるこ

言募 [他] 益言ひ張る

言籠 [他] 口にて他に打勝

言通 [他] いひ張る

言放 [他] 推切つて云ふ

言噓 [他] 言ひ觸らす

言開 [他] 辯明(ベンメイ)いひわけする

言含 [他] 委しく云ひふく

言伏 [他] いひこめる

言觸 [他] 世間へいひちら

言曲 [他] 理を非に云ひま

言廻 [他] 一の事を相手に
[他] 認るやういひま

言漏 [他] いひ落す。いひ
[他] 残す

言破 [他] 説きふせる

言渡 [他] 命令を告げ知ら
[他] す

優優 [副] 落着きて。急が
[副] すに

優賞 [名] てあつきほうび

優長 [名] 心落つきて急が
[名] ること。氣長な

悠悠 [副] 落着きて氣長に

遊興 [名] 遊び楽しむこと

遊觀 [名] 遊びながら見ま
[名] はること

遊食 [名] 職業につかず遊
[名] びて生活すること

友職 [名] 古の禮式習慣な
[名] どを明らかにすること

友情 [名] こころあること
[名] なさけあること

憂患 [名] うれへ

憂色 [名] 物事に心配して
[名] 居るかほつき

誘出 [名] いざなひ出すこ
[名] と

揖讓 [名] 禮拜して互に讓
[名] りあふこと

印象 [名] 見聞したことが
[名] 頭へ残ること

色狂 [名] 色情の爲め本心
[名] を失へる

慰勞會 [名] 人の勞を慰
[名] める爲め催

一伍一什 [句] 事の始
[句] 終

意想外 [副] 思ひの外

一向宗 [名] 浄土宗の一
[名] 派

一騎當千 [句] 一騎の
[句] 勇千人

一子相傳 [句] 自家の
[句] 秘術を

一心不亂 [句] 心を專
[句] らにし

一生涯 [句] 人の生涯

一世一代 [句] 代の一
[句] 代にの

一生懸命 [句] 一所懸
[句] 命をかけた
ツシヨケンメイ

一刀流 [名] 劍術の一派
[名] の名

優優閑閑 [副] 急ぐべ
[副] きに急

郵便稅 [名] 郵便を送る
[名] に拂ふ料

有名無實 [名] 名のみ
[名] ありて
實のなきこと

一中節 [名] 淨瑠璃の一
[名] 派

一點張 [名] ただ一事に
[名] 限ること

命不知 [名] 一命を惜ま
[名] ず死を恐れ

命拾 [名] 危うき一命を助
[名] かること

異口同音 [名] 多くの
[名] 人のひ
としく聲を放つこと

依願免官 [名] 自己の
[名] 志望に
より辭職を免されること

意趣返 [名] 恨みを報ゆ
[名] る

衣食住 [名] 生活。衣と
[名] 食と住居

魯 [名] おろか。魯鈍を見よ

論 [名] 道理を述べること

祿 [名] 官より賜はる俸給

只 [名] 俗言。無錢に同じ

露次 [名] 狭き小路の謂

路頭 [名] みちばた

路傍 [名] 路頭に同じ

路用 [名] 旅費に同じ

路銀 [名] 路金(ロキン)路
[名] 用に同じ

呂律 [名] ものを云ふ調子

臚列 [名] つらねならぶる

論 [他] 議論を爲す

論理 [名] ロツツク(英語)
[名] 事物の眞理を研
究する

論旨 [名] 議論の趣意

論議 [名] 論じはからう

弄 [他] もてあそぶ

露骨 [名] 些の飾なきこと

露命 [名] 人事門を見よ

露營 [名] 原野に陣營を張る

論戦 [名] 論じ争ふこと

論決 [名] 論じ定むること

論争 [名] 論じ争ふ

論點 [名] 議論の要點

論難 [名] 論じ非難する

論談 [名] 議論に同じ

論辨 [名] 論じ事理を辨ずる

論駁 [名] 論じて他の説をうつつ

論判 [名] 理非を判明する論

論鋒 [名] 議論のほこさき

論奏 [名] 意見を述べて事の理非を奏上すること

論法 [名] 論ずる方法

論壇 [名] 議論する場合

籠絡 [名] 他人を己の術中にくるめ去ると

陋風 [名] いやしき風習

陋習 [名] いやしき習慣

陋弊 [名] あしきくせ

陋劣 [名] いやしきこと

陋態 [名] いやしき様子

壟斷 [名] ひとりて占むる謂

鹵獲 [名] いけどり

鹵掠 [名] 物をかすむること

露出 [名] あはれ出る謂

碌碌 [副] ぐすぐすして居ること

論究 [名] 論じ究むる

論及 [名] 論じ他に及ぼす

論理學 [名] 英名ロヂツク。事物の理を正當に研究する學問

論外 [名] 議論の外

【は】

覇 [名] 諸侯の長

派 [名] わかれの謂。流派

端 [名] はしたの略

把 [名] 薪其他束へたるものを數ふる時の語

拜 [名] 頭を下げぬかつく。

配 [名] 配偶の略

倍 [名] 物の倍數

幅 [名] 物の横ばい

恥 [名] 恥辱。面目を失ふこと

罰 [名] 神佛の咎めを蒙る謂。責め懲らす

張 [名] 開き伸ぶる意味

批 [名] 手にて物を打つ

貼 [名] 糊にてつける

跳 [名] 躍りあがる

刳 [名] 薙ぎて切る

腫 [名] 膨れ上る。腫物

果 [名] しおほせる

端 [名] はしに同じ

食 [名] 食ふ。くはす

番 [名] 物の順番

掃 [名] 掃除する

吐 [名] 口よりものを吐く

剝 [名] ものをはなしとる

接 [名] 物と物とつぎ合はせる

這 [名] 手足にて進む

端 はし [名] 物のはじめ。物の終

馳 はす [自] 走る

筈 はず [名] 常に然るべきところ

罵詈 ばり [名] いひののしるこ

莫迦 ばか [名] 馬鹿。おろかな

華美 はで [名] 華やかに飾る

破毀 はき [名] やぶりこぼつ

端目 はしめ [名] 境遇の終局

拜 はら [他] 拜に同じ

倍 ばい [自] 倍に同じ

配 はい [他] 配に同じ。添へあは

廢 はい [他] やめる

侍 はべ [自] あり又居りの敬語。

剝 はが [他] 剝に同じ

計 はかる [他] 事物の程度を知る

量 はかる [他] 枘にて物の量を試み

阻 はむ [他] 防げ支ふる意

度 はかる [他] 尺にて長短を試みる

測 はかる [他] 里程などの遠近を試

謀 はかる [他] 相談する。物をたく

稱 はかる [他] 秤などにて物の輕重

許 ばかり [副] 程に同じ

果 はたす [他] 仕遂げる

外 はず [他] 取除く。取損ふ。避

話 はなし [名] 人と人と語るこ

離 はなす [他] 着きたるを引はなす

放 はなつ [他] はなす。ゆるす

孕 はらむ [自] 人事門を見よ

彈 はたく [他] ためて放つ謂

報 はら [他] 告げる。知らせる

板 はら [名] 襪を神に祈りて除き

拂 はらふ [他] 除き去る。追ひ去ら

焙 はう [他] 火に焙りて濕氣を去

駁 はく [他] 非點をうつ

縛 ばく [他] しぼること

早 はや [形] すみやかに同じ

囀 はや [他] 聲を合はして云ふ。

陷 はまる [自] 落ち入る

耽 はまる [自] ふける。おぼれる

烈 はげ [形] 勢鋭く

爆 はせる [自] 火氣をうけてはじけ

勵 はげむ [自] 奮ひ進む

省 はぶく [他] 除きへらす

運 はこぶ [他] 此處より彼處へ移す

夾 はさむ [他] 物と物との間に押入

走 はしる [自] 足早に進む。逃げる

走 はしり [名] 魚類野菜等の新に出

初 はじめ [副] これより先き

始 はじめ [名] 物のおこり。てはじ

放下 はう [自] つてる。なげう

配布 はいふ [名] くばり広つ廣く

配置 はいち [名] くばりつけて置

配賦 はいふ [名] わりつけ

拜賀 はいが [名] 恭しく祝ひを述

拜跪 はいが [名] 恭しく膝まづく

倍加 ばいか [名] 二倍に増すこと

倍蓰 ばいし [名] 數の幾倍する謂

賣價 ばいか [名] うりね

背後 はいご [名] うしろ

背馳 はいち [名] 反對の意

芳志 [名] かんげしき志

房事 [名] 閨中の秘事

敗訴 [名] 訴訟に負けること

罵倒 [名] 飽くまで罵る

報知 [名] 報じ知らせる

防止 [名] ふせぎとめる

防備 [名] ふせぎそなうる

暴威 [名] 無法なる勢

端縫 [名] 布の端を折かへして縫ふこと

破戒 [名] 佛門の律戒を破る

破門 [名] 師の弟子籍を省くこと

破格 [名] 標準を超えること

破談 [名] 取極めたる相談が破れる

破綻 [名] やぶれほころぶ

破裂 [名] 割れ裂くる

破損 [名] やぶれ。こわれ

發露 [名] あらはれる

發兌 [名] 書物の賣始め

發布 [名] 觸れ告ぐること

發揮 [名] ふるひおこす

八卦 [名] 易の卦

法度 [名] 國家の禁制

跋扈 [名] 恣にふるまふこと

巴布 [名] 捲法に同じ

花見 [名] 觀花(クワシク)春櫻を見る

波瀾 [名] あらそひを云ふ

萬機 [名] 天皇政務の稱

萬事 [名] よろづの事

半途 [名] 途の半ば爲しつ

半期 [名] 時候門を見よ

反語 [名] 裏にかへす語

反哺 [名] 養育の恩に報ゆ

繁務 [名] 用事の多きこと

版圖 [名] 領分所轄の地

範圍 [名] かのひの區域

販路 [名] 賣捌き口

判知 [名] 推計り知ること

芳紀 [名] 美人の年頃

曝露 [名] 悪事の露現。雨露にさらされる

寶祚 [名] 帝王の位の尊稱

謗義 [名] 人をそしること

流行 [名] 自 世上に早く行はれる

嚙子 [名] 合奏の意

破産 [名] 家の財産をやぶり失ふ

羽利 [名] はばききの略

端數 [名] はしたのかす

場末 [名] 場はづれ

拜謁 [名] 貴人にまみゆる

拜顔 [名] 顔を合せる敬語

拜啓 [名] つつしんで申す

拜見 [名] 見るの敬語

拜謝 [名] 禮を述ぶる意

拜受 [名] 受けいただく

拜趨 [名] 參上に同じ

拜呈 [名] 進上に同じ

拜讀 [名] 讀むの敬語

拜診 [名] 脈をみること

拜禮 [名] 禮の敬語

拜命 [名] 官職の辭令を受くる

拜復 [名] 復命。返事

排水 [名] 水よけ。水を他へ落す。

排斥 [名] 押し退くる。

排泄 [名] もらし出す。

敗績 [名] うちまくること。

敗北 [名] うちまけて逃げ。

敗走 [名] 敗北に同じ。

敗軍 [名] いくさにまける。

悖德 [名] 徳にそむくこと。

悖亂 [名] 徳にそむき亂を。

廢藩 [名] 藩制の廢止。

廢刀 [名] 帶刀の廢止。

廢學 [名] 學問を廢止する。

廢業 [名] 營業をやめる。

廢疾 [名] 病の爲め不具と。

廢絶 [名] すたれたゆる。

廢典 [名] すたれたる儀式。

俳諧 [名] 俳句、發句など。

賣買 [名] うりかひ。

賣約 [名] 物を商ふ約束。

配分 [名] わりつくる。

配當 [名] 利益のわりわた。

配慮 [名] こころづかひ。

配合 [名] とり合せ。添へ。

配偶 [名] つれあひ。夫婦。

配劑 [名] 藥の調合。

配所 [名] 流罪の地。

配達 [名] くばりとどける。

配列 [名] くばりならべる。

配膳 [名] 膳部をくばる。

媒介 [名] なかだち。

媒合 [名] 媒介に同じ。

肺肝 [名] 心の奥底の稱。

陪席 [名] 貴人の席に列な。

陪宴 [名] 貴人の宴席に列。

培養 [名] つちかひ。やし。

背面 [名] うしろ向。

佩用 [名] おびもちゆる。

沛然 [副] 盛なる形ち。

胚胎 [名] みごもること。

張合 [名] 競ふこと。

張出 [名] 揭示などを張り出す。

張込 [名] 意氣込む。罪人など監視警戒すること。

遙遙 [副] 遠く。久しく。

抄取 [名] 進捗(シンセリ)の早くはこぶ。

働 [名] 骨折りにて事を行ふ。

旗色 [名] 勝敗の形勢。

果然 [副] クワゼン。

破廉恥 [名] 人専門を見よ。

發明 [名] 従前なき事物を考へ出すこと。

發賣 [名] うり出しに同じ。

發行 [名] 世に弘め出す。

發刊 [名] 書物を世に弘む。

發向 [名] たちむかふ。

發展 [名] 伸びひらくこと。

發達 [名] 伸びる。はる。

發生 [名] 物の生ひ出づる。

發送 [名] 物を送り出すこと。

發動 [名] 動き出す。

發信 [名] 信書を出すこと。

發遣 [名] 出しつかはす
發見 [名] 見出すこと
發汗 [名] あせを出すこと
發輦 [名] 貴顯御乗物の出御
發車 [名] 車を出すこと
發艦 [名] 軍艦を出すこと
發育 [名] 物のそだつこと
發言 [名] ものを云ひ出す
發憤 [名] 怒りを發する
發砲 [名] 大砲又鐵砲をうち出すこと

發火 [名] 火の出づること
發掘 [名] 土中に埋もれたる物を掘り出す
發射 [名] 鐵砲弓などを射出すること。光線のさすこと
拔擢 [名] 多くの大才中より引抜き用ゆる
拔群 [名] 多くの人に優れること
醱酵 [名] 酒母の泡の盛上り沸ること
發表 [名] あらはす
罰俸 [名] 罰として俸給を減すること
撥除 [他] 除きのける

撥付 [他] うけつけぬこと
劊 [他] 鼻を切落す刑罰
甚 [副] いたく。大いに。ひらきり
腹切 [名] 切腹(セツブク)腹を切りて死すこと
匍匐 [名] ホフク。腹を地につけて這ふこと
繁華 [名] にぎばひさかんこと
繁榮 [名] さかえる
繁劇 [名] いそがしきこと
繁雜 [名] 種類の事柄が入りまじること
繁用 [名] 用の多きこと

繁忙 [名] いそがしきこと
繁盛 [名] さかえさかゆる
反應 [名] 物に應じて響あること。うらぎ
反亂 [名] そむく。むほん
反激 [名] 反對に烈しくあたる
反動 [名] 反對に動く
反射 [名] 光の反對に照し返すこと
反省 [名] わが身にかへりみる
反對 [名] うらうへ。あべこべ
反覆 [名] うちがへす。いたびもいくたい

反抗 [名] 反對してはりあふ
半開 [名] 半ば開けたる
半額 [名] 高の半分
半面 [名] 物の半分
半數 [名] 數の半分
半分 [名] ふたつわけ
半燒 [名] なかば焼くること
判決 [名] 善惡をわかち定むる
判定 [副] 判決に同じ
判然 [名] はつきりと

判斷 [名] 考へ定むる
版行 [名] 書物を版におこして世に出すこと
版權 [名] 出版物專賣の權利
版籍 [名] 土地と人民と
萬歲 [名] 人の運祚を祝して唱へる言葉
萬全 [名] 大丈夫。まつたき
萬端 [名] 萬事何事も
萬福 [名] 幸多きこと
萬物 [名] あらゆるもの
萬世 [名] 長き世

萬姓 [名] よろづの民
萬能 [名] よろづの才能
晩年 [名] 人事門を見よ
晩學 [名] 年長じて學に志す
晩景 [名] 夕暮の景
晚餐 [名] 夕飯の謂
晩節 [名] 晩年に同じ
輓近 [名] ちかごろ
販賣 [名] うりさばくこと
藩閥 [名] 諸藩の中の系統

煩累 [名] わづらひかさなる。一家眷族
煩雜 [名] 入亂れたる事物
煩悶 [名] 煩勞(ハンラウ)もだへ苦しむ
凡例 [名] 書物の巻頭に編るもの
班列 [名] 位階の順序
斑點 [名] まだら。ぶち
蠻勇 [名] 無法なる勇氣
蠻行 [名] 無法なる行
犯罪 [名] 罪を犯すこと

博奕 [名] ばくちと同じ
博聞 [名] 博く事物を聞き識れること
博覽 [名] 博く事物を見聞すること
博識 [名] 博く事物を識れること
博學 [名] 學問の博きこと
博愛 [名] 博く人を愛すること
莫大 [名] 極めて大なる
漠然 [副] 取とめなき
剝奪 [名] 褫奪(チダツ)はぎうばふ
剝製 [名] 鳥獸魚介の皮をか如く作る

爆發 [名] 火にてわれさける
爆裂 [名] 爆發の稍強き言葉
破壊 [名] 破却(ハキヤク)こわす。やぶる
舶來 [名] 舶載(ハクサイ)海外より船にて來る物
拍手 [名] 手を打ち合すこと
早技 [名] 早く巧なる技術
化物 [名] 妖怪に同じ
食出 [名] 自り物と物との間より少し漏れ出でたる
端書 [名] 序文(ツヨアン)書物の序

端近 [名] 家のはし近きところ
派出 [名] 手分して出だす
髣髴 [名] 能く似る。ほのぼのに見ゆ。分明ならぬさま
暴言 [名] 無法なる言葉
暴騰 [名] 物價などの俄かに上ること
暴落 [名] 同上俄かに下ること
暴舉 [名] 無法なるふるまひ
暴政 [名] 無法極まる政事
暴發 [名] につわかに起り立つ事
報告 [名] 告げ知らす

報恩 [名] 恩にむくゆる
報國 [名] 國家の恩にむくゆる
報道 [名] 告げ知らす
報酬 [名] むくゆること
報謝 [名] 物を贈りむくゆる
報答 [名] 返事する
方案 [名] したぐみ
方向 [名] めあて
方角 [名] 方位。東西南北
方形 [名] 四角なる形

方言 (名) 土地土地の言語
 方今 (名) 現今。いま
 方劑 (名) 薬の調合
 方正 (名) 行正しきこと
 方法 (名) てだて。しかた
 方便 (名) 佛經の語。人を導く手段の假言
 方物 (名) その土地の産物
 方圓 (名) 四角とまるきと
 方寸 (名) 一寸四方。胸中の意
 方針 (名) めあて

芳香 (名) よきにほひ
 芳信 (名) 花のしらせ
 芳翰 (名) 他人の手紙
 芳書 (名) 芳翰に同じ
 芳墨 (名) 芳翰又芳玉に同じ
 芳名 (名) かんばしき名
 亡國 (名) ほろびたる國
 亡君 (名) なくなられたる君
 亡命 (名) 逃げ避くること
 亡八 (名) 揚屋の稱

放言 (名) 思ふさまいひ散らす
 放火 (名) 人家に火をつけ
 放心 (名) 放慮(ハウリヨ) うつかり。氣を許すこと
 放蕩 (名) 放埒(ハウラツ) 恣に遊樂にふけること
 放浪 (名) 氣ままに遊ぶ。うろつく
 放膽 (名) 大膽なること
 放逐 (名) おひやる
 放擲 (名) うちすてる
 放任 (名) うちやりはなし

放念 (名) 心配せぬこと
 放免 (名) 罪をゆるすこと
 砲擊 (名) 大砲にて撃つ
 砲聲 (名) 大砲の響
 防寒 (名) 寒氣を防ぐ
 防戦 (名) ふせぎ戦ふ
 防禦 (名) ふせぐこと
 防衛 (名) ふせぎまもる
 妄說 (名) 妄誕(パウタン) 當にならざる説
 妄言 (名) みだりなる言語

紡績 (名) 絲をつぐむ
 忙殺 (名) いそがしきこと
 妨害 (名) さまたげ
 坊間 (名) 市中に同じ
 傍訓 (名) ふりがな
 訪問 (名) 人をみまふこと
 包装 (名) 荷物をつつむ
 抱腹 (名) 腹をかへへ笑ふ
 抱合 (名) 化學の語。物質の變化なくして異種類が一つになること
 蔓 (名) 蔓延(マンエン) 生じひろがる

跋涉 (名) 山や川を踏み歩行く
 恥搔 (名) 面目を失ふ
 侮辱 (名) アヂヨク。恥に同じ
 買収 (名) かひおさめる
 薄給 (名) 給料低き謂
 陪觀 (名) 貴人に從ひての見物
 陪從 (名) 貴人の供をする
 陪食 (名) 判食(パンシヨク) 貴人の食事
 拜借 (名) 借るの敬語
 拜承 (名) 承るの敬語

拜誦 [名] 讀むの敬語

拜聽 [名] 聽くの敬語

拜領 [名] 物を賜はる敬語

徘徊 [名] うろろする。

俳名 [名] 俳諧師の雅號

廢官 [名] 官の務をやめる

廢墟 [名] 曠山の廢れたる

悖逆 [名] 國法に逆ひもど

賠償 [名] 償ひかへす

媒妁 [名] なかたち

繁昌 [名] しげりさかえる

彷徨 [名] さまよひ

薄弱 [名] よわき

薄情 [名] なさけうすき

陪乘 [名] 貴人の車に乗合

白狀 [名] 罪狀を告げる

伯仲 [名] 兄と弟と。相劣

亡狀 [名] 無禮なるふるま

望外 [名] 望みのほ

挾撃 [名] 前後よりはさま

輩出 [名] 續きて出づる

暴食 [名] 飽食(ハウシヨク) 無法に食ふ

暴虐 [名] しぬたげる

暴漲 [名] 水の漲ること

傍聽 [名] かたへぎき

鉢合 [名] 頭と頭と打合は

墓參 [名] 墓詣(ハカマツ) 死したる人

謀略 [名] 方略(ハウリヤク) たくみ。も

發着 [名] 發すること。着

走書 [名] すらすらと書き流したる筆の跡

初舞臺 [名] 俳優の始め

梯子乘 [名] 正月消防夫

褒賞 [名] ほめめでる

膨脹 [名] ふくろること。

馬鹿噓子 [名] 滑稽な

包括 [名] ひきくるむ

茫然 [名] 茫然(ハウゼン) つかへこと

呆然 [名] あきるる形

發會 [名] ホツクワイ。始

賣却 [名] うりばらう

話合 [他] 互に話を交へる

放飼 [名] 禽獸等を束縛せ

挽回 [名] もりかへす。ひ

叛逆 [名] むほん

萬障 [名] 多くのさばり

反響 [名] こたま。もどる

反證 [名] 反對の證據

繁殖 [名] しげりふえるこ

反比例 [名] 比例の反し

廢藩置縣 [名] 明治四

半面識 [名] 人事門を見

半信半疑 [名] なかば

半濁音 [名] パ、ピ、プ、

盤根錯節 [名] 艱難辛

版權免許 [名] 政府よ

版權侵害 [名] 政府よ

版權侵害 [名] 政府よ

版權侵害 [名] 政府よ

反動力 [名] あともどり
する力

抱腹絶倒 [名] 腹をか
かへて
笑ひ倒るる

博言學 [名] 世界各種の
言語を研究
する學問

博物學 [名] 動物、植物、
礦物學の總
稱

馬耳東風 [名] 聽き流
すこと

八方美人 [名] 圓滿主
義

方乘數 [名] 數學の語。
同じ數を幾
度も乘したる數

方錐形 [名] 方錐の如き
形

萬代不易 [名] 変つ
ない

萬世一系 [名] 変
らぬ系統

【三】
二 [名] 數字の二。における
と云ふ意義にも用ゆる

任 [名] 身に負へる務

似 [名] 甲と乙と互に相類す
ること

煮 [名] 物を火にかけて沸か
す

逃 [名] のがれる。走り去る

贗 [名] 偽(ニセ)偽つて買物
と爲す

二世 [名] 現世及來世。佛
語

句 [名] カオ(馨)又は(薰)物
の鼻に感ずる氣。つ
ややの意義

臭 [名] 惡しき氣の鼻を打つ

逃 [名] 走り去らしむ

任 [名] 役目を授く

憎 [名] 仇として思む

濁 [名] 水の汚るること。清
る符號

鈍 [名] 銳しの反對

俄 [名] 二輪加(ニツカ)俄狂
言。突如として起る
滑稽劇

瞰 [名] 眼を怒らして見る

躪 [名] 壓迫して磨ること

握 [名] 五本の指を内に屈め
て持つ

苦 [名] 舌に快からぬ一種の
味

似合 [名] 善く似あふ。配
合よろし

似寄 [名] 善く類似せる

煮出 [名] 湯に煮て味を出
すこと

煮焚 [名] 食物を煮又は焚
くこと

煮着 [名] 魚などを餘り汁
を多くせず煮る

煮詰 [名] 水分の盡くまで
物を煮る

煮賣 [名] 物を煮て賣るこ
と

柔和 [名] おとなしき氣質

人氣 [名] 人の氣分。愛顧
の深き

人數 [名] ひとつ

任意 [名] 心にまかす

任期 [名] 職に在る間の期
限

荷揚 [名] 船の荷物を陸揚
すること

二言 [名] 前に云ひたるこ
とを又云ひかへ
ること

一豎 [名] 病の異稱

一絶 [名] 弄花の語

二食 [名] 一日に二回食す
ること

俄 [名] 急遽(キフキヨ)唐突
の意

賑 [名] ニギハヒ。淋しの反
對

日用 [名] 日に用ゆる

日課 [名] 其日の課業

日給 [名] 毎日與へる給料

日勤 [名] 毎日のつとめ

日新 [名] 日に物事の進
み新たに成ると

日參 [名] 毎日神佛へ詣で
ること

日數 [名] ひかすに同じ

人界 [名] シンカイ。この
世。人の世

人壽 [名] シンジュ。人の
命

人選 (じんせん) [名] 人を選むこと

人體 (じんたい) [名] 人がらに同じ

人別 (じんべつ) [名] 住民の數。住所姓名家族など

二重 (にじゆう) [名] ふたへ

二舞 (にのまひ) [名] 繰返し舞ふ曲。人眞似をする詞

任命 (にんめい) [名] 任用(ニンヨウ)人を採用すること

任限 (にんげん) [名] 任期(ニンキ)在職の期限

莞爾 (わんじやく) [名] ホホエミ。少し笑を含むこと

認許 (にんきよ) [名] 認容(ニンヨウ)みとめゆるす

認定 (にんてい) [名] みとめ且つ定め

肉慾 (にくよく) [名] 人間の情慾

肉刑 (にくけい) [名] 肉體を傷つくる刑罰

逃失 (にげしつ) [名] のがれて形を隠す

逃延 (にげのび) [名] 遠くのがれる

逃散 (にげちる) [名] あちこちに遁れ散ずる

無似氣 (むにげ) [名] につかはしからぬこと

入用 (にゅうよう) [名] 入り用。入費

入貢 (にゅうこう) [名] 外國より貢物を持ち來る

入札 (にゅうさつ) [名] 競賣などに札を入れる

入手 (にゅうしゆ) [名] 金などの手に入る

入滅 (にゅうめつ) [名] 佛語。死に同じ

入港 (にゅうかう) [名] 船港に入る

入寇 (にゅうこう) [名] 外敵わが境を犯す

行潦 (ぎょうらう) [名] 天地門を見よ

認承 (にんじやう) [名] みとめうけがふ

柔弱 (じやくじやく) [名] ふわふわしきこ

刃傷 (にんじやう) [名] 刃を以て人を傷

肉食 (にくじやく) [名] 鳥獸魚肉を食ふ

躑書 (ちやくしよ) [名] 紙をにぢるやうに書きたる文字

二束三文 (にすくさん) [名] 殆んど價なき

徐徐 (じよじよ) [形] うれりながら句ふ様

二進三進 (にしんさんしん) [副] 如何にも

日本一 (にっぽんいち) [名] わが國第一

日本晴 (にっぽんはれ) [名] 快く晴れたる天氣

入場料 (にゅうじやうりやう) [名] 入場を許す料

入門料 (にゅうもんりやう) [名] 弟子入の料

人面獸心 (じんめんじゆうしん) [名] 人事門を見よ

日英同盟 (にちえいどうめい) [名] 日本と英國と

日露協約 (にちろけいやく) [名] 日本と露西亞と協約せる略語

[ほ]

補 (ほ) [名] おぎなう。添役

略 (りやく) [副] 粗(ホボ)おほかたの意

程 (ほど) [名] ばかり。だけ。頃。の時分。いよいよ。身の様子等

凡 (ぼん) [名] 平凡(ヘイボン)つれなみ

法 (ほふ) [名] おきて。法律

堀 (ほり) [他] 地をほる、地を穿つ

外 (ほか) [名] 事。異なること。別の

譽 (ほむ) [他] ほめる。そやす

本 (ほん) [名] 書物。もとの。まこと。の。外ならぬ

俸 (ほう) [名] 扶持。給料

封 (ほう) [名] 諸侯の領地

吠 (はい) [自] 吼(ホユ)犬などの高く聲を上げる

欲 (ぼく) [形] 願ひ求むの意

干 (かん) [他] 乾(ホス)かはかす。水氣をなくす

本意 (ほんい) [名] ホンイ。まこと

補遺 (ほい) [名] おちたるを補ふ

保持 (ほち) [名] たもちもつ

法螺 (ほら) [名] 本来は介殼類のも誇大の意に用ゆ

輔佐 (ほさ) [名] 君を助け政を執る職。人事門を見よ

保護 [名] たすけまもる

母音 [名] 母韻(ボキョウ)父韻を生む韻

解 [自] ホッル。ホゴス。と

邊 [名] 程近きところ

熱 [自] ホテリ。ホテル。あ

細 [自] 細くなる。小さくな

暈 [他] くまどる

絆 [名] 物事自由にならざる

惚 [自] いとしく想ふこと

誇 [名] 心に慢すること

亡 [自] 滅亡(メツバウ)絶ゆ

欲 [他] 心に思ふ

没 [自] 入る。沈む。おちい

焰 [名] 怒り又怨の思ひ迫る

磅 [名] 封度(ポンド)英國秤

奉 [自] 献上。おしいただく。

屠 [他] 殺し盡す。切り割く

穿 [他] 地などをほじくる

崩 [名] 帝王の隠れさせ給ふ

本氣 [名] 正氣。まことの

本手 [名] もちまへのわざ

本眞 [名] まこと。しんじ

本支 [名] もととする

本義 [名] まことの意味

本務 [名] おもなる務

本場 [名] その産地。まこ

本意 [名] まことの心

捕縛 [名] とらへてしげる

保存 [名] 長く失はぬやう

發起 [名] 考へ起す。佛道

發意 [名] 思ひ起す

發駕 [名] 駕籠又は車にて

發途 [名] 旅立に同じ

發語 [名] 言葉を出す

勃起 [名] 急に起り立つこ

奉加 [名] 神佛へ金などを

法理 [名] 法律の理論

法語 [名] 正しき言葉。法

法會 [名] 佛法のいとなみ

法事 [名] 法會に同じ

補闕 [名] かけたるをおぎ

保險 [名] 償ふ責任を負擔

保安 [名] 無事にたもつ行

保守 [名] たもちまもる

保全 [名] まつたきを保つ

墓參 [名] はかまわりと同

蜂起 [名] 群がり起るの謂

喧譟 [名] 口にまかせて罵

募集 [名] つのりあつめる

熱 [名] ほてるに同じ。あつ

施 [他] あまれく行き渡る。

亡 [他] 絶やす。うちほろぼ

欲 [他] ほしいに同じ

穿 [他] ほじるに同じ

朗 [副] はれやか

殆 [副] 今少し。もうぢきに

仄 [副] かつかに。ほんのり

程能 [副] 工合よく。都合

程合 [名] そのほどほど

微笑 [自] 莞爾(カランツ)

頰張 はらばら (他) 口に一杯物を啣む
微醉 ゑいせい (名) 僅か酒に酔ふた
發心 はつしん (名) 菩提の心を起す
發端 はつたん (名) 事物のはじめり
發足 はつそく (名) 旅立に同じ
沒書 はつしよ (名) 其書を取上げ人に示さざる謂
沒收 はつしう (名) とりあぐること
沒收 はつしう (名) 沒滅(ボツメツ)減びさすらふ
勃然 はつぜん (副) 物の起る形ち
勃興 はつこう (名) にかに起るこ

本式 ほんしき (名) まことの式
本籍 ほんせき (名) 自個が住みつきたる土地の戸籍
本邦 ほんぱう (名) わがくに
本陣 ほんちん (名) 貴人などを宿する驛の旅舎
本堂 ほんだう (名) 寺内主たる堂
本能 ほんのう (名) うまれながらの才能。心理學上の術語
本線 ほんせん (名) 正しき線路。支線に對する語
本來 ほんらい (名) もとより
本山 ほんざん (名) 一宗の中の長たる寺
本腹 ほんぶく (名) 病の全治する謂

本國 ほんこく (名) 天地門を見よ
本草 ほんそう (名) 藥物學の書の冊
本望 ほんぼう (名) 思ひ通り
本文 ほんぶん (名) 龍頭、註解其他にあらぬ本の文
翻案 はんあん (名) 仕組みを異にする
翻譯 はんやく (名) 外國語を自國語にかへ記すこと
翻刻 はんこく (名) 一度刊行したる書物を再び版にかけること
凡庸 はんよう (名) なみひととほり
凡慮 はんりよ (名) 凡人の考。拙なき考

奔走 ほんそう (名) 馳せまわること
棒立 ぼうだち (名) 棒の如く眞直に立つ
棒讀 ぼうよみ (名) 漢文を其儘讀下しにする
捧讀 ほうどく (名) 勅語などを讀むこと
捧進 ほうしん (名) 捧げすすむる
奉納 ほうなふ (名) 神佛へ物を獻ずる納めささぐ
奉幣 ほうへい (名) 幣を神に奉る
奉送 ほうそう (名) 送るの敬語
奉答 ほうたふ (名) 御下間に答へま
奉迎 ほうげい (名) 迎ふの敬語

奉獻 ほうけん (名) 神佛へ物をささぐること
豊年 ほうねん (名) 五穀よくみのれる年
豊作 ほうさく (名) 作物よくみのること
封建 ほうけん (名) 領地を諸侯に分ち與へ其人民を統御せしむる政體
封内 ほうない (名) 領地の内
封杖 ほうづえ (名) 肘を立て掌にて頰を支へ居ると
謀書 ぼうしよ (名) ハウシヨ(漢音)して作れる書
謀殺 ぼうさつ (名) 豫め心に思ひ謀りて人を殺すも
謀叛 ぼうはん (名) むほんに同じ

謀判 ぼうはん (名) 私印偽造(シイの印に似せて造る)他人
法印 はふいん (名) 僧正の官に相當する一等の僧侶(山伏の一名)
法眼 はふげん (名) 法印に次ぐ僧侶
法式 はふしき (名) 定められる儀式
法談 はふだん (名) 説教に同じ
法令 はふれい (名) 法律。おきての命令
法案 はふあん (名) 法律のしらべ
法文 はふぶん (名) 法律の文章
法制 はふせい (名) 法律と制度と

法樂 [名] なぐさみ。氣保

法則 [名] 法律及規則

法網 [名] 法律を網にたとへて罪人を捕ふる謂

法實 [名] 數學の語。除算の法と實と

法律 [名] 一國人民の遵守すべき國法

法學 [名] 法律學

俸給 [名] 宛て行ふ給米又給金

卜居 [名] 場所をもとめて住む

保管 [名] 物を失はぬやう保つ

保證 [名] うけ合ふ

撲滅 [名] うちはらう。ほ

牧蓄 [名] 牛羊などを養ふ

木訥 [名] 朴實(ホクシツ)口數利かず飾らぬこと

鋒先 [名] 刃の光。銳鋒

破綻 [名] ハタン。閉目の解くること。花の咲く事物事の破れること

補充 [名] おぎなひあてる

補註 [名] 書物の註解の足らざるを補ひ説

保釋 [名] 未決罪人より保釋して家にあらしむ

彫込 [名] 陰識。欺識。彫刻物の文字を堀

被絆 [名] 物事にひかざる

没溺 [名] 水中におぼれる

本物 [名] まことの物。其道に長けたると

本讀 [名] 芝居の術語。脚色を正本に記して讀む

本分 [名] 人として盡すべき事柄

本末 [名] 本と末と

奔命 [名] かけまはる

奔竄 [名] 走りかぐること

翻弄 [名] もてあそばれる

迸 [名] 飛散る。飛走る

頰被 [名] 手拭にて頭より頰へかけ被ふる

發願 [名] 神佛に願をかく

骨惜 [名] 精出して働くを嫌ふ

本懐 [名] まことの心

本性 [名] 天氣のうまれつき。本心

本職 [名] 専門の職業

本色 [名] もちまへの色

本領 [名] 傳來せる領地。もちまへ。ちか

豊熟 [名] 五穀の豊かにみ

豊穰 [名] 豊饒(ホウツヤウ)よくみゆる

法外 [名] 分限の外。法の外。胸算なきこと

本調子 [名] 三味線の調子の名

謀略 [名] はかりごとと同

崩壊 [名] くづれこぼる

撲直 [名] 質撲。正直

坪坪 [名] 土などの落つる

丁丁 [名] 斧にて木を伐る音

黙滴 [名] 雨水などの滴る音

程程 [名] 分相應に

惚惚 [名] 戀慕に同じ

細細 [名] 細く。小さく

豊艶 [名] 女の愛嬌よくこえたるさま

仄仄 [名] ほのかに。かすかに

惘然 [名] 氣の抜けたる形

朦朧 [名] おぼろ氣に

本官 [名] 官吏の稱

本貫 [名] 本籍に同じ

本省 [名] 管轄を受くる役所よりその管轄する役所の稱

本名 [名] まことの名前
叛逆 [名] ハンギヤク。む
奉職 [名] 官の役目に服す
奉還 [名] 官へ返上するこ
奉勅 [名] 天皇の勅をうけ
豊凶 [名] みのる・みづら
封境 [名] 諸侯の領地境
微暗 [形] うすぐっし
諷示 [他] ちらちらさす。
稱揚 [他] シヨウヤウほめ
 盛にほめたてる

褒詞 [名] ほめたたへる言
菩提心 [名] 佛道に入り
保険料 [名] 保険金に同
保存行爲 [名] 法律の
本卦回 [名] 人の六十一
本位貨幣 [名] 經濟學
謀殺犯 [名] 法律の語。
法律行爲 [名] 同上。
 行爲の効果を生ぜしめんとする

法廷果實 [名] 同上。
法定血族 [名] 人事門
法律學 [名] 法律に關す
奉答文 [名] 貴人の御下
貿易場 [名] 外國人と交
貿易風 [名] 時候門を見
没分曉 [名] わからずや
重 [尾] かさくれる意を示す
 八重九重の類

方 [尾] 方位を示す語。ゆく
丙 [名] ひのえ
弊 [名] つひえ。悪しき風習
偏 [副] ひとへに
辨 [名] わきまへ。差別。言
邊 [名] 葉遣。漢文の一體
便 [名] あたり。そのへん。
變 [名] たより
返 [尾] 常に變りたること
篇 [名] 詩文の完き一。書籍

編 [名] あむ。書籍を編纂す
纂 [名] 數學の語。同一の根
可 [助] 心に量りていひ定む
減 [自] 物の量の少なくなる
別 [名] わから異なること。
癖 [名] くせ
聘 [他] 呼び迎へる
片 [尾] ペンニイに同じ。我
貶 [他] しりぞける。くさす。

變 [自] 變に同じ
辯 [自] 荐りに饒舌する。事
辨 [自] べ／＼に同じ
隔 [他] 物事に間を置くこと
剝 [他] はがすに同じ
減 [他] 少なくする。省く
頁 [尾] 英語。書物などの紙
僻 [自] なたよる。ひがむ
平易 [名] たやすきこと
平素 [名] ふだん。常に

平癒 [名] 病氣の全快すること
 平和 [名] たひらかにやわらぐ
 平話 [名] 世の常の話
 平時 [名] つれの時。ふだ
 兵備 [名] いくさぞなへ
 兵機 [名] いくさの機會
 兵馬 [名] 戰を意味する言語
 閉鎖 [名] とち。とづる
 米價 [名] 米の値段
 秉彝 [名] 人のとり行ふ道

別派 [名] 異りたる流派
 別手 [名] 別に立てたる隊
 別意 [名] あだごころ。二心
 別事 [名] 他の事。ほかごと
 別途 [名] 別のみち
 別戸 [名] 戸籍を別にして家を立つる
 別家 [名] 分家
 別儀 [名] 別の事
 別離 [名] わかれはなるる
 返事 [名] かへしごと

返歌 [名] かへしうた
 返附 [名] 借りたる物を返す
 便利 [名] 事を行ふにたよりによきこと
 便宜 [名] たよりよろしき
 便路 [名] たよりよき道
 辨理 [名] 事務を取扱ふこと
 辯智 [名] 辯口と智慧と
 變化 [名] 妖怪。ばげもの
 變死 [名] かわりたる死狀
 表示 [名] あらはし示すこと

表裏 [名] 物事の相反すること
 標記 [名] しるし
 廟議 [名] 朝廷の評議
 廟祀 [名] たまやのまつり
 邊鄙 [名] かたぬなか
 偏頗 [名] かたよる
 鞭笞 [名] むちうつ
 偏固 [名] 頑固(ゲンゴン)こ
 辯護 [名] 言ひ開きかばふこと
 駢死 [名] ならびて死する

騙欺 [名] たばかりいつわ
 編次 [名] 順を追ふてあむ
 片務 [名] 法律の語。一人の盡さざること
 詐欺 [名] サギ。騙欺に同
 僻事 [名] ひがごと。かたよりごと
 隔 [名] 距離(キョリ)とをさ。かんくわく
 平穩 [名] 平安(ヘイアン)ん
 平均 [名] 無事安穩
 平生 [名] たひらにひとし
 平角 [名] フダン。つれひ
 平角 [名] 數學の語。二直角の和にひとし

平圓 [名] 平らにて圓きこと
 平方 [名] 平面の方形
 平伏 [名] 頭を地につけて拜す
 平分 [名] 平等に分つこと
 平凡 [名] なみ。ひととは
 平臥 [名] おだやかにふせ
 平産 [名] 安産(アンザン)ん
 平信 [名] 無事の音信
 平心 [名] 心おちつく
 平定 [名] たひらぐ。さだまる

平等 [名] ビヤウトウ。ひ
 平反 [名] 訴訟を再審して
 平居 [名] 世を退き家に居
 屏息 [名] いきを殺す
 屏居 [名] 世を退き家に居
 併發 [名] ならびおこる
 併有 [名] あはせたまつ
 并用 [名] あはせもちふる
 併立 [名] ならび立つこと
 併合 [名] あはせあはす。
 併吞 [名] あはせのむ
 併行 [名] ならび行くこと
 兵燹 [名] 兵火に同じ
 兵火 [名] 戦争に際して起
 兵數 [名] 兵士の數
 兵籍 [名] 兵士の簿籍
 兵學 [名] 兵法の學問
 兵役 [名] 兵隊に召し出だ
 平面 [名] 物の表面。平な
 平反 [名] 訴訟を再審して
 平居 [名] 世を退き家に居
 屏息 [名] いきを殺す
 屏居 [名] 世を退き家に居
 併發 [名] ならびおこる
 併有 [名] あはせたまつ
 并用 [名] あはせもちふる
 併立 [名] ならび立つこと
 併合 [名] あはせあはす。
 併吞 [名] あはせのむ
 併行 [名] ならび行くこと

兵勢 [名] 軍勢。軍のいき
 兵權 [名] 兵馬を統ぶる權
 兵端 [名] 戦争のはしぐち
 兵法 [名] いくさのしかた
 兵亂 [名] いくさのみだれ
 弊害 [名] 悪しきくせ
 弊風 [名] 悪しきならはし
 弊習 [名] 弊風に同じ
 弊邑 [名] 己が領土の謙稱
 弊國 [名] 弊邦(ヘイハツ) 自國の謙稱

弊宅 [名] 弊屋(ヘイタク) 自宅の謙稱
 弊店 [名] 自店の謙稱
 弊社 [名] 弊舍(ヘイシャ) 自己の會社の謙稱
 弊制 [名] あしきおきて
 並列 [名] ならびつらなる
 並居 [名] ならび居る
 閉居 [名] こもり居ること
 閉口 [名] 口を閉ぢて答へ
 閉塞 [名] ぬ。服從。困惑
 米壽 [名] ちよつと見る
 八十八歳の壽命

聘禮 [名] 結納に同じ。長
 屏息 [名] いきを殺す
 屏居 [名] 世を退き家に居
 併發 [名] ならびおこる
 併有 [名] あはせたまつ
 并用 [名] あはせもちふる
 併立 [名] ならび立つこと
 併合 [名] あはせあはす。
 併吞 [名] あはせのむ
 併行 [名] ならび行くこと

別品 [名] 本名の他の名
 別懇 [名] 昵近(ジツキン) わけてしたしき
 別室 [名] 別の部屋
 別莊 [名] 別墅(ベツシヨ) 別業(ベツゲフ) 別のやかた
 別段 [名] 格別(カクベツ) わけて。取わけ
 別席 [名] 別の坐敷
 別封 [名] 手紙の外に添へ
 別種 [名] 別の種類
 別項 [名] 別の條

別邸 [名] 別に設けある邸
 別居 [名] 家を別にして住
 別報 [名] 別のしらせ
 別格 [名] 常の格の外
 別製 [名] 特別のつくり
 別軍 [名] 別隊(ベツタイ) 別の軍隊別の隊
 別宴 [名] 別れのうたげ
 別課 [名] 本課の外に設け
 別涙 [名] 別れの涙
 瞥見 [名] ちよつと見る

蔑如 べつじやう [名] さげすむこと
筥棒 へらぼう [名] 關東語。さげす
みのことば。莫

表號 へうがう [名] めじるし

表式 へうしき [名] ひながた

表層 へうそう [名] うはかは

表題 へうだい [名] 書籍の名と表前
に記すもの

表白 へうびく [名] あらばにまうす
こと

表明 へうめい [名] あらばにあかす
こと

表面 へうめん [名] おもて。うはつ
ら

表顯 へうげん [名] あらばすこと

表掲 へうけい [名] あらばしかかく
ること

表瀑 へうばく [名] あらばすこと

剽悍 へうかん [名] わるくつよきと

剽疾 へうしつ [名] すばやきこと

剽竊 へうせう [名] 他人の詩文又は
説などを掠めと

剽輕 へうけい [名] かるはずみ

剽剝 へうはく [名] おどして物を掠
めとること

廟算 べうさん [名] 廟堂のみこみ

標榜 へうぼう [名] 善行などを世の
人に知らしむる爲
にふたを立ててあらばすこと

標目 へうもく [名] めじるし。目錄
目次

標的 へうてき [名] めあて

漂零 へうれい [名] おちぶるること

漂流 へうりゆう [名] 流れたたよふこ
と

漂蕩 へうたう [名] 水にただよふこ
と

漂泊 へうはく [名] ながれたたよふ
こと

漂到 へうたう [名] ながれたたよひ
て着くこと

飄揚 へうやう [名] ひるがへること
空中に舞ひ上る

豹變 へうへん [名] 豹の毛のあやの
如く明らかにか

苗裔 べうえい [名] 血すじのあと。
子孫

描寫 べうしや [名] 見かきうつすこ
と

變造 へんざう [名] 形をかへて造る

變形 へんけい [名] 變りたる形

變格 へんかく [名] 正格を外れ別に
一格をなす

變化 へんくわ [名] 形のかはること

變心 へんしん [名] 心のかはる

變遷 へんせん [名] うつりかほり

變更 へんか [名] かはりあらたま
る

變兆 へんてう [名] 變りたるきざし

變動 へんどう [名] かはりうごく

變則 へんそく [名] 正則に外れ別に
一則を爲す

變改 へんかい [名] 變更に同じ

變約 へんやく [名] 約束を變へる

變亂 へんらん [名] 騒動(サウドウ)
さわぎみだれ

辯解 べんかい [名] いひひらき

辯舌 べんせつ [名] 辯口(ベンコウ)
ものがたる

辯別 べんべつ [名] 差別すること

辯明 べんめい [名] いひわくる

辯駁 べんぱく [名] 他説を云ひ破る

辯才 べんさい [名] 辯口の才あるこ
と

片言 へんげん [名] かたこと

邊要 へんえう [名] 國境の要害

邊警 へんけい [名] 國境の警備

邊寇 へんこう [名] 國境に侵入する
敵

邊尼 へんに [名] 片(ペンニ)ニ
ンスに同じ

返濟 へんさい [名] 物を返すこと

返納 へんなう [名] 返しおさむる

返報 へんぱう [名] 讎を返しむくゆ
る

返杯 へんぱい [名] 杯を差されたる
人に返す

返辨 へんべん (名) 返済に同じ
 返答 へんたふ (名) 返事に同じ
 返禮 へんらい (名) 返しむくゆる禮
 返簡 へんかん (名) かへしふみ
 返信 へんしん (名) 手紙又は音信の返事
 返電 へんでん (名) 返事の電報
 便益 べんえき (名) 都合よきこと
 便佞 べんねい (名) おもれりへつらふ
 便蒙 べんもう (名) 早わかりの書き方
 便覽 べんらん (名) 便利に覽らるる

編纂 へんさん (名) 諸書より材料を蒐めて一部の書となす
 編制 へんせい (名) 規則などを編定む
 編成 へんせい (名) 編みつくる
 編入 へんにゅう (名) 組み入れる
 編輯 へんじゆ (名) あみつくる
 偏愛 へんあい (名) かたよりの愛
 偏執 へんしゆ (名) かたいちなること
 偏狹 へんけふ (名) 心のせまきこと
 偏廢 へんはい (名) 一方のみ廢する
 遍歷 へんれき (名) 遍路(へんろ)へめぐること

騙瞞 へんまん (名) だますこと
 貶謫 へんたく (名) 貶竄(へんざん)に流さる
 貶黜 へんちつ (名) 官を退けらる
 僻陋 へきろう (名) いやしきこと
 僻論 へきろん (名) 理に合はぬこと
 劈頭 へきだう (名) 最も初め
 辟易 へきえき (名) たじろく
 霹靂 へきれき (名) 雷のとどろく聲
 歷廻 へめぐる (自) 遍歷に同じ

別條 べつじょう (名) 別と變れる事柄
 平常 へいじょう (名) つれ。にちじや
 平脈 へいみやく (名) 平時の脈搏
 閉場 へいぢやう (名) 場をとざす
 閉會 へいけい (名) 會をとざす
 閉館 へいくわん (名) 館を閉づること
 翩翩 へんぺん (副) 翩翩(へんぺん)物風の風に飄る形
 片片 へんぺん (副) きれぎれに。ひらひらと
 便便 べんべん (名) 時の徒費。腹のふくれたる形容
 變色 へんしよく (名) 色の變ること

變換 へんくわん (名) かへかばる
 兵力 へいりきよく (名) 軍隊の勢力
 兵術 へいじゆつ (名) いくさのてだて
 兵食 へいしよく (名) 兵糧の謂
 返却 へんきやく (名) 返上(へんじや)物返す
 返還 へんくわん (名) 返却に同じ
 炳煥 へんくわん (名) 明らかなること
 飄飄 へんぺん (副) 漂ひてとどまらぬ状にいふ語
 飄然 べんぜん (副) (へんぜん)と
 渺渺 べんべん (副) 廣くて見極めがなき状にいふ語

渺然 べんぜん (副) 同上
 渺茫 べんぼう (副) 同上
 渺漫 べんまん (副) 同上
 渺漠 べんぼく (副) 同上
 表彰 へいしやう (名) 善行などをほめあらはすこと
 標準 へんじゆん (名) めじるし。めあて
 標註 へんちゆう (名) 本文の欄外の上方に加へたる註
 標着 へんちやく (名) ただよひて岸に寄りつくこと
 勉強 べんきやう (名) つとめること
 變局 へんきよく (名) 模様の変りたる

【並行線】

並行線 [名] 数学の語。ある二直線が交るとなき稱

平方形 [名] 正方形に同

平方根 [名] 数学の語。平方を形ち

別配達 [名] 特別の方法

別働隊 [名] 本隊の別の

編年體 [名] 歴史編輯の

【と】

度 [名] 程度。長短を計る名

渡 [接] わたる。わたり

【何】

何 [代] いづれの俗言

取 [他] 手に持つ。集むる。

咎 [名] 罪。あやまち。とが

閉 [他] 開きたるをとち塞ぐ

綴 [他] 一つにつづりあはす

富 [名] ゆたか

同 [頭] おなじき

等 [尾] ら。など。ども

殿 [名] 貴人を尊び呼ぶ語

徳 [名] 名望。徳望。功德。

得 [名] まうけ。利益

毒 [名] 生物の害となるもの

疾 [副] はやく。急に

遂 [他] 成しとぐる

磨 [他] 刀など研にて磨し鋭

研 [他] 鈍などをとぐ

解 [他] ほどく。晴らす。散

説 [他] 言ひ述べる

溶 [他] 繪具又は糊などを水

鎔 [他] 金屬を火にてとかす

問 [名] たづねる。きく

訪 [他] 安否を聞く。おとな

飛 [自] かける。はれる。ち

伽 [名] 話の相手などするこ

咄 [感] しかる聲

利 [形] するどし。かしこし

迎 [辭] さりとて。さればと

止 [他] やむ。やめる。とど

退 [自] のくの轉訛

獨 [名] ひとり

共 [尾] 名詞に添へたる復數

度度 [副] たびたび

何處 [代] いづこ

徒費 [名] むだづかひ

徒死 [名] じいぬじに。むだ

如何 [副] どのやうに。い

何方 [名] どちらの略

怒氣 [名] 人の怒りたる氣

同士 [尾] どうしの略。同

途次 [名] みちすがら

盪 [自] 固形體の鎔流るるさ

遠 [形] 距離多きこと

乏 [形] 缺乏(ケツボウ)不足

點 [他] 火を點する

通 [自] とどく。貫き通す。

止 [他] とむに同じ

届 [自] 到り着く。及ぶ。達

尖とがる〔自〕物の尖の鋭くとがり
 唱となよ〔他〕述べたつる。呼ぶ。
 隣となり〔名〕ならびつづく
 捉とらふ〔他〕執(トラフ)抑へとる
 捕とらふ〔他〕おさへて弱めとる。
 頓とみに〔副〕俄かに。急に
 投とす〔自〕入る。乗る。なげる
 篤とく〔副〕よくよく。つらつら
 泊とまる〔自〕船港にとまる。旅に
 鎖とどす〔他〕しめる。戸をとづる

所ところ〔名〕處(トコロ)場所。郷
 共とも〔副〕ともともに。ひとつ
 毆とぶ〔他〕たたく。なぐるの俗
 賭博とくぱく〔名〕博奕に同じ
 途方とちほう〔名〕すぢみち
 何方どちほう〔代〕いづかた。いづ
 何奴どいつ〔代〕どのもの。なに
 綴目とじめ〔名〕綴じたる箇所
 取箇とりのか〔名〕年貢の上り高
 取得とりのえ〔名〕學問才智の取り
 用ゆべきところ

跡絶とせだえ〔名〕杜絶(トセツ)往
 途端とたん〔名〕もののはづみ
 杜塞とそく〔名〕ふさがること
 斗筲とせう〔名〕升で量る如き平
 咄嗟とつさ〔名〕あはやの間
 渡來とらい〔名〕外國より渡りて
 遁辭とんじ〔名〕ひねけの詞
 頓挫とんざ〔名〕文法の語。くち
 登祚とんそ〔名〕天子の位に上り
 登還とんか〔名〕天千のかくれさ

登記とうき〔名〕公の帳簿に記入
 登機とうき〔名〕うごくはづみ
 動作どうさ〔名〕たちぬふるまひ
 動議どうぎ〔名〕一の意見を會議
 動止どうし〔名〕動作に同じ
 投機とうき〔名〕時機に投ずること
 騰貴とうき〔名〕物價の貴くなる
 統治とうち〔名〕すべ治むること
 動氣どうき〔名〕心臓のさわぎ動
 得意とくい〔名〕満足。長所。商
 家の顧客の稱

徳義とくぎ〔名〕道德上の義理
 獨歩どくほ〔名〕ひとりあるき
 特旨とくし〔名〕特別の思召
 特派とくは〔名〕特に差し遣はす
 篤志とくし〔名〕厚き志
 途中とちう〔名〕みちすがら
 塗抹とまつ〔名〕ぬりつける。な
 徒刑とけい〔名〕法律上の罪名
 渡航とくかう〔名〕船にて海を渡る
 渡御とくご〔名〕神輿などのわた
 ること

渡世とせ〔名〕世渡り。すぎは
 渡船とせん〔名〕船をわたすこと
 屠殺とさつ〔名〕ほふり殺す
 塗擦とさつ〔名〕ぬりけす。なす
 跡切とせき〔自〕往來の跡絶ゆ。
 中絶
 止處とせど〔名〕とまり。かぎり
 年端としは〔名〕年の程
 徒手としゆ〔名〕てぶら。からて
 徒勞とらう〔名〕むだばれなり
 徒論とろん〔名〕むだあらそひ

飛火 [名] 飛びて炎移る火

吃言 [名] 辯舌爽かならぬこと

徒然 [名] つれづれ。つくねん

大息 [名] ふとき息。ためいき

遠出 [名] 遠方へ行くこと

遠見 [名] 遠く見渡す

茶毒 [名] くるしみ。いたみ

盪 [他] とろけしむ

盪 [副] とろとろと

送 [自] ほとばしるの略

遠 [他] 遠くはなしむること

疾 [副] とくに。いちばやく

尖 [他] 物の端を鋭くする

囚 [自] 人に捕へらるること

弔 [他] 裏ある人を訪ひ慰める。亡人の追福

訪 [他] 人の安否を訪ふ

時 [自] 好き運にあひ富榮え

調 [自] 揃へ完全にする。成就。買ひ求むる

留 [自] 一つとところに居ること

轟 [自] 鳴り轟く。名高くな

通名 [名] 通稱(ツウシヨ) 廣く世に知れたる名

通字 [名] 先祖より用ひ來れる實名の一字

綴込 [他] 雑多の書物を一つに綴づること

綴方 [名] 物をとづる方法

綴付 [名] 綴ちて一まとめにする

遠乘 [名] 乗馬して遠き路を行くこと

遠寄 [名] 遠く寄り來ること。芝居の術語

遠退 [自] とほざかる。間を隔つる

閉籠 [他] 室の中にこめ置く

土着 [名] その土地に永く住すること

土地柄 [名] その土地の風

取上 [他] 手にとりあげる。官に召上ぐ。出産を扱ふ

取合 [名] 互に取りあふこと

取替 [名] 取替ふること

取入 [自] 機嫌をとる。おもねる

取出 [他] とりいでて。取出す

取置 [名] とりてしまひ置く

取消 [名] 否認する。なしとす

取組 [名] 相手となる。相撲の術語

取極 [他] 取りさだむる

取込 [名] とりおさむること。多忙なること

取付 [名] とりすがること。物の始め。とつ

取立 [名] 促し集む。下よ

取次 [名] 人事門を見よ

取詰 [他] 事を取急ぐ

取留 [他] たしかに取る。保証する

取成 [名] 辯護する。取り繕ふ

取除 [名] とりのぞく。のけものにする

取引 [名] 金銭其他物品の受渡し

取遣 [名] 取ることとやる

取巻 [名] とりかこむ。他して遊ぶ替間の稱

取分 [副] 特別して。別けて。

取切 [他] 取りしまふ。一切をすべ行ふ

取越 [名] 爲すべき時よりも早く爲すこと

取支 [名] とりささふる。取り繕ふ

取高 [名] みいり高。収入の額。祿高

取得 [名] とりえたる。貴任なき買物

取逃 [名] 他の物を奪ひて逃ぐる

取分 [名] とりまへ。わがものとするべき分

取持 [他] 執持(トリモチ)する。周旋する。推舉する。媒介する

取分 [名] 殊更に。とりわけ

取前 [名] 取高に同じ

取舵 [名] 舟の軸を左りへ轉する時の舵の取方

取付 [自] とりつきに同じ

取組 [自] とりくむの詠

取散 [自] とりちること。あわてること

凸凹 [名] なかたかとなか

凸面 [名] 物の面の中高きこと

突如 [副] 不意に。やにわ

突進 [名] つきすすむ

突然 [副] 突如に同じ

突戦 [名] 突き出でて戦ふ

呐喊 [名] ときのこゑ

咄咄 [感] いぶかり怪む語。叱咤の時の語

屯所 [名] 屯在(トンザイ)したむる

屯戍 [名] 屯營(トンエイ)したむるにて守る

最後 [名] 尤もあとなること。俗語

鈍附 [名] 下等なる布子。智慧の足らぬ人の謂

吞澤 [名] 日曜其他公休日を指す語。蘭語

如何 [副] どのやうにの俗語

遁走 [名] にげはしる

遁逃 [名] 遁走に同じ

遁世 [名] 世を遁れて佛門に入ること

鈍角 [名] 數學の語。銳角の反對の角度

鈍才 [名] にぶき才能

鈍根 [名] 佛語。悟り鈍きこと

頓才 [名] 機に應じ出づる才

頓首 [名] 首を地まで垂れ、て禮する。書翰の末にひく

頓服 [名] 藥などを一度に飲むこと

頓怯 [名] あわつ。まのぬけたると。俗語

頓厚 [名] 行の厚きこと

敦朴 [名] 行厚く質朴なること

敦圉 [名] いきまくこと

逗留 [名] しばらく旅にとどまること

吞噬 [名] かみくらふこと

貪欲 [名] 慾あくまで深き謂

噸稅 [名] 輸出輸入の貨物に課する稅

洞慾 [名] 慾深き。貪。苛酷なる。非道なる

洞突 [名] 礎の下を突き固むる

洞切 [名] 洞を横に切ること

同音 [名] 聲の調子の同一なること。音の同じこと

同行 [名] みちづれ。連れ立つこと

同學 [名] 共に學問すること

同勤 [名] 同じ役目を勤むる

同居 [名] 同じ家に住居する

同穴 [名] 死して後同じ穴に葬らるること

同權 [名] 相互に同じ權利を有すること

同道 [名] 同行に同じ

同列 [名] おなじならび

同斷 [名] ひとわたり。ひとつら

同種 [名] おなじ種類

同数 [名] おなじかず
 同質 [名] おなじたち
 同前 [名] 前におなじ。同様
 同窓 [名] 同じ家に學問したること
 同勢 [名] 同行の輩の謂
 同車 [名] 一つ車に乗合ふ
 同船 [名] 一つ船に乗合ふ
 同年 [名] おなじ年
 同輩 [名] おなじともから
 同伴 [名] 同行に同じ。人
 専門を見よ

同一 [名] おなじもの。ひとつもの
 同衾 [名] とも寝。そひ寝
 同業 [名] おなじなりはひ
 同筆 [名] おなじ筆のあと
 同腹 [名] 同じ腹に生れたること。心を同じくする
 同盟 [名] なかまとなること
 同轍 [名] 同じ道をふみ行くこと
 同慶 [名] 共によるこぶ
 同格 [名] 同じふりあひ
 同化 [名] 融化するること

同門 [名] 同じ師匠につき居ること
 動産 [名] 動かして得べき財産
 動靜 [名] 模様。人の起居かなること
 動亂 [名] 世の中の動き亂るること
 透徹 [名] すきとほること
 透明 [名] 透徹に同じ
 偷安 [名] かりそめに。一時の安きをむさぼる
 登臨 [名] 高き處に上り下を見る
 登仙 [名] 仙人に化して天に登る。天皇崩御の別稱

登閣 [名] 樓閣にのぼる。内閣へ出頭する
 登壇 [名] 壇の上のぼる
 登載 [名] かきのせる
 登庸 [名] 官途に引き擧げ用ゆ
 登樓 [名] 樓に上ること。妓樓などに登る
 登録 [名] 公の帳簿に記入すること
 東漸 [名] 東の方へ轉ずる
 統計 [名] すべあはせかぞふる
 統帥 [名] 統裁(トウサイ)すべひきある
 統合 [名] すべくくる

統御 [名] すべをさむる
 統一 [名] 一つにする
 洞察 [名] かんぬく。みぬきかんがへる
 洞房 [名] ねや。れどこ。轉じて妓女の園
 童謠 [名] わらべうた
 投合 [名] 意氣相合ふこと
 投錨 [名] 船の錨を下すこと
 投函 [名] 郵便をポストに入れる
 投書 [名] 文章などを遣り送る
 投稿 [名] 投書に同じ

投票 [名] 入札に同じ
 等閑 [名] なほざりなる
 等分 [名] ひとしく分ける
 等級 [名] くらゐ。しな
 毒害 [名] 毒を飲ませ人を殺す
 毒斷 [名] ある食物をたち食はぬこと
 毒消 [名] 毒を消し去る
 毒殺 [名] 毒害に同じ
 德行 [名] 正しき行
 德澤 [名] めぐみなさけ

徳政 [名] なさげ深き政事

徳用 [名] 物事の利方

徳望 [名] 人望あること

篤行 [名] 人倫の道に厚きこと

篤疾 [名] 病重きこと

篤實 [名] 正直にして親切

得失 [名] 得ると失ふと。

得表 [名] 得失に同じ

得心 [名] 納得すること

得道 [名] 佛語。悟を開き佛道に入る

得分 [名] 利分に同じ

得票 [名] おのが得たる札の謂

得業 [名] 卒業に同じ

獨學 [名] 師につかず學ぶ

獨裁 [名] 帝王の親ら政事を裁断せらるる

獨占 [名] ひとり占むること

獨樂 [名] ひとりたのしむ

獨斷 [名] 一己の見込にて断決する

獨立 [名] ひとりたち

獨吟 [名] 獨り詩歌などを誦ふこと

獨奏 [名] ひとりかなでる

獨得 [名] 他に類似なき事

特權 [名] 特別の權利

特有 [名] そのもの限りたもつこと

特例 [名] 特別なる例規

特許 [名] 特別の免許

特惠 [名] 特別のめぐみ

特定 [名] 特別の定め

特選 [名] 特別の選み方

特製 [名] 特別に造りしもの

特發 [名] 病などの特に起るもの

特別 [名] べつべつ。かく

特命 [名] 特別のおぼせつ

特種 [名] 特別の種類

特教 [名] 特別のおしへ

特殊 [名] ことさら。とくべつに

特約 [名] 特別に約束せる

特待 [名] 特別の待遇

特産 [名] 特別の産出

特典 [名] 特別の掟

特效 [名] 特別のききめ

特性 [名] 特別の性質

特質 [名] 特性に同じ

特遇 [名] 特別の待遇

特任 [名] 特に官に任ずる

特點 [名] 他に異りたる特殊の點

讀書 [名] 書物をよむこと

讀誦 [名] 讀みそらんづる

讀法 [名] よみかた

督促 [名] うながしはたる

督責 [名] 取締りはたる

督勵 [名] 取締りはげます

度外 [名] 度をばづれたる

度胸 [名] 物事に臆せぬ心の謂

戸惑 [名] 夜中寢とぼけて方角を失ふ事

説付 [名] いひ伏せる

説伏 [名] 説き從はせる

解分 [名] ときはなす。書物の説明など

年上 [名] 年齢の他より長けたること

年嵩 [名] 年上に同じ
年延 [名] 年の程
年下 [名] 年の他よりわか
年徳 [名] 恵方に同じ
徒食 [名] ぬぐひ。職業な
途上 [名] 途中の謂
飛入 [名] 仲間以外より不
飛下 [名] とびおりる
飛交 [自] とびかはず
飛切 [名] 他に超えて優れ

飛込 [自] とびいるに同じ
飛越 [自] とびこえるに同
飛去 [自] 飛びて其場を去
飛立 [自] 飛びあがる
飛散 [自] とびて四方に散
飛付 [自] 跳り飛びつつ抱
飛退 [自] 飛びしりぞく
共食 [名] 同類相害ふこと
供待 [名] 主人の供して其
滞 [名] 延引。長引くこと

轟 [他] 鳴り響かす
時 [他] 繁榮を他に誇る
篤 [名] とくどくの音訛。つ
取取 [名] 各自(カクツ)に
取抑 [他] おさへるとむ。
取落 [他] 遺失(キシツ)遺
取返 [他] とりもどす
取掛 [他] 事をなし始める
取交 [他] 互にやりとりす

取殺 [他] 人にたたりて殺
取調 [名] しらべすること
取散 [他] 物を其處に亂し
取逃 [他] 捕へんとして逃
取集 [他] とりあつめる
取合 [他] 彼と是と反對す
取下 [他] 高き處のものを
取掛 [他] 仕事を始める
取圍 [他] かこむに同じ
取返 [名] 一度び人に移り

取崩 [名] 取毀(トリコワ
取捌 [自] さばくに同じ
取頻 [自] 一身に引受けて
取締 [他] 管理(クワンリ)
取纏 [他] まとめに同じ
取絶 [自] すがるに同じ
取揃 [他] そろへること
取違 [名] あれとこれとと
取疲 [自] 相撲の語。角力
取績 [自] 相撲の語。角力

取直 [他] 改め直す。持ち
取残 [他] のこすに同じ
取除 [他] のぞく。とりの
取延 [他] のぼす。延引す
取上 [自] 逆上(ギヤクツ
取外 [他] とりてはずす
取放 [他] 一旦取りてまた
取戻 [他] 廻取(クワイシ
取拂 [他] 引きばら

取挫 [他] とりくぢく。敵をひしぐ。
取廣 [他] ひろげる。
取紛 [他] 物にまぎれる。
取所 [名] その人のとりえ。
取結 [名] 縁組などを結ぶ。
取亂 [他] 物をとりちらす。衣装などの亂れ。
取措 [他] 思ひにくれて心決せざるさま。
突出 [名] つきいづること。
突貫 [名] 敵中へつき入る。
突兀 [名] 物の聳へたらしたる状態。

頓病 [名] 病のにはかにおこること。
頓着 [名] 心配(シンパイ)こころづかひ。
等外 [名] なみはづれ。等級の外。判任官の次位。
同郷 [名] おなじ故郷。同國。
登極 [名] 天子の御位につかせたまふこと。
投宿 [名] とまりに入ること。
獨力 [名] ただひとりの力。
獨酌 [名] 獨り酒をのむ。
特色 [名] 特別のもちまへ。
特徴 [名] 特別のしるし。

瀆職 [名] 職分をけがすこと。
統括 [名] すべくくる。
撞着 [名] つきあたる。しりもちつく。
洞觀 [名] みとほす。
泊宿 [名] 旅にて宿泊する。
泊番 [名] 人事門を見よ。
泊掛 [名] 他の家に出づるべし。他家を出づるべし。
所書 [名] 住所を記せるもの。
所替 [名] 場所を他へ移す。轉地すること。
說諭 [他] 言葉を盡して教へ知らしむ。

説明 [名] セツメイ。物をわけてとき明す。
説勸 [他] すすめいざなふ。
解放 [他] カイハク。解きて分れ分れにする。
床離 [名] 寢所より起き出づること。
床拂 [名] 病癒えて床を上ぐるること。
時鐘 [名] 物名門を見よ。
時物 [名] その時節のもの。
関聲 [名] をめきさげぶこと。
年功 [名] ネンコウ。年長し。いさをし。

問合 [名] 照會(セウカワ)とひ合すこと。
飛上 [自] 飛びて上ること。
飛掛 [自] 馳せかかる。
飛下 [自] とびおりるに同じ。
飛違 [自] 大にかけはなれる。かたみに飛ちかへる。
飛翔 [自] 空中を飛びゆく。
飛離 [自] 飛び退く。懸け隔つ。飛びちかふ。
飛廻 [自] はれまはること。
飛渡 [自] 飛びて向ふへ渡る。

共共 [副] 一緒に。打ちつれて。もる共に。
供揃 [名] 多勢の供人をうち揃はしむること。
毒毒 [形] 毒のいかにあつこと。
刺刺 [形] かどだちたるさま。
混混 [形] コンコン。俗言。水又血等の進るさま。
暗黒 [形] 俗言。わるく黒き色のさま。
度外視 [名] 氣に留めぬこと。
取扱 [他] とりはからふ。
取繕 [他] つくらう。とりなす。辯護する。

取計 (他) あつかふ。心切に事をする。
取賄 (自) まかなうに同じ。
取返 (自) ひきかへす。あつかはる。
取捉 (自) つかまへる。とらふ。
隣合 (名) となりあはせること。
捉所 (名) とるべきところ。證據と目指す點。
免角 (副) ともかくも。ともあれかくも。
永久 (副) いつまでも。かたしなへに。
翻筋斗 (名) くるりと身を反へすこと。
頓珍漢 (名) 俗語。物事の行き違ふこと。

動物園 (名) 物名門を見よ。
圖書館 (名) 物名門を見よ。
統計學 (名) 統計に關する學問。
同窓會 (名) 同窓の人々を立てる會。
同盟國 (名) 同盟を約したる國。
同盟罷工 (名) ストライクに同じ。
治 (名) 世の中の安寧なること。
痴話 (名) 男女の戯れ言。
馳驅 (名) はすること。
地下 (名) 五位以下未だ昇る官人の稱。
治下 (名) 支配下。
知府 (名) 支那の官名、わが府縣知事にしむ。
持碁 (名) 圍碁の語、打ち果て、勝負なきこと。
智慧 (名) 智に同じ。
地祇 (名) くにのつかみ。
遲疑 (名) たゆたふこと。

千 (名) 數學の語。千。千倍。數多きこと。
持 (名) 勝負事にまげかちなきこと。
恥 (名) 人事門を見よ。
治 (名) 療治(レウツ)病などを治する。
地位 (名) ねどころ。場所。
千 (名) あまた。さまざま。
除 (名) 算術の語。わりざん。
賃 (名) 仕事の手間に報ゆる錢。
珍 (名) めつらしきこと。
陣 (名) いくさぞなへ。

禿 (自) すれきる。ちびるに同じ。
治 (自) 治に同じ。
持 (自) もつ。たもつ。
些 (副) いささか。わづか。
地利 (名) 地勢の便利。土地の收利。
地理 (名) 地球の形状、海陸の廣狹、人口、物産等を研究する學。
地價 (名) 土地の直段。
散 (自) 別れ別れになる。ばらばら。みだれとぶ。
地租 (名) 政府に納むる土地の租稅。
痴愚 (名) 人事門を見よ。

治 (名) 世の中の安寧なること。
痴話 (名) 男女の戯れ言。
馳驅 (名) はすること。
地下 (名) 五位以下未だ昇る官人の稱。
治下 (名) 支配下。
知府 (名) 支那の官名、わが府縣知事にしむ。
持碁 (名) 圍碁の語、打ち果て、勝負なきこと。
智慧 (名) 智に同じ。
地祇 (名) くにのつかみ。
遲疑 (名) たゆたふこと。

治癒 (名) 病のなほること。
撲素 (名) 身なりなど飾らぬこと。
地味 (名) 土地の性質。土地の肥瘠。
地誌 (名) 地理を記したる書物。
千代 (名) ちとせ。多くの年月。
致仕 (名) 仕をやむること。職を辭して退く。
稚子 (名) をさなご。みつご。
知己 (名) おのが心をよく知れる友。
縮 (自) 短く狭く小くなる。
縮 (名) ちぢむこと。

近ちかし [形] 彼此の間程遠からず
 誓ちかひ [名] ちかふこと。神佛へかけて約束すること
 違ちがふ [自] いらまざる。相違す
 力ちから [名] 動物の自ら動き又は他を動かし得る作用
 税ちから [名] みつきもの
 直ちか [副] ザギニの訛
 長ちやう [名] をき。かしら。としうへ。すぐれたる
 丁ちやう [接] 語。豆腐を數ふる語
 挺ちやう [接] 語。鉄などを數ふる
 張ちやう [接] 語。弓などを數ふる

寵ちやう [名] めでつくしむこと
 丈ちやう [名] 度の名目、尺の十倍
 嬢ちやう [名] 身分ある人の娘を指す語
 定ちやう [名] それと定めたること
 敕ちやう [名] 天子の御言葉。みこと
 直ちやう [名] なほきこと
 叙ちやう [他] 官に任す
 因ちやう [名] ゆかり。文にし。たよる。すがる
 散ちやう [他] ばらばらにす。言ひ
 散ちやう [名] ばらばらにすること。ばらばらにすること

陳ちん [他] 言葉にて述べたつ。
 跛ちん [名] 片足正しく歩むこと
 着ちやく [名] 轉して物の揃はぬこと
 着ちやく [名] 到着すること
 岐ちま [名] 枝ある路の分れ行く
 小ちさ [形] ちいさしの略
 直ちき [副] ただちに。すぐに。ちか。直接に
 契ちぎ [名] ちぎること。約束すること。宿世の縁
 忠ちゆう [名] 眞心を盡すこと。まめやかなること
 註ちゆう [名] ときあかし
 住ちゆう [名] すむこと。住まひ居ること

重ちゆう [接] 重なりたるものを數ふる語
 地息ちいき [名] 地上より昇る蒸發氣
 知音ちいん [名] よく心を知あひてゐる友
 遅引ちいん [名] おくるること
 地域ちいき [名] 土地の區域
 持論ちろん [名] 平生の議論
 薙髮ちはつ [名] 頭髪を剃り落すこと
 地細ちほ [名] 織地の細く緻密なること
 地方ちほう [名] 一方の土地。ぬ
 地望ちぼう [名] いへがら

地平ちへい [名] 大地の平面
 地取ちどり [名] 相撲の技をならふこと
 地割ちわり [名] 土地を道路宅地などに區分すること
 地借ちかり [名] 地所を他人より借り入ること
 地金ちかね [名] 金物などに作るべき下地の金。本心。本性
 地貸ちかし [名] 地所を貸すこと
 地方ちかた [名] 田舎。在郷。海上より陸地を指す語
 地學ちがく [名] 地理學に同じ
 地代ちだい [名] 土地の借料

地搗ちつき [名] ちかたけに同じ
 地坪ちつは [名] 地面の坪數
 地鳴ちなり [名] 地震などの時地底の鳴り響くこと
 地形ちけい [名] 土地の形
 地内ちない [名] 區域をなせる土地の構内
 地山ちやま [名] 航海者の語、陸地の山
 地輻ちふく [名] 門の闕
 地聲ちせい [名] うまれつきの聲
 地窖ちかう [名] あなぐち
 地獄ちごく [名] 佛教の語、冥土の苛責を受くる所

地點 [名] ところ。場所
地殻 [名] 地球の外部
地底 [名] 地のそと
地合 [名] 織物の地質
地名 [名] 土地の名
地道 [名] そろそろと歩むこと
地尻 [名] 一區の地面の後方
地所 [名] 土地。地面
地紋 [名] 織物染物に、地の模様
地引 [名] 地綱を陸地へ引き寄せること

地勢 [名] 土地の形勢
地摺 [名] 模様を染め出すこと
馳驚 [名] はすること
馳騁 [名] はせめぐること
馳突 [名] はせつくこと
馳道 [名] みゆきの道
馳逐 [名] はせおふ。追ひまはること
智謀 [名] ちゐある謀
智辯 [名] 智慧と辯舌と
智慮 [名] 智慧深き考へ

智囊 [名] 智慧多き人ないふ
智能 [名] 智慧はたらきのあること
智計 [名] ちゐある謀
治平 [名] 世のおだやかなること
治兵 [名] 兵士の勢揃ひし、て出陣すること
池邊 [名] 池のほとり
千歳 [名] 千の年。數へつくせぬ年
地頭 [名] 一地方の領主の稱
治道 [名] 天下を治むる方法
痴鈍 [名] 氣轉のきかぬこ

父御 [名] 他人の父を教ひていふ語
父字 [名] 反切の時初めに呼出す聲の文字
持律 [名] 佛語、佛道の戒律を守ること
近間 [名] 近きところ
知覺 [名] 知り覺ること
持戒 [名] 佛教の戒を守ること
痴漢 [名] げかもの。まぬけ
除租 [名] 租税を除きて取らぬこと
除地 [名] 年貢を除きて取らぬ土地
除夜 [名] 大晦日の夜

儲位 [名] 皇太子の御位
叙位 [名] その位に列次すること
治要 [名] 政治のかなめ
樗蒲 [名] かりうち。博奕
千度 [副] あまたたび
地體 [名] もと。根本
治體 [名] をさめかた
遲滯 [名] とどこほること
馳走 [名] ふるまひ。もてなし
治装 [名] たびのしたく

遲速 [名] おそきとはやきと
持續 [名] もちつづくこと
蟄 [名] 虫冬に至り土を穿ちて伏し隠る。世を逃れ隠る
治亂 [名] 世の治まると亂るると
陳屋 [名] 軍勢の屯する假屋
珍味 [名] めづらしきくひもの
珍奇 [名] めづらしきこと
珍事 [名] めづらしきこと
珍貴 [名] めづらしくて貴きこと
珍器 [名] めづらしきうつは

珍異 [名] かばりたること
 鎮護 [名] 亂をしづめ、國を守ること
 鎮座 [名] 神靈のその地に鎮まり座すること
 鎮撫 [名] 亂をしづめ、民を治むること
 陳疏 [名] いひわけすること
 陳腐 [名] ふるくさきこと
 塵事 [名] 浮世の俗事
 塵汚 [名] ちりほこり
 塵穢 [名] 塵汚に同じ
 塵區 [名] 浮世。塵の世

沈痾 [名] いつまでもなほ
 陳語 [名] いくさの陣だて
 沈思 [名] 深く考ふること
 地乘 [名] 學術の語、足並に乘ること
 千種 [名] くさぐさ。さま
 地口 [名] 一種のしやれ
 値遇 [名] であふこと
 知遇 [名] 己が才學をみぬを受くること
 逐次 [名] 次第を追ひて。順順に

逐夜 [名] 毎夜。每晚
 忸怩 [名] はづること
 茶肆 [名] 葉茶を賣る家
 茶事 [名] 茶の湯の技
 茶話 [名] 茶を飲みながら間話すること
 遲慢 [名] づるくること
 知縣 [名] 支那の官名、わが郡長にて判事を兼ねるもの
 知見 [名] 知ると見ると。さとことり
 遲刻 [名] 定めめの刻限よりおくるること

治忽 [名] 治まると、亂る
 治行 [名] 旅の支度をすること
 治國 [名] 國を治むること
 治定 [名] 世の治まり定まること
 治安 [名] 國の安く治まること
 治所 [名] 政治を行ひてあるところ
 治蹟 [名] まつりごとのでまきげえ
 治世 [名] 治まれる世。天子の世を統べ治め給ふ間
 治水 [名] 川普請をすこと
 智巧 [名] ちみたくみ

遲延 [名] おそくなること
 遲參 [名] 定めめの刻限より遅く参ること
 血荒 [名] 胎兒の未だ形を成さずして墮りたるにいふ語
 持參 [名] 物を持ちて参ること
 笞罪 [名] 笞にて脊、臀などを打つ刑
 致齋 [名] 父祖の祭典を行ふ前に豫め警戒して身を慎むこと
 振斷 [名] ねぢきる。もぎとる
 直披 [名] 手紙の表書に記す語、他見を許さず自身に開中の意
 直訴 [名] 申次を歴すして直に上に訴ふる

直話 [名] 人傳によらず直ちに話し合ふこと
 知友 [名] ともだち
 知命 [名] 天命を知ること
 知名 [名] 名高きこと
 地質 [名] 土地の性質
 智識 [名] 智惠と見識と
 知悉 [名] くばしく知ること
 置酒 [名] 酒宴を開くこと
 知了 [名] さとること
 踟躕 [名] ためらふこと

治療 (名) 病をなほすこと

父上 (名) 父を尊びていふ

父君 (名) 父を尊びていふ

血走 (自) 血ほとばしる。眼の色赤らみて鋭くなる

乳離 (名) 小児の稍成長し乳を呑むことを止むること

遅着 (名) おそくつく。お

治定 (名) をさまり定まる

持重 (名) 大切にしていふこと

鏤 (他) ほりつくる。彫りきさむ。ほりこむ

散失 (名) ちりてなくなる

散過 (自) 花などの大方散り失せたること

塵穴 (名) 塵芥を入れ捨つる穴

塵世 (名) この世。浮世

地理學 (名) 地理の事を研究する學

智略 (名) かしこきはかりごと

智力 (名) ちゑのはたらき

近頃 (副) このごろ。近來

近付 (名) 交りて懇意にする。近づく

近路 (名) 道程の近き方法

近寄 (自) 近くよりつく。

地固 (名) 地形に同じ

違目 (名) 違ひたるところ。異たる部分

徴 (他) 證據立つる

一寸 (副) 物をついにいふ詞

女學 (名) 女の學問

女性 (名) 女の生れつきたること

女工 (名) 女の手仕事

女權 (名) 男子と同等なる女子の權利
女禮 (名) 女子の作法
敕語 (名) 天子のおことば
敕意 (名) 天子の御思召
敕諭 (名) 天子の御さとし
敕旨 (名) 敕諭に同じ
著作 (名) 書物をあらはすこと
著名 (名) 名高きこと
著明 (名) いちぢるしきこと
著姓 (名) 世に名高き苗字

除籍 (名) 戸籍より名前を除くこと
除名 (名) その名前を名簿より除くこと
除服 (名) いみあげ。ふく
除隊 (名) 兵士の服役年限を終りて隊より除かるること
除算 (名) 數語、乘法の反對にてある因子見出す法
除法 (名) 除算に同じ
除族 (名) 華士族の罪を犯したる時平民とする
除斥 (名) 法語、裁判の公執行を禁ずること
重利 (名) 貸金の元金に利を加へて取ること

直下 (名) ました。直ちに下ること
直視 (名) まつすぐに見る
貯蓄 (名) たくはふること
貯藏 (名) たくはへをさむること
貯財 (名) 貯寶をたくはふること
徵募 (名) めしつものること
濁世 (名) 佛教の語、濁れる世。この世
儲君 (名) まうけのきみ。太子
佇立 (名) ただすむこと
徵治 (名) いましめこらすこと

長ちやう 自 生ひ立つ。生長す。

長歌ちやうか (名) ながうたに同じ

長座ちやうざ (名) 人を訪ひて長居すること

長途ちやうと (名) ながき旅路

長夜ちやうや (名) 冬のながき夜

長驅ちやうく (名) とほのりすること。ながおひすること

丁度ちやうど (副) ほどよく。あたり

町歩ちやうぶ (名) 段別の町を數ふる語

帳場ちやうば (名) 商家にて帳付又は金錢の勘定するところ

丈夫ちやうぶ (名) 身體の壯健なること。物の堅固なること

暢茂ちやうまう (名) 草木などののびしげること

停止ちやうし (名) 差止むること。禁止すること

地續ちつぞく (名) 土地のつらなりつづきたること

蟄居ちつこ (名) 籠り居ること。家にすこもること

秩祿ちつろく (名) 官等の次第によつて賜はる祿高

秩序ちつじ (名) 物事の順序よくして亂れぬこと

昵近ちつきん (名) したしみちかづくこと

窒塞ちつそく (名) ふさがること

窒息ちつそく (名) いきのとまること

地平ちへい (名) 地面の高低を平にする

閃ちらつく 自 ひらめく。きらめく

霏霏ちらちら (副) 雪又は花などの散るさまにいふ

閃閃ちらちら (副) 燈火の光などの閃めくさまにいふ

散亂ちらちら (自) 散り亂る

稀疎ちらちら (副) まばらに。ぼつ

借貸ちんがし (名) 錢を受けて物を貸すこと

賃搗ちんづき (名) 賃錢を受けて餅などをつくこと

陳立ちんたて (名) 陣を布く法

陳取ちんとり (名) 陣立に同じ

陳觸ちんぶれ (名) 出陣の號令

陳小屋ちんこや (名) 軍勢を屯する假小屋

鎮壓ちんあつ (名) おししづむること

鎮火ちんくわ (名) 火の鎮まり消ゆること

鎮守ちんじゆ (名) 兵を置きてこの地を鎮め守ること

鎮靜ちんせい (名) しづまること

鎮定ちんてい (名) しづまり定まること

鎮台ちんたい (名) 地方を鎮め守る兵營

鎮伏ちんぷく (名) しづめふすること

鎮痛ちんつう (名) いたみをしづむること

陳營ちんえい (名) 軍勢を屯する所

陳形ちんけい (名) 陣を布けるかたち

陳代ちんだい (名) 陣屋を留守する役

陳痛ちんつう (名) 産の時などにむしのかぶると

陳頭ちんてう (名) 軍陣のさき

陳法ちんぽう (名) 軍陣をつらぬる法

陳亡ちんぼう (名) 戰場にて打死すること

珍藏ちんざう (名) 珍重して愛で藏め置くこと

珍惜ちんせき (名) めでたにおしむこと。大切にすること

珍說ちんせつ (名) めづらしきはなし

珍膳ちんぜん (名) めづらしきくひもの

珍談ちんたん (名) めづらしきはなし

珍寶ちんぼう (名) めづらしき寶

珍物ちんぶつ (名) 珍品(チンペン)めづらしきもの

珍聞ちんぶん (名) めづらしきはなし

珍貨ちんくわ (名) たから

陳言ちんげん (名) ふるくさき言葉

陳謝ちんしゃ (名) わびをいふこと

陳叙 [名] 申し述ぶること
 陳請 [名] 事のわけを述べたのむこと
 陳跡 [名] ふるきあと
 陳套 [名] ふろくさきこと
 陳列 [名] ならべつらぬる
 陳辯 [名] 申し開きすること
 沈吟 [名] うめくこと
 沈没 [名] 水に入り沈むこと
 沈滯 [名] しづみとどこほること
 沈靜 [名] しづかなること

沈黙 [名] おちつきてもいはいぬこと
 沈論 [名] 沈みて浮ばぬこと
 沈酒 [名] 酒に耽ること
 沈落 [名] 沈淪に同じ
 沈溺 [名] しづみおぼること
 沈澱 [名] 水底にしづみよ
 沈醉 [名] 酔ひつぶること
 沈沈 [名] 静かなるさまに
 塵縁 [名] 浮世の縁

塵世 [名] ちりの世。世俗を厭いていふ語
 賃銭 [名] 雇はれ仕事にて得る銭
 賃屋 [名] かし家
 除去 [名] のぞき去ること
 枕邊 [名] まくらもと
 乳臭 [名] 乳の氣あり。いとけなし
 逐一 [名] ひとつひとつに
 逐項 [名] いちいちのかど
 逐客 [名] 他國より來りて仕官するを逐ひ拂ふこと
 逐號 [名] 新聞、雜誌などの號を逐ふこと

逐跡 [名] 逃げたる人の跡を追ふこと
 逐斥 [名] おひしりぞくること
 逐電 [名] 出奔。かけおち
 逐鹿 [名] 鹿を逐ふこと。天下を争ふ事にたとへていふ語
 竹園 [名] たけのそのふ。親王の稱
 築港 [名] 港をこしらふる
 築造 [名] きづきつくること
 蓄養 [名] かひやしなふこと
 畜産 [名] 牛馬の類を養ふこと
 蓄財 [名] 金銀を貯ふること

蓄積 [名] たくはへつむること
 馳廻 [名] はせめぐること
 遲緩 [名] ゆるやかなること
 遲回 [名] おそなほること
 着 [名] その所に到り着く。衣服をきる
 茶請 [名] 煎茶を呑む時、併せて食ふ菓子
 茶色 [名] 黄と赤と混和して黒みある色
 茶會 [名] 客を會し抹茶を饗應すること
 茶湯 [名] 茶會に同じ
 茶子 [名] 俗に事を爲すに甚だ易きこと

茶摘 [名] 茶の樹の芽を摘み取ること
 茶漬 [名] 煎茶を飯に注ぎて食ふこと
 茶席 [名] 茶座敷
 茶禮 [名] 茶の湯の禮式
 茶道 [名] 茶會の技
 茶代 [名] 茶屋などに息ふ時茶の代として與ふる錢
 茶室 [名] 茶の會の座敷
 茶亭 [名] 茶屋。こしかけ
 茶庭 [名] 茶室に屬する庭
 茶染 [名] 茶色に染めたるもの

着衣 [名] 衣物を着ること
着袴 [名] はかまをつくること
着意 [名] きをつくこと
着座 [名] 座につくこと
嫡家 [名] 正統の家筋
血祭 [名] 戦の前に、必勝を祈ること
血塗 [名] 血に染み塗れたること
血迷 [自] 烈しき怒り又は神狂ふため
地廻 [名] 地方より送り來ること
地祭 [名] 家屋を建築する時に行ふ祭

地境 [名] 土地の境
直書 [名] その人の自ら書きたるもの
直奏 [名] 他の手を歴すして直接に奏聞すること
直達 [名] 他の手を歴すして直接に傳達すること
直談 [名] ちかばなし
直傳 [名] 直接その師より受くること
地形 [名] 家を建つる時その地の築き固むること
中 [自] まなかに至る
住 [自] すむ。すまふ

血烟 [名] 人を斬りて血の迸ること
誅 [他] 罪あるものを殺す
中止 [名] 中途にて止むること
籌算 [名] ばかりかぞふること
中祀 [名] 三日間潔齋して行ふ稱
中佐 [名] 大佐の下、少佐の上の位する武官の名
中尉 [名] 大尉の下、少尉の上の位する武官の名
中途 [名] 行路の中程
中古 [名] なかむかし

中座 [名] 集會などに出席して中途に去ること
中部 [名] まんなかのところ
中饋 [名] 煮炊きすること
忠義 [名] 眞心こめて君に仕ふる節義
忠死 [名] 忠節を盡して死ぬること
住家 [名] 住みてある家
仲夏 [名] 陰曆五月の稱
注意 [名] 氣をつくること
注視 [名] 見つむること
註疎 [名] 註と疎と

駐駕 [名] 天子の行幸先に御滞在あらせらるること
地上 [名] 地のうへ
耻辱 [名] はぢ。はづかしめ
治術 [名] 病を療治する仕方
痴情 [名] 男女の愛にほださるる情
籌策 [名] ばかりごと
智術 [名] 智恵てだて
躊躇 [名] ためらふこと
小 [副] 大きからず。いささかなり
女流 [名] なんな。女性

逐條 [名] 箇條をおひて
茶寮 [名] すきや。かこひ
抽擢 [名] 多くの人の中よりぬき出ださること
抽籤 [名] くじをひくこと
書食 [名] ひるめし
書眠 [名] ひるね
晝寢 [名] 晝眠に同じ
鑄像 [名] 銅にて像を鑄造すること
鑄造 [名] 物の形を鑄て造ること
稠密 [名] みしげきこと。こみあふこと

地方税

府縣にて、その地方限りに取立つる税

地平線 大地の平面の、空と接するが如く見ゆる稱

千鳥足 左右へよるめきて歩む

千鳥掛 刺繡に糸をつつ掛けゆくこと

乳臭 未だ乳の臭あり幼稚なり

不潔 きたなげなり

塵芥 ちりとあくたと

散残 散り果てずして残る

散亂 散りてばらばらになる

寵榮 君主の寵愛を受けて榮ゆること

懲惡 あしきことをこらす

懲役 刑の名

懲戒 こらし戒むること

懲罰 つみしこらすこと

徵候 しるし。きざし

徵兵 國民の兵につか

徵稅 租税を徵收する

徵發 戦時に臨みて人などを出さしむること

徵辟 在野の士を朝廷へ召し出すこと

散始 そろそろとちり

痴話狂 男女の戯れ狂ふこと

力業 力を用ひてなす

力負 力を入れすぎた

力付 氣力を生ず

力盡 力をあらんかぎ

近近 多くの日数を歴す

定宿 いつも泊る宿

帳消 帳面に記しある

重複 物事の二重にな

重辨 花びらの重なる

重累 かさなること

重訂 書籍などを再び改訂すること

重任 任期みちて再び官に任ぜざる事

重年 奉公の年限を重

重犯 重ねて罪を犯す

澄清 すみて清きこと

重寶 使用するに便利

直角 鐵尺の角の如き

定詰 役所に詰めきり

帳合 帳面を引合せて取調ぶること

町打 的を打ち習ふこと

町並 高低遠近の町間尺を量ること

丁付 書物の枚数の順を記すること

女郎屋 遊女屋

女工場 女の手仕事をする所

寵愛 かばゆがること

寵恩 寵愛のめぐみ

寵遇 寵愛のとりあつ

重婚 夫又は婦をもて更に夫又は婦を持つこと

直徑 さしわたし

直言 憚らずして物云ふこと

直諫 憚らずして諫むること

直轄 ただちに支配すること

直隸 ただちに天子に屬すること

直達 ただちにとどく

直通 眞直にとほること

直稅 直接に納むる税

直接 うちつけ。さし

直音 [名] 語學の語、拗音の音の稱

直線 [名] 眞直なる線

直譯 [名] 外文書を言文通りに翻譯する事

直立 [名] ますぐに立つこと

直行 [名] 眞直に行くこと

直航 [名] 船の他の港へよらずに目的地へ行くこと

直系 [名] 先祖より代々嫡子にて相續すること

直答 [名] ただちに答ふること

直任 [名] 等を超えて官に任ずること

勅勘 [名] 勅命の勘當

勅許 [名] 勅命の免許

勅裁 [名] 勅命の裁決

勅祭 [名] 勅命の祭

勅命 [名] みことのみこと

勅封 [名] 勅命の封印

勅筆 [名] 天子の御筆蹟

勅任 [名] 親任と奏任との間にして各省の次官の如きもの

勅選 [名] 勅命によりて選出せらるること

勅書 [名] 勅命の文書

勅撰 [名] 勅命によりて書物を作る事

勅宣 [名] 天子の仰せを書きたるもの

勅答 [名] 天子の御答、誤問に答へ奉ること

勅約 [名] 天子のせさせたまふ約束

勅問 [名] 天子の御下問

勅斷 [名] 勅命によりて決すること

女色 [名] 女の色香

著彰 [名] 著稱に同じ

著述 [名] 書物を著すこと

長幼 [名] 年のたけたるといとけなきこと

長逝 [名] 死ぬること

長壽 [名] いのちながきこと

長生 [名] ながいき

長命 [名] 長生に同じ

長計 [名] すぐれてよき計

長恨 [名] ながきうらみ

長所 [名] 物に比して最も勝れ居ること

長短 [名] ながきとみじかきと。よしあし

長足 [名] 物事の早く進むこと

長歎 [名] 長く歎息すること

長舌 [名] 口先にて人を媚ぶること

長物 [名] むだもの

長養 [名] そだて養ふこと

定免 [名] 租税などを免ずること

定日 [名] 約束して定めたる日

定業 [名] 佛教の語、定まれる因果

定式 [名] 定まりたる儀式

定例 [名] 定まりたる例

定連 [名] 定まりたる連中

町内 [名] その町の内

丁數 [名] 書物などの枚數

脹腫 [名] ふくれあがること

暢達 [名] のびのびすること

暢舒 [名] のびやかなること

暢月 [名] 陰曆十一月の異稱

杖罪 [名] 昔杖に打つ刑

頂戴 [名] 貰ふことの敬語

聽覺 [名] 耳に聞く感覺

聽聞 [名] きくこと

悵望 [名] うらめしげにながむること

漲溢 [名] みなぎりあふるること

張本 [名] もと。おこり

散書 [名] 歌又は文などを又一行置にかくこと

散髪 [名] 髪を結ばず散らしてあること

陣拂 [名] 陣を引き拂ひて退くこと

賃仕事 [名] 賃金をとりてなす仕事

珍客 [名] まれに来る客

珍重 [名] 珍らしとて大切にすること

珍翫 [名] めづらしきなぐさみもの

珍怪 [名] めづらしくあやしきこと

珍貶 [名] めづらしきたまもの

珍賞 [名] めづらしとて賞美すること

珍心派 [名] 茶の湯の一種の流儀

陳情 [名] 情實を述ぶること

陳述 [名] 言葉に述ぶること

陳上 [名] 申しあぐること

陳熟 [名] ふるきこと

塵外 [名] 浮世の外

塵境 [名] 浮世。塵の世

沈着 [名] おちつきてあること

千草色 [名] もえぎいろ

畜生 [名] 人を罵りて呼ぶ語

築城 [名] 城をきづくこと

茶話 [名] 茶をのみながら話し合ふこと

茶湯日 [名] 佛に茶湯を供ふる日

茶座敷 [名] 茶の湯を立つる座席

茶會 [名] 客を會して煎茶を供する小集

着岸 [名] 船の岸につくこと

着眼 [名] 眼のつけどころ

着目 [名] 着眼に同じ

着御 [名] 到着の敬語

着手 [名] 手をつくること

着實 [名] 落ちつきたること

着帶 [名] 妊婦の五ヶ月目に腹帯を締むる式

着到 [名] いたりつくこと

着用 [名] 衣服を着ること

着腹 [名] 窈かに我が有とすること

着想 [名] 心をつくること

着席 [名] 席につくこと

着船 [名] 船の港につくこと

着陣 [名] 軍隊のその場所につくこと

着弾 [名] 大砲などの弾丸のつくこと

着鞭 [名] 他人に先だちて事をすること

着港 [名] 船の港につくこと

着艦 [名] 軍艦の港に着くこと

着車 [名] 車のある場所にづくこと

着報 [名] 到着のしらせ

着輦 [名] 御輦のその場所に着きたる電報

着電 [名] 着きたる電報

地文學 [名] 地文を研究する學問

地獄腹 [名] 女子のみを生む腹

地獄耳 [名] 聞きたる事を忘れたる耳

智惠袋 [名] 智惠に同じ

治安策 [名] 國を安らかに治むる策

持參金 [名] 婿又は嫁に實家より持來る金子

治罪法 [名] 犯罪を處置する法律

直支配 [名] 直接支配すること

中形 [名] 染模様の名、大と小との間の形

中腰 [名] 腰をなけば屈むること
中央 [名] たゞなか。まな
中葉 [名] なかごろ。中世
中學 [名] 小學と大學との間の學科
中間 [名] あひだ。なか
中空 [名] なかぞら
中軍 [名] 大將のぬる陣
中華 [名] 四方の夷狄に對して中央の開けたる國
中國 [名] 國の中央部。山陽山陰道の總稱
中食 [名] 晝飯

中興 [名] 世の衰へたるをならしむること
中心 [名] 心の中。中央
中暑 [名] 暑さあたり
中酒 [名] 飯を食ふ半に酒を飲むこと
中世 [名] 中ごろの世
中絶 [名] なかたゆること
中正 [名] かつたよらぬこと
中道 [名] 道の中程
中段 [名] なかのきざみ
中斷 [名] 眞中にて切るこ

中庭 [名] なかには
中等 [名] 上等と下等の間
中年 [名] 人の生立ざかりの稱
中毒 [名] 毒あたり
中肉 [名] 人體の肥えず瘦せず程のよき事
中腹 [名] 山の巔と麓との間
中庸 [名] 何れにも片寄らずして常にかわらぬこと
中立 [名] 何れにも片寄らずして居ること
中呂 [名] 陰曆四月の異名
中原 [名] 中國

中分 [名] 中程より分くること
中材 [名] 中等の材質
中和 [名] 程よくやはらぐこと
中暑 [名] 暑さにあてられること
中誠 [名] まごころ
重縁 [名] 親類縁家を重ねて縁組すること
重恩 [名] おもきめぐみ
重科 [名] おもき罪
重罪 [名] 重科に同じ
重言 [名] 言葉を重ねて使ふこと

重大 [名] おしくおほいなること
重譴 [名] おもきせめ
重腫 [名] 病名、足部の腫れるもの
重役 [名] おもき役
重代 [名] 先祖より代々傳へたること
重體 [名] 病の重き容體
重版 [名] 他人の出版せる書籍などを竊に翻刻すること
重創 [名] 重ききず
重心 [名] 理學の語、引力の集まるところ
重擔 [名] 重量の荷物

重任 [名] 重き役目
重物 [名] 大切なるもの
重服 [名] 忌服中に更に忌服を重ねたる事
住宅 [名] 住居の家
住居 [名] すみか
住所 [名] すみか。すまね
注連 [名] しめ。しめかざり
注目 [名] 目をつくること
注車 [名] 車にふふこと
注進 [名] 差起れる事を急ぎ上に告ぐる事

注射 [名] そそぎこむこと

消暑 [名] あつさあたり

註解 [名] 本文の解し難き處を註して説き明すこと

註文 [名] ものをあつらふること

忠諫 [名] 忠義の心を以て意見すること

忠勤 [名] 眞心を盡して職を行ふこと

忠言 [名] 忠義の言葉

忠勳 [名] 忠義の勳功

忠節 [名] 忠義のみさを

忠信 [名] 心の實を盡すと
言の實を行ふこと

忠告 [名] 實意を以て他の過失を告げ意見すること

忠心 [名] まことを盡す心

忠魂 [名] 忠義の心

忠恕 [名] まごころとおもひやり

忠貞 [名] 忠義と貞節と

忠烈 [名] 忠義のあつきこと

忠實 [名] 心のまめやかなること

忠勇 [名] 心のまめやかにていさむこと

忠誠 [名] 心のまめやかにまことあること

忠戦 [名] 忠義の戦

忠奮 [名] 忠義のいきどほり

忠肝 [名] 忠義の心

忠君 [名] 君に對して忠義の心を盡すこと

忠敢 [名] 忠義にてきんきこと

忠愛 [名] 眞心をこめて人を愛すること

忠悃 [名] 眞心を盡すこと

駐劄 [名] 外國にとどまりてゐること

駐在 [名] 駐劄に同じ

駐屯 [名] 兵士のとまり集ること

駐車 [名] 車をとどむること

駐輦 [名] 天子の行幸先に滞在をせらるること

駐軍 [名] 軍隊をとどむること

仲裁 [名] 他の争ひの間に和けしむること

誅戮 [名] 罪あるものを殺すこと

誅罰 [名] 殺しつみすること

誅伐 [名] 罪あるものを伐つこと

衷心 [名] 心の中

地震學 [名] 地震の事を研究する學問

重疊 [名] かさなりたたまること。事物の此上なきこと

徵集 [名] めしあつむること

徵收 [名] とりをさむること

長久 [名] ながくひさしきこと

注入 [名] つぎこむこと

長狹 [名] 長くてせまきこと

縮緬皺 [名] 老人の顔にしわみたること

力落 [名] 氣力を失ふこと

力競 [名] 力の強きを競ぶること

力任 [副] ある限りの力を出して

丁子引 [名] 唐紙などの染模様のこと

丁子染 [名] 染色の名、丁字にて染むるもの

丁丁 [副] 續きて物を打つ響にいふ語

丁子色 [名] 淡紅に黄を帯びたる染

提燈持 [名] 頼まれもせずのこと

救願 [名] 勅命の祈願

救諭 [名] みことり

救筆流 [名] 書體の一派

重賞 [名] 二度のおほめにあづかること

女丈夫 [名] をとこまさ

女禮式 [名] 女子の行ふべき禮式

直管 [名] 直轄に同じ

女學校 [名] 女子を教育する學校

長病 [名] ながわづらひ

長距離 [名] ながきへだ

長束流 [名] 馬術一流のの傳へしもの

長方形 [名] 四角に長き形

定命 [名] 佛教の語、定まりたる命數

聽官 [名] 五感の一、動物の耳に音聲を感ずること

聽神經 [名] 音聲を感ずる神經

頂上 [名] いたいき。この上なきこと

打擲 [名] 人を撃ちたたくこと

血腥 [名] 血のほひあり

直線形 [名] 直線のみに成れる圖形

直接法 [名] ありのまゝの動作を述る動詞の法

徵證 [名] 證據を立つること

徵憑 [名] 徵證に同じ

徵發令 [名] 徵發を行はる布令

徵兵令 [名] 徵兵に關する諸般の規則

徵兵適齡 [名] 男子のつくべき年齢

徵兵検査 [名] 兵役にきもの検査すること

鎮魁祭 [名] たましづめ二十日に執行す

鎮火祭 [名] ひぶせの祭

治外法權 [名] 外國に居るもの其國法に従はずして居らるる稱

茶飲話 [名] 茶を飲みながら話す事

茶摘歌 [名] 茶を摘みながら唱ふ歌

茶煎飾 [名] 茶の湯の立前の名

茶褐色 [名] 茶色の稍黒

着色 [名] いろつけ。いろ

着着 [副] 一歩一歩に。漸

懲役場 [名] 懲役人を入るるところ

懲戒法 [名] 官吏の過を懲戒するための法律

寵辱 [名] 愛せらるると、はづかしめらるると

貯蓄金 [名] ためたる金

痴話喧嘩 [名] 男女の痴情より起る争

長廣 [名] 長くて廣きこと

長上 [名] めうへ

長春 [名] 常に春なること

長大息 [名] ためいき

茶話會 [名] 同志の人集みながら談話すること

着順 [名] 集會の席などにたる順次

直取引 [名] 仲買の手を接し取引すること

直輸出 [名] 直接に外國へ輸出すること

直輸入 [名] 直接にわが國へ輸入すること

中位 [名] 中程。中通

中浣 [名] 中旬に同じ

中將 [名] 陸海軍の武官大將の下少將の上位

中略 [名] 中ほどの必要な
こと

中傷 [名] 間に居て他人の
名譽を傷ふこと

中外 [名] うちとそと
内國と外國と

中學校 [名] 中等教育を
施すところ

中二階 [名] 二階より低
高く作りたる室

中教正 [名] 神道教導職
の稱

重禁錮 [名] 法律の語禁
錮の重き者

重禁獄 [名] 法律の語、
禁獄の重き

重懲役 [名] 法律の語、
懲役の重き

重力 [名] 物理学の語地球
の諸體に及ぼす
引力

重病 [名] おもきやまひ

重重 [副] かされがされ

重賞 [名] 重き恩賞

重母音 [名] 母音と母音
と重なりた
る音

重量 [名] おもさ

衷情 [名] 心の中

註釋 [名] 本文のときわか
し

忠直 [名] まめやかにすな
はなること

【リ】

理 [名] ことわり。すぢみち
わけ

里 [名] 段別又は道程を數ふ
るに用ふる語

利 [名] 都合よきこと。戦に
勝つ事。まうけ利子

釐 [名] 尺度又は量目を示す
に用ふる語

呂 [名] 十二律の條を見よ

律 [名] 音樂の調子

厘 [名] 釐に同じ

痲 [名] 病名、男子の尿道の
病

戮 [名] 罪し殺すこと

陸 [名] くが。なか

利 [名] ためのよきやうにす
その物を他に利用す

吏道 [名] 朝鮮諺文の古き
もの

吏治 [名] 役人の治め方

吏務 [名] 役人のつとめ

利己 [名] おのれ一人の利
益を謀ること

利器 [名] するどききれも
の

利子 [名] 利息に同じ

理事 [名] 物事を處理する
こと

理非 [名] 道理の叶ふと、
叶はざると

俚耳 [名] 俗人の耳

兩 [接] 二つ相對する意を示
すに用ふる語

兩 [名] 兩目を數ふるに用ふ
る語

輛 [接] 車を數ふるに用ふる
語。

領 [名] 所領の地

領 [接] 鐘などを數ふるに用
ふる語

量 [名] 物の分量又は重量。
心の物事を受け容る
ること

糧 [名] かね

略 [名] はぶくこと

力 [名] 力の強き狀を示す。
おぼる

理論 [名] 物事の理を論じ
究むること

理髮 [名] 髪を結ぶこと轉
じて髪をかる事

理解 [名] 理を解きかたる
こと

理學 [名] 物理を究むる學
問

理想 [名] 心理學の語、總
概念

理詰 [名] 道理をのべて他
人を屈伏せしむ
ること

理窟 [名] すぢみち。條理
を言ひはること

理合 [名] わけみち。すぢ
みち

理財 [名] 金錢の用ひ方を
取締ること

理由 [名] わけがら

理性りせい〔名〕心理学の語完全構成する能力なる最高概念を

離杯りはい〔名〕わかれのさかづき

離別りべつ〔名〕人と別れること

離屋りおく〔名〕はなれや。ひとつや

離間りかん〔名〕仲をさくこと

離隔りかく〔名〕間をはなし隔つること

離解りかい〔名〕ばらばらにほこすこと

離婚りこん〔名〕夫婦などの間の縁を絶つこと

離魂りこん〔名〕死者のおもかげ

離合りがふ〔名〕離るると合ふと

離縁りえん〔名〕夫婦などの縁を絶つこと

離筵りえん〔名〕わかれの酒もり

離散りさん〔名〕はなればなれになること

離居りきよ〔名〕はなればなれに住むこと

離絶りぜつ〔名〕交際を絶つこと

利發りはつ〔名〕かしこきこと

利倍りばい〔名〕利息に又利息を生ずること

利得りとく〔名〕まうけ

利鈍りどん〔名〕するどきとにぶとおろかなること

利導りだう〔名〕よきにもちびくこと

利方りかた〔名〕ためになるほうとくのあるかた

利害りがい〔名〕利と害と

利用りよう〔名〕利益になるやうに用ふること

利慾りよく〔名〕物をほしがり貪ること

利達りたつ〔名〕出世。立身

利息りそく〔名〕貸付たる元金に對する報酬の金

利運りうん〔名〕利益を得る運命

利益りやく〔名〕神佛より授かる利

利權りけん〔名〕權利に同じ

利分りぶん〔名〕利益となる分

利口りこう〔名〕巧みに物言ふこと。かしこき心

利根りこん〔名〕かしこき心

利益りえき〔名〕まうけ

利上りあけ〔名〕利息を高くすること

利金りきん〔名〕利息の金。利益の金

利水りすい〔名〕水の通路をよくすること

律儀りつぎ〔名〕堅く儀理を守ること

律師りつし〔名〕僧の官名

釐正りせい〔名〕あらためただすこと

釐革りかく〔名〕あらたむること

旅費りょひ〔名〕旅路の入費

履端りふたん〔名〕陰曆正月元旦の異稱

履歴りふれき〔名〕人の今まで履み來れる事柄

履行りふかう〔名〕法の如く執り行ふこと

里俗りぞく〔名〕さとのならはし

里落りらく〔名〕さと。むら

里程りてい〔名〕道のり

里數りすう〔名〕みちのり

立派りつぱ〔名〕いかめしくみことなること

立意りつい〔名〕下組を工夫すること

立志りつし〔名〕志をたつること

林区りんく〔名〕全国の官林をあつらふに分ちたる區域

隣家りんか〔名〕となりの家

隣地りんち〔名〕となりの地面

隣里りんり〔名〕となりむら

臨池りんち〔名〕手習の異名

臨時りんじ〔名〕その時に臨みたること

臨機りんき〔名〕その時のはづみ

輪廻りんえ〔名〕佛教の語、生死を轉變すること

淋漓りんり〔名〕水又は血などの滴る状にいふ語

輪坐 [名] くるまざ

倫理 [名] 人倫の道

悋氣 [名] 夫婦の間のそれ

綸旨 [名] みことのりのむ

鱗次 [名] 家屋などの鱗のごとく積ること

稟賦 [名] うまれつき

稟議 [名] 上へ申しあぐる

陸離 [名] きらめきて立派なるさまにいふ

俚言 [名] その地方のなま

俚諺 [名] 卑近なることわ

梨園 [名] なしげたけ。また俳優の異名

罹災 [名] 火事などの災難に罹ること

裏面 [名] うらかた。うら

吏胥 [名] 役人

鯉書 [名] 手紙

流儀 [名] 藝術に特にその家その人の立て

流矢 [名] ながれや。それ

流離 [名] さすらふこと

流派 [名] 流儀のわかれ

流亞 [名] たぐひ。なま

流播 [名] 天皇の出奔し給ふこと

留意 [名] きをとむること

留置 [名] とめおくこと

留侍 [名] 留まりてその人の側に侍ること

柳眉 [名] 美人の眉を稱する語

領 [名] わがものとす。承知

里長 [名] むらなさ。なぬ

理學士 [名] 理科大學を卒業したるもの學位

兩刃 [名] もろは

鱗集 [名] うろこの如く集まること

兩目 [名] 兩に同じ

量目 [名] たばかりめ。めか

陵遲 [名] 道の衰へすたる

陵夷 [名] 世の衰ふること

凌駕 [名] しのぎこゆるこ

凌侮 [名] しのぎあなどる

旅行 [名] たびだちするこ

旅寓 [名] たびやどり

旅裝 [名] たびじたく

旅舎 [名] はたごや。やど

旅泊 [名] たびのやどり

旅用 [名] 旅費に同じ

旅團 [名] 軍隊の組織の名

閭閻 [名] むらざと

閭巷 [名] うらまち

稜威 [名] ほいつ。鋭きいき

良家 [名] 身分ある家柄

良時 [名] よきとき

良圖 [名] よきはかりごと

良否 [名] よきと、よからざると

良知 [名] 人の生れながらを辨別し得る力

良夜 [名] 中秋の夜の稱

良規 [名] よき規則

良輔 [名] よきたすけ

良史 [名] よき歴史家

兩度 [名] ふたたび

兩家 [名] かなたこなたの家

兩可 [名] ふたつながらよ

兩岐 [名] ふたみち

兩部 [名] ふたつの部分

兩夜 [名] ふたばん

領事 [名] 通商條約國の開港場に駐在する官の名

立姓 [名] うまれつきのこと

立案 [名] 文章などの下組を工夫すること

立君 [名] 君を立つること

立花 [名] 花をいけること

立身 [名] 身の世に立つこと

立后 [名] 公式によりて皇太后宮を冊立したまふこと

立憲 [名] 憲法を立つること

立談 [名] 立ちながらに話をすること

立方 [名] 方形にして高、長、厚さの皆同じ寸法なるもの

立法 [名] 法律を定め立つこと

立腹 [名] はらだつこと

立論 [名] 議論の順序を立てること

立禮 [名] 起立して行ふ禮式

立國 [名] 國を立つること

立言 [名] 辭句を組みたつること

立談 [名] たちばなし

律法 [名] おきての規則

律令 [名] おきての法律

律呂 [名] 音樂の調子の名

慄然 [副] わななくさまにいふ。ふるふる

慄烈 [名] 陰曆十二月の稱

隣室 [名] となりさしき

隣接 [名] となりあひて續くこと

隣保 [名] となりの家家

隣屋 [名] となりの家

隣好 [名] となりぐにのよしみ

隣交 [名] となりぐにのまじはり

臨幸 [名] 天皇の行幸あり給ふこと

臨監 [名] その場に立ち合ひて監督すること

臨席 [名] その席に臨むこと

臨産 [名] 産に臨むこと

臨檢 [名] その場に臨みて取調ぶること

臨本 [名] 手木を見ながら書を習ふこと

臨瞰 [名] みおろすこと

臨馭 [名] 位に臨みて民を治めたまふこと

輪講 [名] 順番に書物などを講釋すること

輪番 [名] まはりばん

輪勤 [名] まはりづとめ

輪困 [名] まがりくれること

輪讀 [名] 順番に書物を讀むこと

輪伐 [名] ここの林にて木をかはるること

輪轉 [名] ぐるぐるまはること

輪姦 [名] 順番に女子を姦すること

綸言 [名] 天皇のおほせこと

綸命 [名] 天皇のおほせつけ

釐毛 [名] わづかなること

林間 [名] はやしのあひだ

林立 [名] 林のごとく立ち並ぶ

林際 [名] 林のあたり

稟性 [名] うまれつき

悋惜 [名] ものをしみ

凛然 [副] 身にするどく感ずる状にいふ語

凛烈 [名] 寒氣のげしき状にいふ語

凛凛 [副] 凛然に同じ

隣隣 [副] 車なきしる音の形容にいふ語

倫道 [名] 倫理に同じ

陸揚 [名] 船の積荷を陸へあげること

陸軍 (名) 陸上の備とする軍隊

陸運 (名) 貨物などを陸地の上にて運ぶこと

陸行 (名) 陸地を行くこと

陸戦 (名) 陸地のたたかひ

陸績 (副) 引きつづきて。たえまなく

陸沈 (名) 徳をかくして俗塵の間にかくれ居ること

六軍 (名) 天子の率ゐ給ふ軍勢の稱

六花 (名) 雪の異名

六畜 (名) 人の家に畜ふべき六種の畜類

理會 (名) 道理を會得すること

理外 (名) 道理の外

畧儀 (名) はぶきたる儀式

畧語 (名) はぶきたる言葉

略字 (名) 畫をはぶきたる文字

理不盡 (名) 理を犯しててごめ

利潤 (名) まうけ

利生 (名) 佛教の語。衆生に利益をあたふること

留學 (名) 外國に在留して學問すること

留別 (名) 旅立つ人の後に告ぐること

留滯 (名) 物事のとどこほること

留成 (名) 留まりてまもること

流行 (名) 世に行はるること

流汗 (名) ながるるあせ

流寓 (名) さすらひて他郷に住むこと

流言 (名) いひふらすこと

流弊 (名) 悪しきならばし

流通 (名) ながれかよふこと。用ひ行はるること

流用 (名) 融通して用ふる

流説 (名) 無根の風説

流例 (名) しきたり

流連 (名) 遊びつづくること

流變 (名) 風變れる流儀

流澤 (名) めぐみなさけ

流啜 (名) 汁の類をすすること

流俗 (名) 世のならばし

流竄 (名) シマナガシに同じ

流傳 (名) 世にひろまること

流覽 (名) 他人に見すること

流亡 (名) 流失(リウシツ)なげれうすること

流憩 (名) あちらこちらに休むこと

流落 (名) おちぶるること

流滴 (名) しまながし

流年 (名) くれゆく年月

流風 (名) 後世に傳はれるよき風儀

柳卷 (名) いろざと

柳黛 (名) 美人の眉を形容していふ語

柳腰 (名) 美人の腰の細きを形容していふ

兩端 (名) 兩方にはしあること

兩替 (名) 金銀、紙幣などを錢に替ふること

兩口 (名) 口のふたつあること

兩間 (名) ふたつの間天と地との間

兩全 (名) ふたつながら全きこと

兩性 (名) 男性と女性と

兩面 (名) ふたつのおもて表と裏と

兩便 (名) 双方の便利。大便と小便と

兩方 (名) ふたつの事物。

兩人 (名) ふたり

兩頭 (名) ふたつのかしら。本末の端。兩端

兩得 (名) 一時に二様の利を得ること。双方共に利を得ること

兩端 りやうたん [名] ふたつのはし。二心を抱くこと。
兩眼 りやうがん [名] ふたつのまなこ。
兩軍 りやうぐん [名] 敵と味方との軍勢。
兩造 りやうぞう [名] 法律の語、原告被告の總稱。
兩舌 りやうせつ [名] 二枚舌をつかふこと。
兩邊 りやうへん [名] 兩方のはし。かなたとこなたと。
兩斷 りやうだん [名] ふたつにたちきること。
兩宗 りやうそう [名] 兩家。
兩敵 りやうてき [名] ふたつの敵。
兩首 りやうしゆ [名] ふたつのかしら。

兩國 りやうごく [名] ふたつのくに。
兩列 りやうれつ [名] ふたかた。
兩損 りやうそん [名] 兩方共に損になること。
兩屬 りやうぞく [名] 双方につくこと。
兩稅 りやうぜい [名] 二度の税。
兩岸 りやうがん [名] あなたこなたの岸。
兩統 りやうとう [名] 兩方のちすぢ。
兩失 りやうしつ [名] ふたつながら損すること。
良人 りやうじん [名] 妻より夫を稱する語。
良辰 りやうしん [名] よき日。

良心 りやうしん [名] 物事の善惡を辨別する心。
良縁 りやうえん [名] ふさばしき縁。
良能 りやうのう [名] 生れながらにしてよく事をなし得る力。
良謀 りやうぼう [名] よきばかりごと。
良品 りやうひん [名] よきしな。
良弼 りやうひつ [名] よきたすけ。
良國 りやうこく [名] よき國。富みたる國。
良策 りやうさく [名] よきばかりごと。
良好 りやうから [名] よきこと。
良善 りやうぜん [名] よきこと。

良法 りやうぽう [名] よきしかた。
良質 りやうしつ [名] よきたち、よき性質。
良計 りやうけい [名] よきばかりごと。
良箴 りやうせん [名] よきいましめ。
良姻 りやういん [名] ふさばしき縁組。
領格 りやうかく [名] 名詞、代名詞の所屬をいひあらはす格。
領取 りやうしゆ [名] うけさること。
領諾 りやうだく [名] 承知すること。
領内 りやうない [名] 領分地のうち。
領納 りやうなふ [名] うけをさめること。

領有 りやういう [名] わがものご占むること。
領手 りやうしゆ [名] うけさること。
領得 りやうとく [名] うけさること。
領聖 りやうせい [名] 希臘教にて聖餐を受くること。
領洗 りやうせん [名] 基督教にて洗禮を受くること。
領受 りやうじゆ [名] うけとること。
領縁 りやうえん [名] 衣服のえり。
諒察 りやうさつ [名] 思ひやること。
諒恕 りやうじゆ [名] 思ひやりてゆるすこと。
涼德 りやうとく [名] うすきとく。

亮然 りやうぜん [副] あきらかに。
龍質 りやうしつ [名] よきうまれつき。
龍潜 りやうせん [名] 天皇の未だ世に出でなまぬこと。
龍蟠 りやうばん [名] 龍のわだかまること。
凌晨 りやうしん [名] あけがた。
凌轍 りやうれき [名] ふみつけにすること。
凌犯 りやうはん [名] しのぎおかすこと。
掠奪 りやうだつ [名] かすめ奪ふこと。
掠取 りやうしゆ [名] かすめとる。
掠焚 りやうはん [名] 物をかすめ、家をやく。

旅宿 [名] たびのやどり
旅中 [名] たびしてあるく
旅情 [名] 旅中のこころも
旅況 [名] たびのやうす
旅愁 [名] たびのうれひ
旅懐 [名] たびのおもひ
縁蔭 [名] 繁りたる木の
慮外 [名] おもひの外。ぶ
慮獲 [名] いけどり。とり
慮掠 [名] 人をとらへ物をかすむること

力作 [名] はたらくこと
力耕 [名] ほれをりて耕す
力役 [名] ちからしごとを
力戦 [名] 力かぎりに戦ふ
力争 [名] つとめ争ふこと
力諫 [名] 骨をりて諫むる
力請 [名] おしてれがふこ
力拒 [名] つとめてふせぐ
力言 [名] 骨折りて言ひは
力守 [名] ほれをりてまも

力闘 [名] 骨をりて闘ふこ
力学 [名] つとめて學ぶこ
力攻 [名] 骨をりて攻むる
利息算 [名] 數學の語、
 算法
立食 [名] 飲食物を卓上に
 みに従ひ食ふにまかすこと
立願 [名] 神佛へ對して願
 だてをすること
林響 [名] やまびこ。こだ
林中 [名] はやしのかなか
林表 [名] はやしのあたり

倫常 [名] 五倫五常の道
輪直 [名] 輪番の宿直
輪會 [名] めぐりあふこと
輪奐 [名] 建築の宏大壯麗
輪廓 [名] まはりのすぢ。
 かこみの線
輪回 [名] めぐりまはるこ
臨終 [名] 死に臨む時。い
臨場 [名] その場に臨むこ
臨時祭 [名] 時に臨みて
 の祭
吝嗇 [名] ものをしみする

悖氣講 [名] 下賤なる下
 のもし講の如きもの
倫理學 [名] 人の道を講
 究する學問
理屈詰 [名] 道理にてお
 しつむること
陸梁 [名] くるひはしるこ
 とあれまはると
戮力 [名] 力をあはするこ
 と
戮辱 [名] はづかしむるこ
略言 [名] あらましをいふ
略式 [名] はぶきたる儀式
略取 [名] ものをかすめと
略奪 [名] かすめとること

略文 [名] 文章の文句を省
略賣 [名] かどばかし
略叙 [名] あらましののぶ
略有 [名] 土地を攻め取る
略則 [名] あらましの規則
略定 [名] 土地をきり従ふ
理財學 [名] 理財のこと
 學問
力量 [名] 力のほど
龍顏 [名] 天皇の御顏
隆運 [名] 運よくてさかり
 なること

隆盛 [名] さかりなること
隆興 [名] さかりにおこること
隆替 [名] さかゆると、おとろふると
隆旺 [名] さかりなること
隆渥 [名] さかりにあつきこと
隆遇 [名] あつきもてなし
流會 [名] 集會を催さんと約して都合により中止すること
流亮 [名] 音聲の清く明らかなること
流丸 [名] それだま
流出 [名] 流れ出づること

流注 [名] ながしそそぐこと
流暢 [名] 詩文などの句調が滞らぬこと
留置所 [名] 警察署などに人を留め置くところ
立願 [名] 神佛に祈願すること
粒食 [名] 米を食ふこと
領收 [名] うけとること
力業 [名] ちからわざ
力求 [名] おしてもとめること
理髮職 [名] 髪を結び又斬る

理學博士 [名] 理學に人の文部大臣より受くる學位
領承 [名] 承知すること
領掌 [名] うけとること
領會 [名] 合點すること
領略 [名] しめくくること
力食 [名] かせぎて食ふこと
龍鐘 [名] おいぼくること
兩天秤 [名] 物事を處するに兩方に手をつけおくこと
立法權 [名] 天皇陛下に制定の大權

立錐地 [名] 錐を立つるかなる場所
立君政體 [名] 君を立てて國の主皇とする政治のたてかた
立憲政體 [名] 憲法を立てて一國を治むる政治のたてかた
立脚地 [名] おのが身を立つる位置
臨機應變 [名] 場合をらひて様々の方法を設くること
略述 [名] あらましたのぶりやくめい
略名詞 [名] 文法上の語の語尾の省かれて名詞となれるもの

略掠 [名] かすめとること
離心力 [名] 理學の語、の中心を離れ去らんとする力
塗 [名] 塗ること。塗りたる状態
塗 [他] 物の廻に擦る。負はす
濡 [自] 水にしみる
糠 [接] 極めて少なき意を示すに用ふる語
拔 [他] 引き出す。擇び出し。勝れ出づ(自)
貫 [自] とほる。行き過ぐ

脱 [自] 漏る。數少なくなる。消え失す組をはなる
脱 [他] 取り放す。除け捨つ
縫 [他] 針にて布帛を刺しつづる。物と物との間を縫る
鷄 [接] 異體にてよく調はぬ意を示すに用ふる語
主 [他] 藝妓などのなじみ客を呼ぶに用ふる語
主 [接] 人の性又は名に添へて敬意をあらはすに用ふる語
縫 [名] ぬふこと。ぬひもの
拔 [他] もらす。おとす
吐 [自] 物をいふ

脱 (名) おちど。そこなひ
濡 (他) ぬれしむ。うるほす
温 (形) あたたかしに同じ
滑 (名) なめらかなること。
滑 (自) なめらか也。すべる
盗 (名) 物をぬすむこと
盗 (他) ひそかに物を奪ふ。人目を忍びてひそか
微温 (形) 温度低し。なま
遅鈍 (形) 心鈍し。おろか
泥濘 (名) 泥ふかき土地

布目 (名) 布の織目のあや
脱毛 (名) ぬけおちたる毛
脱字 (名) 寫し落したる字
脱目 (名) もれて落ちたる
拔手 (名) 水練の一種のわ
縫目 (名) ぬい合せたる
抽 (自) ひいづ。拔群なり
擢 (他) 擇り抜きて擧げ用ふ
温 (自) あたたまる
塗物 (名) 漆にて塗りたる

塗立 (他) ぬり飾る。奇麗
塗付 (他) ぬり着く。わ
塗下 (名) 漆をぬる下地
叩頭 (自) 額を地に突きて
轉顛 (自) うねりころがる
濡事 (名) 歌舞妓に男女の
濡色 (名) 水にぬれひたり
滑滑 (副) なめらかに。ぬ
布引 (名) 麻布をさらさん
脱出 (自) ひそかに家を出

拔出 (自) 自然とゆるみて
拔驅 (名) 戦争などの時窃
拔物 (名) ぬき奪ひたる品
拔足 (名) 足首の人に聞え
拔撃 (名) 刀を抜く手のま
拔書 (名) 他書より抜き出
拔差 (名) 抜き出すと差し
拔棄 (他) 抜きて去る
拔取 (他) ひきぬきて取る

拔連 (他) 大勢等しく刀を
脱棄 (他) ぬき去る
縫代 (名) ぬふべき部分
縫込 (他) 深くぬふ
縫接 (他) 縫ひてつぎ合す
濡透 (自) 水、しみとほる
布晒 (名) 布を洗ひて日に
脱参 (名) 窃かに家を出て
脱集 (他) 多くの物の中よ
拔合 (他) 敵の刀を抜きた
直ちに刀を抜く

拔翳 (他) 刀を抜きて頭の
拔放 (他) 刀などを鞘より
貫通 (他) つらぬき通す
抽出 (他) ひきぬきて出す
縫模様 (名) 縫ひてつけ
竊聞 (名) ひそかにたちぎ
竊書 (名) 窃かに書物ほど
竊物 (名) 盗み取りたるも
盗取 (他) ぬすむに同じ
盗食 (名) 窃かに食物を盗

塗繕 [他] 塗物の損處を更に漆をかけてつくるふ

盗人根情 [名] 盗人め心根

【る】

縷 [名] いとすぢ

類 [名] たぐひ。ともがら。一家の親族

壘 [名] とりで

誄 [名] 文章の一體。人の死行狀を述ぶるもの

瑠璃 [名] 佛教の語。玉の類

縷縷 [副] つぶさに。こま

流布 [名] 世間に弘まること

留守 [名] 他行して家に居らぬこと

類 [自] 似かよふ。似よる

類似 [名] 似よりたること

類句 [名] 和歌を下の句の類字の音に従ひて分ち集めたるもの

類歌 [名] 似よりの歌

類字 [名] 似よりたる字

類忌 [名] 親類の法事

類派 [名] 同種類の中にてすこし異なること

累座 [名] まきぞへ。ひきあひ

累祖 [名] 代々の先祖

累次 [名] しばしば

累騎 [名] しりうまにのること

流浪 [名] さすらふること

流刑 [名] 流罪に同じ

流轉 [名] 佛教の語。生きりすること

流罪 [名] 罪人がある地へ移らしめざること

縷陳 [名] くはしく述べたこと

縷說 [名] 縷述に同じ

縷數 [名] 一に數へたつること

留守居 [名] 主人他出のて居ること

【四】
類分 [名] 類によりて別つこと

類例 [名] 同じたぐひの先例

類別 [名] 類によりて別つこと

類題 [名] 和歌をその題によりて類別したるもの

類聚 [名] 類によりて別ち聚むること

類典 [名] 似寄りたる法事

類說 [名] 似よりたる説

類火 [名] 類焼に同じ

類化 [名] 心理學の語。舊觀念を得ること

類推 [名] 似よりたる種類を推し計ること

類燒 [名] 火を出したる家と共に焼くる事

類纂 [名] 類の同じきをあつむること

累滅 [名] 種類の悉く滅ぶること

累世 [名] 世世代代

累年 [名] 年年の連年

累遷 [名] 遷り進むこと

累功 [名] しきりに功をたつること

累拜 [名] しきりに官職の進むこと

累積 [名] つみかさねること

累累 [副] かさなりあひて

累恨 [名] かさなるうらみ

累捷 [名] しきりに戦に勝つこと

累朝 [名] 世世の朝廷

涙痕 [名] なみだのあと

縷緼 [名] 繩目にかかること

羸瘦 [名] やせおとろへたること

羸憊 (名) つかれよぼるこ

羸卒 (名) つかれたる兵卒

流注 (名) 腫物の名。深く肉の中に發す者

瑠璃色 (名) 紺色の光澤つよく美しきもの

瑠璃紺 (名) 瑠璃色に同

留 (接) 魯西亞にて銀貨を數ふるに用ゆる語。一留は凡そ我七十五錢

縷述 (名) くぼしく述べたること

類中 (名) 親類中

類病 (名) 似よりたる病

類症 (名) 類病に同じ

類證 (名) 似寄りたる證據

羸弱 (名) つかれて弱きこ

涙管 (名) 醫學の語。涙を送る管

留守職 (名) 留守居に同

留守仕事 (名) 留守のる仕事

【を お】

緒 (名) 物事の長きつづき

唯 (感) 應答の聲

御 (接) 物事に被らせて尊びいふ語

小 (接) 小き細かき又は少しに用ふる語

唯 (感) を(唯)の聲を延びたるもの

大 (接) 形又は度の大なることを示す語

音 (名) 物の動くによりて起ゆるもの。おとづれ

乙 (接) 次なる。末なる。幼きなどの意を示す語

落 (名) おつること

折 (名) 折ること。その場に當る時。ころ

折 (接) 折箱を數ふるに用ふる語。物を折重ぬる數を示す語

折 (他) かがむ。たたみ重ね

居 (自) その處にあり。動かすしてあり

織 (他) 機にて糸をたてぬきして布帛などを作る

下 (自) 下へ行く。くだる。凝りて形を作る

傍 (接) その物に關係せずわきに離れてあるとの意を示すに用ふる語

己 (二) いわれ(下輩に對して)

乙 (名) きのこと。常に異なること

落 (自) 降る。残る。はまる。脱く。死ぬ。衰ふ。去る。極

怖 (自) おそる。ひるむ

我 (名) ヲレの轉訛

雄 (名) ナスはいふ(俗語)

御 (接) 他の語に添へて敬意を示す語

恩 (名) いくしみ。めぐみ

音 (名) こと。おと。音調に同じ

己 (名) オノレに同じ

置 (他) 据う。はぶく。豫め用意す。養ふ。へだつ

起 (自) 倒れたるものが立ち上る。寢所より出づ

奥 (名) 貴人の妻を稱する語

億 (名) 數の限りなく多きこと

終 (他) 果す。済ます。遂ぐ。極めつくす

追 (他) あとにつきて急ぎ行く

負 (他) 脊にのす。せおふ。身に引き受く

生 (自) はゆ。生ず

帶 (他) 腰の邊につけて下ぐ含む。身に引き受く

起 (名) 花合の語。花札をいへしてそのあらはれたるもの

置 (名) のぞくこと。中に隔つること

老 (自) 年よる。年をとる

惜 (形) 捨て難し。捨つること

押 (名) おすこと

押 (他) つきやる。つき進む。印をたく

推 (他) いたたく。強ふ。敢て爲す。なすらふ

壓 (他) しひたぐ。勢をもて他をふせぐ

嗚呼 (名) ばかげたること

旨 (形) うまし。味よし

於 (接) それにつきて。そのばにて。それがため。

愚 (名) 智力乏しきことの稱

卸 (他) 問屋より請賣人に賣渡す。おろす

下 (名) おろすこと。下にやること

終 (名) はて。しまひ。死ぬること

終 (自) 限りとなる。みまか

覺 (自) おもはる。わすれず。さとする

覺 (名) おぼゆること

大 (接) おほいなる。いかめしき

多 (形) すくなからず。たくさんなり

果 (他) はたす。遂ぐ

仰 (他) いひつくの敬語

仰 (名) おほすること。いひつけ

覆 (名) おほふもの。おほふこと

覆 (他) 上よりかうむらす。かぶらす。包み隠す

溺 (自) 水に沈む。深くはま

臚 (名) 薄くもること

踊 (名) 飛びはねること。身を舉げて上る

踊 (自) 飛びあがる。身を舉げて上る。踊をなす

嚇 (名) おどすこと。恐れしむること

落 (名) 下へやる。洩らす。心付かず失ふ

劣 (自) 品下る。優らず

拜 (自) 合掌して禮をなす

犯 (他) 爲すべからざることを強ひてなす

凡 (副) おほかた。たいがい

及 (接) ならびに。およぶ

泳 (自) 水上に浮びて行く

遅 (形) 早からず。速いならす

鈍 (他) にぶし

襲 (他) 攻めかき。俄かにかされぎす。俄かに攻めかき

恐 (自) 勝ちがたしと見て心弱くある。あやぶむたみいる

臆 (自) おぢ畏る。氣後れす

起 (他) 倒れたるを立つ。ねむりさます

起 (名) おこること。はじめ

熾 (他) 炭火の氣を盛ならしむ

怒 (自) 腹だつ

抑 (他) おしつく。堪え忍ぶ。つとむ。ふせぐ

掟 (名) おふれ。法律

教 (他) しらざることを告げらす

愛 (他) いつくしむ

惜 (他) 捨てがたく思ふ

怯 (名) おびゆること

誘 (他) だましてさそふ

重 (形) 目方多し。貴し。甚たし。たやすからず

重 (自) おもくなる。烈しくなる

面 (名) かけ。めん

表 (名) そとつら。そとがは
主 (副) 主として。むねに。
思 (名) おもふこと。かんがへ。うれふること
思 (他) 心はたらく。いつくしむ。したふ
御出 (名) 出づこと又は居ることの敬語
御家 (名) 他人の家を敬ひていふ語
御入 (名) 入り来ること
御座 (自) 居るの敬語
御針 (名) たちねひのわざ
御主 (名) そなた。おまへ

御蔭 (名) たすけ
御立 (名) 人の出立することの敬語
御禮 (名) 禮することの敬語
御成 (名) 貴人の出で行くこと又は来ること
御中 (名) 腹(婦人の語)
御身 (名) おもと。きみ
御觸 (名) おほやけよりふれしらすこと
御先 (名) 人の手先きに使はるものをあざけりていふ語
御下 (名) 女のさげ髪の稱

大都 (副) おほよそ。たいがい
大手 (名) 両手を左右に廣く張ること
大目 (名) 二百匁を一斤とせるものの稱
大家 (名) おもや。店子より大家を稱する語
滑稽 (名) おどくること。たはむれ
落度 (名) あやまち。やり
怖氣 (名) 恐るる心
落間 (名) 家の内の床の一段低きところ
落日 (名) おちぶれかかる

折句 (名) 和歌の一體
折目 (名) 物を折りたる處。禮儀作法
折目 (名) 折れたるところ
織地 (名) 織物のしたち
織目 (名) 織物の織りたるすぢめ
雄雄 (形) 男らし。いさま
傍見 (名) 他人の所作を傍にて見てゐる事
阿龜 (名) 醜女を罵りていふ語
惡熱 (名) 惡寒の後に發する熱氣
惡寒 (名) さむけ立つこと

煽動 (名) おだつること
煽動 (他) そのつかす。さそひたつ
汚物 (名) よごれたるもの稱
汚濁 (名) けがれよごるること
汚俗 (名) けがれたるならはし
追手 (名) 罪人などを捕へんとて出で立つ役人
追而 (副) 遠からず。後よ
越訴 (名) 訴ふべき順序を越へ出づること
男波 (名) 岸邊に打寄する波の高きを男波の稱
低きを女波といふ

音符 (名) 音樂上の聲音を表示する記號
音義 (名) 語の音と義と
音頭 (身) 數人にて歌ふ時一人先づ聲を發して調子を示すこと
音吐 (名) 聲の出かた
恩顧 (名) めぐみを蒙ること
恩義 (名) 恩に報ゆべき義あること
恩賜 (名) めぐまれ賜ふこと
恩威 (名) 恩と威光と
溫雅 (名) 穩かに正しきこと。しとやかなること

温氣 [名] あたたみ
温故 [名] 故き事からを尋ね知る事
温和 [名] あたたかにやはらぎたること
温語 [名] やさしきことば
温度 [名] あつさの程あひ
遠流 [名] 古の刑の名。流罪の最も重き者
男子 [名] をとこ。郎黨
奥意 [名] 心の底。奥儀
奥儀 [名] 藝術などの奥深きすぢ。奥の深
屋宇 [名] 家

小止 [名] 雨、風などの少しやむこと
小山 [名] 芝居にて女形の稱。遊め。遊女の親と子と
親子 [名] 親と子と
親御 [名] 人の親を敬ひていふ語
御前 [名] 貴人のすわりて居る所の敬語
御座 [名] 有り又居るの敬語
御越 [名] 行くこと來ることの敬語
於爨 [名] 下女。下婢
叫喚 [名] 大聲を發して叫ぶ
汚名 [名] けがれたる名

負債 [名] 金銭を借りて返すべき責を負ふ
追風 [名] おひかぜに同じ
應急 [名] 急變に應ずること
母屋 [名] 家の中央の座敷の稱。専ら住居する家
重傷 [名] 深き創
重荷 [名] 目方の重き荷
御許 [代] 女の對稱に用ふる語
音調 [名] こゑしらべ。音の調子
溫柔 [名] おだやかなること
温習 [名] さらひをする

大 [副] 甚しく。いたく
大 [形] ふとし。いかめし
大 [副] 甚だ。したたか
老 [名] 老ひて聲の嘎れたること
老 [名] 老人になる
老 [名] 老ひて衰へはつ
老 [名] 老人の議論がまじきことをいふ
老 [名] 老ひ極まる
老 [名] 次第に老ゆ
御出 [名] 來る。去る。居る。等の敬語

卸値 [名] 卸賣と同じ値にて賣ること
鬼飲 [名] 酒の毒みをする
鬼絞 [名] あらくしぼりたるもぢ形の稱
大息 [名] ためいき
大足 [名] 足と足との間をひろげて歩む事
大穴 [名] 大きな穴。大きな損耗
大荒 [名] 甚だしく荒るる
大入 [名] 興行場に見物の多くあること
大襟 [名] 襟を廣くあけて断つこと。大き
大形 [副] 大抵。おしなべて。あらし

大形 [名] すべて形の大なるもの
大柄 [名] 形の普通のものより大なること
大幅 [名] 織物などの幅の廣きもの
大切 [名] 物を大きく切り分つこと。芝居などのおほづめ
大紵 [名] 衣服をあらあらしくくけること
大口 [名] 口を大きく開く。言葉を憚らす發すること
大食 [名] 物を多く食ふこと
大聲 [名] 大なる聲
大事 [名] 大なることから

大袈裟 [名] ぎやうさん
に。たいさん

大酒 [名] と
多く酒を飲むこ

大勢 [名] あまたの人

大空 [名] そらをその大な
るにつきていふ

大詰 [名] 芝居の語、大切

大年 [名] おつつもこり

大得 [名] 大なる得分

大損 [名] 大なる損毛

大波 [名] 大なる波

大西 [名] 十一月十二月頃
に吹く風(船人

大風 [名] たかぶりたるさ

大降 [名] 雨、雪などの甚

大前 [名] 神佛の前を敬ひ

大水 [名] 霖雨などにて川
れて降地を浸すこと

大村 [名] 戸数の多くある

大目 [副] ゆるやかに。寛

大本 [名] 第一のもと

大門 [名] おもてもん

大森 [名] 物のもり方の多

大様 [副] おほかた。あら

大率 [副] あらまし。おほ

大凡 [副] おほかた。たい

公 [名] 私ならぬこと

臆 [副] はきとせず。さだか

諂諛 [名] へつらひて物を

一昨日 [名] 一日へだた

嚇 [他] オドスに同じ

音沙汰 [名] たより。お

弟月 [名] 陰曆十二月の稱

訪 [自] オトナウ。みまふ。た

大人氣 [名] 大人らしき

穩順 [名] さわがしからず

驚 [自] びつくりす

衰 [自] 勢減りゆく。次第に

遠近 [名] あちらこちら

落合 [自] 共に同所にて出

落落 [副] おちつきて。安

落込 [自] おちいる。はま

落口 [名] おちはじめ

落着 [自] 居着く。あまる。

落行 [自] 逃げ行く。成り

陷 [自] おちて中央に入る。

怖怖 [副] 怖ぢながら。お

零落 [自] さすらふ。貧し

汚濁 [名] けがれよごるる

折善 [副] まひやうしよく

折折 [名] たりふし。とき

折節 [副] たりもなりとて

折曲 [他] をりて曲らしむ

折柄 [副] をりもなりとて

折入 [自] 深く心を盡す

折込 [他] 折るを強めてい

居合 [名] をりあふこと

居合 [自] 中よくなる。や

織色 [名] 染色にて織れる

織元 [名] 機織のほんもと

下口 [名] 堂又は階段など